

1. 緒言

平成20年度に採択された大学評価研究委託事業「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」の事業を展開し、成果を得たのでここに報告する。

我が国の歯学教育の現状を憂える声は多い。理由は様々あるが、歯科医師養成機関である歯科大学・大学歯学部が教育力が低下していることがひとつの大きな原因であることは間違いない。教育力の評価として歯科医師国家試験合格率をひとつの尺度とするのは当然であるが、それは大学の持つ教育力評価の中のわずかでしかないと思われる。

平成20年7月に歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議が設置され、歯学教育に関して様々な角度から検討を加えている。歯科医師養成に関する課題、教育者・研究者養成に関する課題、倫理教育・コミュニケーション教育に関する課題、臨床実習に関する課題、臨床研修に関する課題、国外歯学教育との比較に課題などであるが、平成21年1月には第一次報告がなされている。それには優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施のための改善方策、歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保のための改善方策、未来の歯科医療を拓く研究者の養成のための改善方策について言及している。今まさに、良質な歯科医師を育成するために必須である各大学の歯学教育の質の保証と向上のために、各大学は何をしなければいけないのかが明確に問われることになった。どのような方策をとるのかは各大学の自努力にかかってくるわけであるが、これらの努力を客観的に評価するシステムを構築しないと、結局は大学の自己満足で終わってしまうのは必定である。米国や英国などには、歯学教育のガイドラインが作成されており、各大学はこれに則った大学改革、教育改革を実施、定期的に国ではない独立した機関による第三者の客観的評価を受けることにより、さらなる改善を実施するというシステムが構築されている。

我が国にはこのような少し強い拘束力を持っている独立した機関による第三者評価システムとしていくつかの認証機関があるが、歯学教育に特化したものではない。欧米に匹敵する歯学教育のみを対象とした大学への認証機関の設立がのぞまれる。

本事業は歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムとしてどのような体制が必要であるのかを調べるために、国内の歯科大学・大学歯学部への教育に関するアンケート調査とシラバスの分析を行うとともに、国外の大学と認証機関を訪問して、直接最新の情報を収集・分析した。また、将来の歯科医師となる人達のために、今後歯学教育がどのような方向に進むべきであるの

かを、さまざまな専門分野の研究者から提言をもらえるようなシンポジウムを開始した。ここに事業成果を報告する。

本事業の実施にあたり、ご支援。ご指導を頂いた文部科学省、ご協力を頂いた全国の歯科大学・大学歯学部の関係者に心から深謝する。

平成20年3月

東京医科歯科大学

医歯学教育システム研究センター 教授

荒木 孝二

2. 事業の実施体制

事業推進代表者	東京医科歯科大学 学長	大山 喬史
事業推進責任者	東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター・教授	荒木 孝二
事務担当者	東京医科歯科大学総務部研究協力課	渡辺 剛志
事業推進委員会	東京医科歯科大学 名誉教授	江藤 一洋
	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科・教授	俣木 志朗
	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科・教授	森尾 郁子
	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科・講師	鶴田 潤
	東京医科歯科大学 歯学部附属病院・講師	大原 里子

3. 事業の内容等

(1) 事業の概要

専門職業人たる歯科医師の養成と歯科医療・歯学の発展を担う研究者等の養成を担う大学の歯学教育の質の保証と向上を図る観点から、国内外事例の収集と関係大学の意見聴取を踏まえ、第三者評価の基準モデル等を提示し、第三者評価システムの導入のための基盤となる調査研究を行う。

(2) 事業の内容

(趣旨)

歯科大学や大学歯学部における歯学教育は、歯科医師国家試験の受験資格要件として、修了者の8割近くが歯科医師となる専門職業人養成課程であるとともに、歯科医療・歯学の発展を担う研究者等の養成をも併せ担っている。

歯学教育を巡っては、詰め込みや記憶偏った教育、個々の教員の専門や関心に偏った内容などの弊害が叫ばれ、平成13年の文部科学省の医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議報告によるモデル・コア・カリキュラムの作成をはじめ、診療参加型の臨床実習の充実のため実習前の学生の能力を評価する共用試験の導入、平成18年からの歯科医師臨床研修の必修化などの方策が進められている。

しかしながら、歯科大学や歯学部卒業生の知識や技能には、以前として大学間や個人間で格差があると指摘され、また、大学全入時代を迎える中、入試による学生の選抜機能が低下し、入学生の質の低下が懸念される。さらに、歯科医療の需給の見通しから歯科医師の過剰は一層ますことが想定される中、歯科大学・歯学部の定員の削減が求められている。

こうした状況の中、文部科学省は平成19年度に、モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な検討組織を設置するなど、さらなる歯学教育改革のための検討に着手しており、歯科医師養成期間として将来の歯科医療の質に直結する歯学教育の質の保証は待ったなしの課題である。

本調査研究は、こうした背景を踏まえ、歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価の導入について、国内外事例の収集と関係大学の意見聴取を踏まえ、第三者評価の基準モデル等を提示し、第三者評価システムの導入のための基盤となる調査研究を行うものである。

(検討方法)

東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センターを中心に、東京医科歯科大学教育関係者からなる研究推進委員会を設置し、専門的かつ広範な意見を集約して行う。

検討に当たっては、国内外事例の情報を収集・分析する。特に欧州歯科医学教育学会の DENTED ネットワーク、全米歯科医学教育学会のアクレディテーション等について直接現地視察を行ってその最新動向を収集・分析する。さらに、国内各歯科大学・大学歯学部の自己点検・評価や教育事情などをアンケート調査とシラバス分析により把握する。その上で、モデル・コア・カリキュラムの導入や共用試験の結果等を活用するとともに、シンポジウムを開催し、関係大学や歯学教育関係者からの意見を聴取しながら、各大学の教育目標を踏まえた教育課程、教育組織、成績評価などの教育活動を評価する項目や基準のモデルを検討し、評価方法および実施体制などを含めた第 3 者評価システムの導入のための基礎的な提案を行う。

(事業の実施計画)

1. 研究推進委員会設置

2. 海外調査

(1) シンガポール、オーストラリア

目的: SEADE 圏内における大学として、国内唯一の歯学部という状況のシンガポール国立大学歯学部、Singapore Dental Council の調査およびアジア/太平洋地域において、1 国内に複数の大学を持ち、既に大学評価を実施しているオーストラリアの歯学部および Australia Dental Council への調査。

(2) アメリカ

目的: ADA 圏内、1 国内に 50 以上の歯学部プログラムを有する米国において、既に実施されている大学評価の現地調査。大学評価実施機関である Commission on Dental Accreditation (Coda) への調査および、本年度に大学評価を実施された大学への調査、過去に調査を実施され、その改善をおこなった結果を持つ大学への調査。

(3) イギリス、オランダ

目的: ADEE 圏内、EU において、特に教育改革の中心となっている英国における大学評価の実際の調査および実施機関である General Dental Council (GDC)、および、大陸側として、やはり教育改革の中心として活動が盛んなオ

ランダ（5年制から6年生への変更）の大学調査。

（4）中国

目的：8年制口腔医学院の北京大学口腔医学院における歯学教育、特に臨床実習および歯学教育における医学教育の実情を調査。

（5）タイ

目的：アセアン諸国の中で歯学教育の最も充実しているといわれるタイにおける歯学教育の現況と大学評価について、チュラロンコン大学歯学部とタイデンタルカウンシルを調査。

4. 国内大学のシラバス調査、教育アンケート調査

国内歯科大学・大学歯学部の最新シラバスの調査と分析を行う。特にモデル・コア・カリキュラムに準じた教育内容が実施されているか、いわゆる教養科目カリキュラムが実施されているか、大学独自の特徴あるカリキュラムが導入されているか、知識・態度・技術教育が偏重無くバランスと連携がとれた教育カリキュラムが構築されているか、診療参加型臨床実習が実施されているか、自大学内で卒業時の到達度の設定と確認を行うシステムが構築されているのか等を調査・分析する。

5. シンポジウムの開催

タイトル：「歯科医学教育のさらなる発展－2025年の歯科医師像を求めて」

日時：平成21年3月19日（木）13：00－17：00

場所：東京医科歯科大学歯学部特別講堂

講演者

1. 江藤一洋（東京医科歯科大学名誉教授）
2. 荒木孝二（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター 教授）
3. 田上順次（東京医科歯科大学）
4. 神原正樹（大阪歯科大学教授）
5. 栗原英見（広島大学大学院医歯薬学総合研究科 教授）
6. 菊谷 武（日本歯科大学生命歯学部）
7. 佐々木啓一（東北大学大学院歯学研究科 教授）

4. 事業経費

平成20年度補助事業経費

補助金の金額	995千円
自己収入その他	0千円
(合計)	995千円

5. 事業報告

(1) 国内歯科大学・大学歯学部教育アンケート調査

国内歯科大学・大学歯学部への教育内容に関するアンケート調査

文部科学省大学評価研究委託事業 事業実施代表者
東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター
教授 荒木孝二

貴大学名 _____ 回答者名 _____
(教学関連の職名 _____)

回答者へのご連絡方法 電話番号 _____
メールアドレス _____

1. 貴大学の入試内容につきましてご記入下さい（なお、1）から7）の設問に対しましては貴大学の入試要項を送付していただいてもかまいません。その場合は貴大学のシラバス送付に同封して下さい）。

1) 2007年度～2009年度の入学募集定員数

2009年度 _____ 名

2008年度 _____ 名

2007年度 _____ 名

2) 学力試験内容（科目内容）

3) 推薦入試実施 有 無

4) AO入試実施 有 無

5) 大学入試センター試験活用 有 無

6) 面接試験実施 有 無

7) 編入学制度実施 有 無

有の場合下記の内容をご記入下さい。

(1) 編入学年 第 _____ 学年

(2) 募集定員数 _____ 名

(3) 試験内容

①学力試験実施 有 無

(有の場合の試験科目内容: _____)

②面接試験実施 有 無

③その他 (_____)

2. 貴大学の教育環境につきましてご記入下さい。

1) 過去3年間の在籍学生総数

2008年度 _____ 名

2007年度 _____ 名

2006年度 _____ 名

2) 過去3年間の修業年限超過者人数と超過年数別人数

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
2008年度							
2007年度							
2006年度							

3) 過去3年間の退学率（退学学年と人数）

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	退学率
2007→2008年度								
2006→2007年度								
2005→2006年度								

4) 過去3年間の教員数（常勤教員、非常勤教員別）

	常勤教員	非常勤教員	合計
2008年度			
2007年度			
2006年度			

5) シミュレータ等の教育施設 有 無

有の場合 具体的なシミュレータ内容

[]

6) 海外留学・研修制度 有 無

有の場合 具体的な内容

[]

(3) 学生研究実習実施 有 無

具体的内容

(4) 問題発見・問題解決型教育実施 有 無

具体的内容

4. 臨床実習体制

1) 2008年度における臨床実習実施開始時期および実施期間

(1) 開始時期 第____学年

(2) 実施期間 ____月 ~ ____月

2) 診療参加型臨床実習実施状況

(1) 歯学モデル・コア・カリキュラムの水準1～水準4の達成度

(1) 水準1 達成度 約____%

(2) 水準2 達成度 約____%

(3) 水準3 達成度 約____%

(4) 水準4 達成度 約____%

(2) 学生専用治療室 有 無

(3) 過去3年間の学生用患者総数と学生1人あたりの担当患者数

	学生用患者総数	学生1人あたりの担当患者数
2008年度	人	人
2007年度	人	人
2006年度	人	人

(4) 過去3年間の附属病院年間患者総数における学生担当患者総数の比率

	附属病院年間患者総数	学生担当患者総数の比率
2008年度	人	%
2007年度	人	%
2006年度	人	%

5. 卒業前後の状況

1) 過去3年間の卒後臨床研修機関としての募集定員数

2008年度 _____名

2007年度 _____名

2006年度 _____名

2) 過去3年間の卒後臨床研修制度における貴大学のマッチング率

2008年度 _____%

2007年度 _____%

2006年度 _____%

3) 過去3年間の貴大学卒業生の貴大学へのマッチング率

2008年度 _____%

2007年度 _____%

2006年度 _____%

4) 過去3年間の大学院入学定員と大学院学生総数

	大学院入学定員	大学院学生総数
2008年度	人	人
2007年度	人	人
2006年度	人	人

5) 過去3年間の大学院学生総数に対する貴大学出身者の比率

2008年度 _____%

2007年度 _____%

2006年度 _____%

6. その他

自己点検評価の実施 有 無

有の場合の具体的内容

ご協力ありがとうございました。

アンケート調査回答大学名

1. 岩手医科大学歯学部
2. 東北大学歯学部
3. 奥羽大学歯学部
4. 明海大学歯学部
5. 東京歯科大学
6. 東京医科歯科大学歯学部
7. 日本大学歯学部
8. 日本大学松戸歯学部
9. 昭和大学歯学部
10. 日本歯科大学生命歯学部
11. 日本歯科大学新潟生命歯学部
12. 鶴見大学歯学部
13. 新潟大学歯学部
14. 松本歯科大学
15. 朝日大学歯学部
16. 愛知学院大学歯学部
17. 岡山大学歯学部
18. 広島大学歯学部
19. 徳島大学歯学部
20. 九州歯科大学
21. 福岡歯科大学
22. 長崎大学歯学部

国内歯科大学・大学歯学部への教育内容に 関するアンケート調査 集計

提出大学

国立大学法人 7校

私立大学 15校

29大学中22大学回答 (回収率 76%)

1. 貴大学の入試内容につきましてご記入ください。

1) 2007年度～2009年度の入学募集定員数 (22 大学)

	総計	国公立計	私立計
2009年度	2,020	365	1,655
2008年度	2,053	365	1,688
2007年度	2,053	365	1,688

2. 貴大学の教育環境につきましてご記入ください。

1) 過去3年間の在籍学生総数 (22 大学)

	総計	国公立計	私立計
2008年度	12,889	2,343	10,546
2007年度	12,997	2,377	10,620
2006年度	13,108	2,398	10,710

2) 過去3年間の修業年限超過者人数と超過年数別人数 (22 大学平均)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
2008年度	2.4	4.5	5.8	4.3	5.4	18.7
2007年度	1.8	4.2	5.2	3.3	4.2	17.0
2006年度	1.9	3.8	5.5	2.3	3.2	16.9

※2008年度1年次～5年次 2大学 未定

3) 過去3年間の退学率 (退学学年と人数) (22 大学平均)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	退学率
2007→2008年度	2.8	2.3	1	0.7	0.6	1.2	1.3
2006→2007年度	2.3	2.4	1	0.8	0.3	1.4	1.2
2005→2006年度	1.7	2	0.8	0.6	0.3	0.9	0.9

4) 過去3年間の教員数 (常勤教員、非常勤教員別) (22 大学)

	総計	国公立計	私立計
2008年度常勤教員	3,900	1,082	2,818
2008年度非常勤教員	4,172	797	3,375
2007年度常勤教員	3,926	1,093	2,833
2007年度非常勤教員	3,999	693	3,306
2006年度常勤教員	3,823	1,097	2,726
2006年度非常勤教員	3,839	676	3,163

5) シミュレーター等の教育施設

	総計	国公立計	私立計
有	20	6	14
無	2	1	1

- ・独国カボ社製 DSEPlus シミュレーションユニット
- ・(株)モリタ製作所 顎口腔シミュレーションシステム
- ・レールダル社 レサシ・アン、レサシ・ジュニア
- ・AEDトレーナーモリタ社製
- ・クリンシム 15 台
- ・心肺蘇生訓練マネキン 5 台
- ・スキルスラボII (学生予習、復習用シミュレーション室) にクリンシム 2 台、デントシム 1 台、
- ・カボ社製 Dental Simulator DES plus 1 台
- ・モリタ社製で、タービン、エンジンエアー、バキューム完備。マネキンに上、下顎模型を取り付けることにより、保存、補綴系の実習をはじめ、多数の実習に対応可能
- ・デントシムにファントム
- ・シミュレーションシステムによる歯の切削
- ・歯冠修復、歯内治療
- ・実際の診療環境を再現し、学生の実習成果物を評価することのできる窩洞形成評価システムが導入されたシミュレーション実習室を整備
- ・モリタ社製 双方向マルチメディア
- ・シミュレーション教育装置、心肺蘇生シミュレーション装置
- ・デントシムを用いた窩洞形成、歯冠形成
- ・スタンダード・プリコーション環境での相互実習歯科臨床を想定した患者診療をシミュレートした実習技工・歯型彫刻、歯科用材料の測定実習
- ・口腔内を模したマネキンに人工歯を取り付け、基本的歯科治療技術のシミュレーションを行っている
- ・歯科麻酔学講座において Ambu 蘇生人形 (各種あり) 2. Ambu ECG box (アンビュ社製、心電図シミュレーター) 自動除細動器 (AED) (メドトロニクス社製)
- ・医歯薬共同施設のスキルスラボにおいて、採血、静脈注射トレーナーを使った血管確保練習や ACLS トレーニングを用いた蘇生法技術等を修得させている
- ・マネキンを使用したシミュレーション室を完備
- ・歯科医学教育用患者ロボット
(麻酔、印象採得、形成実習用) : 研修歯科医、臨床実習生、附属病院所属歯科医師
- 救命救急用患者ロボット (BLS用、ACLS用) : 臨床実習生
- ・病院実習中に空時間を利用し、学生各自が自主的に行う場合と患者実習前に担当者の指示により行う場合がある
- ・コンピュータを利用した歯科教育用コンピュータシミュレーションシステムは、患者治療をシミュレートした模擬臨床実習を体験することができる。インレーやクラウン形成、コンポジット

レジン充填、歯内療法（アクセスホールの形成）など 76 の多岐にわたるレッスンプログラムがインストールされているため、体験したプログラムにおける実習者の技能に対してはリアルタイムで軌跡の過程を 3次元画像で表示し、フィードバックすることができる。同システムは、細かい客観的な評価分析が施されているので、臨床実習開始前の学生の自己研鑽が図られている

- ・モリタ社製 クリンシム 10 台

歯冠形成、修復、エンド、治療シミュレーションに用いている。主に登院前実習に用いられているが、登院後、卒後にも使用している

- ・実習室において、各実習台にモニターを設置している

- ・歯科教育用コンピュータ・シミュレーションシステム（デントシム）を使用して、病院実習生（5年生）全員を対象にして、窩洞形成実習を実施している。

6) 海外留学・研修制度

	総計	国公立計	私立計
有	11	3	8
無	11	4	7

D 大学

- ・学生奨学海外研修制度 1993 年

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) との奨学海外研修を皮切りに現在アメリカ 3 校 (UCLA, テキサス大学サンアントニオ校、アラバマ大学バーミングハム校)、メキシコ 1 校 (メキシコ州立自治大学)、中国 2 校 (北京大学口腔医学院、第四軍医大学口腔医学院)、フィンランド 1 校 (トゥルク大学)、イタリア 1 校 (シエナ大学) 計 8 校の姉妹校へ 5 年次に 34 名の学生を派遣している。また姉妹校から学生の短期研修として受け入れ、双方向の学生交流を実施している。

F 大学

- ・年間 3 名の学生に海外研修のための経費を出している。海外研修は 3 - 4 週間とし、原則当大学の学術協定を結んでいる約 40 の海外協定校に派遣する。選考は第 4 学年から第 6 学年生までの成績優秀者の中から面接試験を行う

G 大学

- ・本大学が募集するケンブリッジ大学サマースクール等への応募による

H 大学

- ・本大学が募集するケンブリッジ大学サマースクール等への応募による

I 大学

- ・3 年生、4 年生を対象とし南カリフォルニア大学、香港大学へ希望者を募り、3 月（春期休暇）期間に参加させている。参加者には大学より海外実習補助費として 10 万円以内を大学より支給している。

J 大学

- ・ブリティッシュ・コロンビア大学歯学部（カナダ）・ワシントン大学歯学部（米国）への短期間（約 2 週間）交換学生制度

K 大学

- ・ 姉妹校 (カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学) に1週間の研修を希望者の中から3名が行っている

L 大学

- ・ 期間1年以内

O 大学

- ・ 学生時代に国際的視野を養うこと等を目的に海外の大学との相互短期派遣を実施

Q 大学

- ・ 選択必修科目として「歯学国際交流演習 (ODAPUS)を開講。3年次生を対象とし、夏休みを含めて3～4か月程度、海外の大学へ聴講生として留学できる。卒業要件単位に含まれる

S 大学

- ・ 春季・夏季等の休業期間を利用して、外国の大学等が開設している語学研修に参加するもので、所定の条件のもとで単位が認定されます

3. 貴大学の教育システムについてご記入ください。

1) 2008年度における進級および卒業の判定基準と学生への明示の有無

(1) 進級判定基準

- ・ <3年次>教養教育科目の卒業要件単位数の修得及び3年次までに開講された専門教育科目の必修科目全てに合格すること<5年次第2クォーター>それまでに配当された専門教育科目必修科目全てに合格すること及びOSCE, CBTに合格すること
- ・ 2年→3年: 教養部の履修規則によって進級
3年→4年、4年→5年: 各学年で履修すべきモジュールを全て履修していること
5年前期→5年後期: 5年前期までに履修すべきモジュールを全て履修していること、および本学共用試験合格基準を満たすこと
5年後期→6年: 5年前期までに履修すべきモジュールを全て履修していること
- ・ 教授会が別に定めるところにより、所定の授業科目及び単位を修得すること。
具体的な基準はシラバスに記載
- ・ 各学年で履修が定められている単位を修得する
- ・ 各学年 (2～5年) の進級
判定は、それぞれの学年で実施する学科試験ならびに実習を全て合格すれば進級可とする。なお、再試験は各学年の科目数の1/2以内であれば1回だけ不合格科目の試験が受けられるが、進級判定としては再試験科目全てが合格していなければならない
- ・ シラバスに記載しております「岩手医科大学歯学部試験規程」を参照
- ・ 各学年所定の授業科目の試験に合格した者は進級する (全科目60点以上)
- ・ 定期試験の平均点が65点以上60点未満の科目が所定数以下の者
- ・ 各教科の成績評価点及び学年評価点による
- ・ 当該学年において修得すべき全授業科目の試験に合格すること
- ・ 第一学年: 全科目の平均点が65点以上、且つ不合格科目が2科目以内の者を進級、仮進級とする。第2～5学年: 進級試験が65点以上の者を進級とする
- ・ 1) 科目試験は、全科目 (講義と実習・実技を含む) の平均点が6.5点以上をもって合格とす

る。但し、4点未満の科目が3科目以上ある者は原級に留める。

2) 総合学力試験は、65%以上の得点で合格とする。但し、必修に相当する領域は80%以上とする。

3) 前・後期の各科目試験において、各科目6.5点未満の科目を再試験の対象とする。

4) 前期・後期を通しての通年科目については、教養系(第1学年)では総合評点として扱うこと、専門系では原則として前期と後期の点数[各期とも再試験を受験した場合はその点数]を加算して2で割った点数をその科目の点数とする。

5) 第2学年生、第3学年生の進級にあたっては、学年の科目試験および総合学力試験のそれぞれに合格しなければならない。

6) 第4学年生の進級にあたっては、学年の科目試験および総合学力試験並びに共用試験C、B、T、O、S、C、Eのそれぞれに合格しなければならない。

7) -1 第5学年生の進級にあたっては、総合学力試験および臨床実習のそれぞれに合格しなければならない。

7) -2 臨床実習は、配属された全科の平均点が6.5点以上をもって合格とする。但し、4点未満の科が3科以上ある者は原級に留める。

・第2年次以上の学生は、所定の授業科目について、その試験に合格しなければ、次の年次の授業を受けることができない。

1) 第1年次：基盤形成科目群及び基礎科目群の合計単位で5単位以上が再受講となった場合は留年とする。ただし、教養科目群又は社会性形成科目群の単位の修得状況によっては、基盤形成科目群及び基礎科目群の再受講が4単位以下でも留年となることがある(認定時期は第1年次の学年末)

2) 第2年次から第3年次への進級：共通教育科目の履修要件の単位を修得していない場合は留年とする。ただし、後期に開講される講義で不足単位の修得が可能なときは、仮進級できる場合もある(認定時期は第2年次の前期末)

3) 第2年次から第3年次への進級：共通教育科目及び早期体験実習の履修要件の単位を修得していない場合は留年とする(認定時期は第2年次の学年末)

4) 第3年次から第4年次への進級：解剖学第一、解剖学第二、生理学、生化学、細菌学、歯科理工学、研究基礎ゼミ及び第3年次前期までに終了する特別科目のすべての単位を修得しなければ、留年とする(認定時期は第3年次の学年末)

5) 第4年次から第5年次への進級：病理学、薬理学、衛生学及び第3年次後期までに終了する特別科目のすべての単位を修得しなければ、留年とする(認定時期は第4年次の前期末)

6) 第4年次から第5年次への進級：予防歯科学、歯科保存学第一、歯科保存学第二、歯科補綴学第一、歯科補綴学第二並びに第4年次前期に終了する特別科目及び総合科目のすべての単位を修得しなければ、留年とする(認定時期は第4年次の学年末)

7) 第5年次から第6年次への進級：口腔外科学第一、口腔外科学第二、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学、歯科麻酔学及び第4年次に終了する関連医学科目のすべての単位を修得しなければ、留年とする。また、共用試験に合格しなければ、臨床実習を受けることはできない(認定時期は第5年次の前期末)

学生への明示の有無

	総計	国公立計	私立計
有（シラバスに記載）	7	2	5
有（冊子配布）	10	1	9
有（その他）	9	5（学生便覧）	4（学生用覧、オリエンテーション、公示）
無	0	0	0

※国公立1校、私立3校 複数回答

(2) 卒業判定

- ・ 学生便覧に掲げる卒業要件単位数を修得すること
- ・ ①全授業時間のうち4分の3以上出席していること
- ・ ②D6包括臨床実習修了試験（修了時OSCEとD6での症例報告）に合格すること
- ・ ③包括臨床実習のエッセンシャルリクワイアメントを達成すること
- ・ ④ポートフォリオによる自己評価を実施・提出すること
- ・ 本学部に6年以上在学し、所定の授業科目を履修し、全学教育科目から49単位以上及び専門教育科目から152単位以上の計201単位以上を修得すること
- ・ 6年以上在学し、かつ所定の授業科目の単位を修得する
- ・ 卒業要件は、臨床実習、総合示説に合格すると同時に3回行う卒業試験において、その平均点が70%以上をもって卒業可とする
- ・ シラバスに記載しております「岩手医科大学歯学部試験規程」を参照
- ・ 所定の授業科目を履修し、その単位を修得した者、卒業試験に合格した者（卒業試験は総得点率65.0%以上合格）
- ・ 総合学力試験および臨床実習のそれぞれに合格
- ・ 第6学年の試験に合格及び所定の単位を修得した者には、卒業試験の受験資格を与える
- ・ 平均65点以上を原則とする 各教科の成績評価点、学年評価点及び6年以上在学して、総計198単位以上を修得した者
- ・ 卒業試験受験資格を満たし、卒業試験において必修問題80点以上、一般問題60点以上、臨床実地問題60点以上の成績が必要
- ・ 卒業試験の必修問題が正答率80%以上、一般問題、臨床実地問題が正答率65%以上、且つ禁忌肢問題選択数が2問以内の者を合格とする
- ・ 第6学年生の卒業判定にあたっては、総合学力試験および臨床実習のそれぞれに合格しなければならない。臨床実習は、配属された全科の平均点が6.5点以上をもって合格とする。但し、4点未満の科が3科以上ある者は原級に留める
- ・ 卒業要件の必要単位をすべて修得しなければ、留年とする（認定時期、第6年次の学年末）

卒業判定基準学生への明示の有無

	総計	国公立計	私立計
有 (シラバスに記載)	6	2	4
有 (冊子配布)	9	1	8
有 (その他)	9	5 (学生便覧)	4 (学生用覧、オリエンテーション、公示、掲示、伝達、資料配布)
無	0	0	0

※国公立1校、私立3校複数回答

2) 2008年度における共用試験 (CBT、OSCE) 成績の進級判定への利用状況

(A 大学) コア歯学演習 (I)、(II) という科目を設け、それぞれ共用試験 CBT、OSCE の点数等により評価している。必修科目としており、他の科目と同様に本試験、再試験を実施し、合格基準点に満たない場合は進級できない

(B 大学) 共用試験の合格を必修科目「総合歯科学」の単位修得要件とすることで進級判定に反映させている

(C 大学) 加味しました

(D 大学) 5、6年の進級判定に用いている

(E 大学) 利用している。第4学年生の進級にあたっては、学年の科目試験および総合学力試験並びに共用試験 CBT、OSCE のそれぞれに合格しなければならない

(F 大学) CBT と OSCE の両方の合格基準を両方共に満たすことが進級判定の絶対条件

① CBT の合格基準：62.5 点 (100 点換算)

本試験・追再試験とも同基準

② OSCE の合格基準：本試験 (1 回目の試験) の合格基準「実施大学が各評価者の評点に際してのコメントを確認したうえで、原則として、本試験の概略評価評点の平均点が 2 点以下の課題が、6 課題中 3 課題以上、または、各課題の 100 点換算で 60 点未満が 2 課題以上ある場合を不合格とする」

本試験 (1 回目の試験) で合格基準を満たさなかった場合は、再試験 (2 回目の試験) を受験する。

再試験 (2 回目の試験) の合格基準

「本試験で概略評価評点の平均点が 2 点以下の課題、および 100 点換算で 60 点未満の課題のみを対象とし、全課題で 2 名の評価者の概略評価評点の平均点が 2 点以下とならないこと、または、全課題の得点が 100 点換算で 60 点未満にならないこと。」

(G 大学) CBT、OSCE の成績は、臨床歯科 II のなかで総合評価

(H 大学) 利用なし

(I 大学) 第 4 学年において、進級試験の受験資格の有る者に対して共用試験 (CBT・OSCE) を行う。合格基準は 70%

(J 大学) 共用試験歯学系 CBT・OSCE の成績は、第 4 学年学生の学年末進級審査における対象としており、いずれかの試験不合格のみによって留級となります。

両試験の合格基準は以下のとおりです。

CBT：下記条件を充たす者を合格とする。

1) 前年度の全国総合平均値-1.5S. D. 以上であること

OSCE：下記条件に基づく本学部OSCE事後評価委員会によって適格と判定された者を教授会に報告し、審議を経て合格とする。

1) 項目評定総合平均値：前年度の全国平均値-1.5S. D. または、実施学年全受験生による総合平均値-1.5S. D. において、より高い値以上であること

2) 概略評定：実施学年全受験生による総合平均値-1.5S. D. 以上であること。または、2名の評価者による概略評定1・2を受けた課題数が1以内であること

3) 必修項目総合平均値：本学部選定の必修項目による総合平均値80点以上であること

(K大学) CBT、OSCEをそれぞれで判定(65点以上)

(L大学) 4年生の後期(2月)に行い、進級要件としている。

したがって、5年生から始まる卒前臨床実習の過程に進むための条件にもなっている

(M大学) 共用試験成績を臨床予備実習の評価項目の一つと定め、共用試験不合格者は臨床本実習へ進めないこととしている

(N大学) 進級の要件とした

(O大学) CBT及びOSCEの成績のいずれも60点以上である者に対し、進級を認定

(P大学) 共用試験は、本学基準をもとに合格ラインに達しない場合はCBT、OSCEとも再試験を行い、合格基準に達しなければならない。共用試験は4年次秋学期に行うため、臨床実習が始まる5年次への進級は、4年次の学科試験ならびに実習の3項目全てが合格していなければならない

(Q大学) 5年次第2クォーター進級判定に使用

(R大学) CBT及びOSCEの両方で、それぞれの満点の60%以上の成績を得た学生について、5年次後期からの臨床実習の参加を認めている。(60%未満の場合、CBTは再試験、OSCEは再教育を行った上で、臨床実習参加の可否を決定する)

(S大学) 第5年次から第6年次への進級判定に利用(第5年次前期末認定)

(T大学) 5年次生の進級判定に利用した。CBTでは再試験回答率60%以下を留年とした。

OSCEは低得点課題に対して、補充教育を行い、再度、学内で審査し進級判定を行った

(U大学) 進級に必要な要件の一つとしている

(V大学) 臨床実習開始前に共用試験(CBT及びOSCE)に合格しなければならない

3) 正式実施以降の共用試験の成績を基準として進級できなかった学生数

	総計	国公立計	私立計
2008年度	11	4	7
2007年度	29	2	27
2006年度	15	1	14

4) 2008年度における教育カリキュラム内容

(1) 歯学モデル・コア・カリキュラムの利用状況

	総計	国公立計	私立計
全面的に導入	21	6	15
一部導入	1	1 (10%)	0
全く導入していない	0	0	0

(2) 貴大学独自のカリキュラム内容

Q大学

「課題探求能力」、「課題解決能力」及び「高い倫理性と広範な国際性」を習得できる「総合的・的確な判断力を涵養するため、以下の科目を開講している。

1年次：早期見学実習、1, 3, 5年次チュートリアル

3年次：「自由研究演習（研究室配属）」、「歯学国際交流演習」

各科目においてモデルコアカリキュラムが占める割合を3/4程度に設定し、それ以外の時間を使い、各科目独自のカリキュラムを展開している

F大学

①連携教育（2年間毎週1回学部のあるお茶の水キャンパスで授業をうける）

②総合課題演習（1年間のPBLチュートリアル教育）

③学年混合選択セミナー

④課題統合セミナー

⑤研究体験実習

⑥臨床体験実習（2年間各診療科での見学・治療補助・先輩が後輩を教える屋根瓦教育）

B大学

主として大学院教育との接続を視野に入れて実施している。

①アドバンス授業Ⅰ～Ⅳ

歯学研究科及び東北大学他研究科・研究所教員が担当。第一線の研究者による研究紹介等が主な内容

②合同講義：1つのテーマに関して複数分野の教員が、専門領域横断的に講義する

③歯学基礎演習：英語論文の読解授業。基礎系分野の教員が担当。

④基礎研究実習：4ページ（3）に記載

⑤歯学臨床ゼミ：4ページ（4）に記載

S大学

- ・総合歯科学：これまで授業等で学んできた知識を再確認するとともに国家試験対策に沿った内容で実施している。早期体験実習：入学して間もない学生を対象に早期に歯科医師としての自覚や倫理感をもたせ実際の歯科医療の現場を見学させることによって学習意欲の向上を目指すことを目的として実施している

M大学

歯科における基本的な臨床英会話力の育成、臨床歯学研究の最新の成果に関する理解

R大学

コース別教育

自由選択科目の開設

O 大学

インプラント学、インプラント学実習（4 学年）

A 大学

- ・ 1 年次の「歯科医学概論」の一環として、附属病院の病棟、地域の介護施設等で「看護・介護体験実習」を実施。早くから医療現場の一端に触れる体験実習を通して人間性豊かな歯科医師としての第一歩となることを目標としている。介護体験実習には、臨床実習を行っている 5 年生も参加し、口腔衛生指導を通じ、入所者との触れ合うことにより歯科医師への意識向上を目的としている。
- ・ 2 年次で、歯科医療の現場を通し歯科医師としての役割や態度を学び、歯科医療の概要を理解することを目的に開業歯科医院等での「歯科専門体験実習」を実施
- ・ 歯科基礎医学、歯科臨床医学の関連について、系統別の枠をこえて理解を深めることを目的に 2～4 年次に「統合講義」を実施
- ・ 5 年次、隣接医学科目（10 科目）の講義を実施

C 大学

- ・ 歯科医療人間学
- ・ 診療視覚教育
- ・ 系統教育
- ・ 統合教育
- ・ 総合教育
- ・ 歯科医学演習
- ・ I,C,T
- ・ 文章表現学

T 大学

- ・ 態度教育関連講義の充実
- ・ 歯科医師になるための意欲向上教育の導入
- ・ リサーチマインドを育むための教育の充実

I 大学

本歯学部では従来から「社会と歯科医療コース」という特徴あるコースを 6 年間の縦軸に設け、学生が学部や大学の枠にとらわれず社会に飛び込んで体験や経験を積みながら保健・医療・福祉を自ら学んでいく教育を行ってきた。今年度はさらにこれを推し進め、1 学年から将来の職業や臨床を意識した 6 年一貫の診療参加型臨床教育を柱として押し出すことにした

L 大学

第 1 学年において開講している「医療人間科学」の一環として、将来歯科医師になるという具体的な目標を明確にし、モチベーションを高めるため、例年 4 月下旬に 2 泊 3 日の短期集中研修を行っている。この研修は、第 1 学年の学生全員参加を原則とし、第 1 学年の開講科目担当教員のほか、第 1 学年副担任も多数参加し、学生の指導に当たる。

研修中は、外部から招聘した講師による講演のほか、学生を少人数のグループに分け、教員と積極的に討論を行うなどが実施されている。また、卒前臨床実習に入る前に模型上でいくつかの疾患パターンを作成し、学生自身が診断から治療に至るプロセスを学ぶように設定している。

具体的には、

1.統合的な歯科診療の理解、2患者への対応、3治療計画に準じた治療の進め方の理解、4カルテの記載方法、5インシデントの理解、6基礎的スキルの復習、7系統実習で学んだ知識の統合化

などの臨床実習を適切に行うための能力を身につけることを目指している

E 大学

- ・スポーツ歯学
- ・歯科医学英語購読
- ・ラテン語
- ・隣接医学（産婦人科学、整形外科学、精神神経科学、小児科学、皮膚科学、耳鼻咽喉科学、眼科学）
- ・情報科学入門

J 大学

- 1、「モデル・コア・カリキュラム」と「歯科医師国家試験出題基準」について全学年、全科目についての授業対照表を作成し、全学生・全保護者に配布することによって、学生には自学自習のガイドとしての活用を保護者の皆さまには「学生・保護者・大学による三位一体教育」への理解と支援参加を期待しています。
- 2、第1学年では、医療人としての自覚と歯科医師として求められる学習項目についての認識を深め自学自習を促す行動型科目として、附属病院での学習活動を含めた“病院医療概論”を設定しています。
- 3、「学び力」を身につける課題発見型・問題解決型学習としてPBLテュートリアル教育を導入すると共に研究マインド・情報収集能力を備えた歯科医師養成を見据え、ITを活用した情報リテラシーの充実を図っています。
- 4、平成19年度改定版「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」でも重点化された“医療安全”や“医療管理”に関する2科目を設定することによって、患者中心の医療に求められる要件修得を期待しています。
- 5、統合科目としての“生命歯学概論”は、6箇年にわたり学んでゆく基礎歯学・社会歯学・臨床歯科医学系科目の関連についての「気づき」と「興味」の高揚に寄与すると考えます。
- 6、第2学年では、倫理、チーム歯科医療、予防・管理など包含した“歯科医療の基本”によって臨床家としての根幹を養うと共に、次世代の歯科医療を牽引する“先端歯科医療”や「歯科医学教授要綱」にも項目立てがなされた“スポーツ歯科学”によって時代やニーズに順応できる人材の育成を図っています。
- 7、近年の医療系教育に特に求められている「リサーチ・マインド」を身につけた人材育成を推進するため、自由選択した興味ある課題についての研究計画・実行・考察・発表のプロセスを踏む“生命歯学探究”が設定されています。
- 8、第3学年では、医療人にとって必須ともいえるコミュニケーション能力の向上を促進さ

せるため、養成プログラムの研鑽を積んだ標準模擬患者さんにも参画いただく“医療コミュニケーション概論”を設定し、知識に裏付けされたスキルの修得を図っています。

9、第4学年の終了時までには、基礎歯学・社会歯学系科目ではひと通りの講義・実習を終えた後の学年において、再度繰り返し学習ができるよう“総合基礎医学”としての科目設定がなされています。

10、第5学年の附属病院における臨床実習では、チーム歯科医療を踏まえた診療体制と一口腔単位の治療方針を基盤とし、適切な指導の下に参加型の臨床実習を実践させることによって、卒後の歯科医師臨床研修を見据えた臨床能力の習得を図っています。

11、講義については、他の学年で行われている80分間授業を50分間に変更し、毎日午前9時から1科目を受講することによって、貴重な臨床実習に活かせるよう配慮しています。科目としては、日々の臨床で直面する各種症例への具体的対応法について学ぶ“臨床総合歯科学”、基礎歯学の臨床への関与と活用法について学ぶ“基礎と臨床”、「歯科医師教授要綱」に明示された内科・外科・耳鼻咽喉科系分野の医学について学ぶ“総合医学”等を配置し、生命体への医行為である歯科医療に必要な知識吸収の機会、さらには歯科医師国家試験を見据えた臨床貴番教育の場としています。

12、第6学年では、社会・制度の「求め」に応じた学習内容の担保を図るため、慎重な配慮が求められる小児・障害者・妊婦・授乳婦・高齢者等への対応について学ぶ“診察学”や口腔と全身との関わり・歯科疾患の予防管理・直近の社会保障制度等に関する内容について学ぶ“社会医療”を新たに設定しています。

K大学

- ・PBL教育
- ・コーチング実習等

G大学

医療人としての人間形成を促すための授業科目として、従来の人文・社会分野の科目と歯科臨床科目を統合した医療人間科学、自然分野の科目と生命科学を統合した基礎自然科を設け、教養教育と専門教育との融合を図っている。一方、「患者本位の歯科医学・医療」を理念とする専門科目は、従来の「学問（講座）別」科目から「領域別」や「疾患別」科目とに再編成したことにより、新しい歯科医学教育を目指した先進的な科目になっている。また、問題解決能力を学年の進行と共に習得するテュートリアル形式の授業科目を各学年に取り入れ、学生の学習意欲と勉学へのモチベーションの高揚を目的にカリキュラムの中に「自己学習」の時間帯も配置している。学年は、前・後期各15週のセメスター制で、授業時間は学生の緊張が有効的に持続することに配慮して、1時限を50分としている。

H大学

歯科医学概論：一年生の科目で学部長が講義を担当する。いわゆるアーリー・エクスポージャーをねらいとし、夏休みを利用した歯科医院見学等を含む

課題研究：二年から三年にまたがる授業で、教室配属をさせて教員から直接、研究等の指導を受ける全人教育

U大学

- ・口腔医学の確立から隣接医学の科目、実施コマ数の充実
- ・介護施設を併設していることから、介護体験科目の充実

- ・問題解決型教育（態度教育）の充実

N 大学

- ・入門歯科医学実習
- ・情報リテラシー
- ・医療人行動学

D 大学

- ・歯学教養ゼミ
- ・歯学基礎科学

(3) 学生研究実習実施

	総計	国公立計	私立計
有	13	5	8
無	9	2	7

具体的内容

(B 大学) 5 年次学生を 9～11 月（220 時間）に希望に基づき、基礎系 11 分野（研究室）に配属する。研究への関心を惹起し、卒後に研究者を目指す学生を育成することができる

(C 大学) 第 4 学年学生と第 5 学年学生が基礎系及び臨床系の研究室にて歯髓細胞の分化機能と歯周病関連細菌について研究を行い、その成果を第 21 回日本歯科医学会にて発表した

(E 大学) 卒業論文

(F 大学) 7 週間必修+夏休み期間 7 週間延長可能、他大学や外国研究機関での体験実習も可能。2 日間の研究体験実習成果発表会、優秀発表者数名を学部長表彰、国内外の学生発表イベントに研究発表の機会を与える

(G 大学) 特別研究・基礎系講座の教員が中心となって提供する研究課題から選択したテーマについて研究課題の基本を体験する

(I 大学) 研究テーマを発案できる。研究を遂行するために必要な情報を入手できる。研究計画を立案し遂行できる。実験結果を持って適切な方法で表現できる。結果を理論的に考案できる。研究テーマの発案から結論を得るまでの過程を説明できる

(J 大学) 第 5 学年において、「総合課題研究」と命名したプログラムを設定し、数グループに分かれた臨床実習生が歯科臨床に関する課題を自ら検討し、調査・研究を通して科学的根拠の必要性を認識し、より良い歯科医学・医療の具現化に寄与できる能力の体得機会としている。また、平成 21 年度からは、「生命歯学探求」と命名した科目を第 2 学年後学期に新設（平成 22 年度には第 3 学年前学期にも追加設定）し、教養・基礎・臨床系科目等からなる 24 分野の興味あるテーマについて研究実習を行う

(K 大学) 課題研究。学生のテーマによる研究の遂行。結果の紙上発表

(L 大学) 平成 15 年度までは、第 3 学年に「歯科医学セミナー」（選択科目）を開講し、履修学生が希望する研究室にて直接研究指導を受けていたが、現在は開講されていない。今後カリキュラム内容の検討を行い、復活させることも視野に入れている

(Q大学) 実験研究を通して問題解決能力及び総合的応用判断能力を養うこと、また研究のプロセス全てを経験し、研究発表能力や科学的視点を身につけることを目標に「自由研究炎症(研究室配属)」を開講。3年次第3クォーターに2ヶ月間、各研究室に数名の学生が配属され、研究を行っている

(R大学) 最先端歯学研究コースで学生を研究室に配属し、研究を実施

(S大学) 研究基礎ゼミ: 研究室(診療室を含む)に学生が実際に出入りしながら研究生活の一端を体験し、専門英語論文の読解力の向上、研究や臨床における問題点の提起や問題解決能力を育成する

(T大学) 研究室配属、5年次生前期 60時間

(U大学) [基礎EBM演習]英語や基礎系強化の学力を基礎として、医歯薬学分野のトピックスを扱った一般向け科学総説を読む。内容について、その根拠となる資料を提示できる能力を養う

(4) 問題発見・問題解決型教育実施

	総計	国公立計	私立計
有	21	6	15
無	1	1	0

具体的内容

(A大学) 自ら課題をみつけ、自学自習の能力、習慣を身につけることを目的に小グループによるPBLチュートリアルを実施。第2学年～第4学年に年間3課題を設定し、課題ごとに学習課題の抽出、学習目標の決定、自己学習、発表という流れで実施。

1年次の「看護・介護体験実習」、2年次の「歯科専門体験実習」は実習を通じ、自ら問題を発見し、解決する能力を身につけることを目的として実施

(B大学) 第3学年前期に週3時限10週にわたり、3つのシナリオに従って7～8名の学生による小グループにて問題発見・問題解決型教育をPBL方式にて実施している

(C大学) 臨床実習期間(PBL)の専科実習において各科で実施した(各3回)

(D大学) 歯学教養ゼミ・チュートリアルシステムを原則とする(1グループにチューターが1人指導にあたり、学生自身が選んだ、あるいは与えられた課題から学生自身が問題点を浮き彫りにし、自ら解決できるように学習を行う)学生はグループ(6～7名)に分かれ、チューターにつき(90分15～18回)1クールとして2クール研修を行う(前期水曜3～4時限目)1回目はオリエンテーションとする。課題を決定し、その課題に基づいて問題点を抽出、図書館やCAI教室などを利用して調べ、発表、質疑応答、レポートの提出などを行う

(E大学) 講義と実習、そしてチュートリアルを融合させたハイブリッド型の教育を実施している

(F大学) 1グループ7-8名で8班構成、1年間ほぼ毎週1-2回、1回3時間実施、合計94時間実施。課題は専門科目に関係した内容とするが原則としてハイブリッド型ではない。

チューターは歯学科全科教員から平等に選出、試験はトリプルプルジャンプ方式で行う

(G大学) 6年間を通して系統的かつ体系的な学習の実現を図られるようカリキュラムは、人

間科学、基礎科学、生命科学、口腔科学、総合科学の5つの区分に配分している。その中で総合科学ではチュートリアル形式による少人数教育を主体として課題探求・問題解決能力の育成を図っている

(H 大学) 統合科目においてPBLを実施している

(I 大学) 1年次においては、チーム医療の基盤の授業で前期(必修)として行っている(13回)、2年次においては、前期・後期に問題解決と生涯学習問題発見PBL I IIを前期15回、後期9回開講している。3年次においては、12月に3回、学部横断(医・歯・薬・保健医療学部)としてPBLチュートリアルを行っている

(J 大学) 7~8名の学生からなるグループに対し1名のチューターを配したPBLチュートリアル教育のための時間枠を設定している。第1学年前期では、医療倫理や社会科学、基礎医学、基礎歯学を含んだオリジナルの課題シナリオによる問題発見・問題解決型教育を実施している。また、第5学年では、ペーパーペーシェントを用いた問題発見・解決型学習を行っている

(K 大学) 1, 3年にPBL教育を行っている。1グループ6~8名でシナリオをもとに実施している

(L 大学) 第1学年において、「医療人間科学」のほか「医療人間科学学習I」、第2学年において、「医療人間科学学習II」を開講している。ここでは、早期に歯科医療に接してもらうため、病院見学、ブラッシング実習指導などを行う。また、学生を少人数のグループにわけ、それぞれに課題を与え、プロダクトの作成、全体討議などを行っている

(M 大学) 基礎歯学・臨床歯学を統合したPBLチュートリアル(顎顔面診断・治療学)科目横断方式で行われる統合型模型実習(総合模型実習)

(N 大学) PBLセミナー

(O 大学) ゼミ形式による授業の導入。実習室の実習台を円形に配置し、基礎実習において学生間の双方向対話等に基づく教育の導入

(Q 大学) 医療人としてのコミュニケーション能力の向上ならびにPBLを目指し、「チュートリアル1」「チュートリアル2」「チュートリアル3」をそれぞれ1, 3, 5年次に開講し、少人数教育による問題発見・問題解決型教育を実施している。これに加えて、予防歯科、インプラント再生補綴学等が少人数教育による問題発見・解決型教育を応用した臨床決断(EBM)教育を実施している

(R 大学) 一部科目でPBLチュートリアル教育を導入している

(S 大学) チュートリアル: 少人数グループの自学自習教育(症例に基づく問題解決型教育) 学生全員が当事者意識を持ち、学び方を学び、使える知識を得ることができ、さらにコミュニケーション能力を向上させる

(T 大学) 1, 2, 3, 5年次生でチュートリアル教育を行っている。1年次ヒューマンリレーションズ、2年次患者学、3年次感染と免疫ⅢⅣ、5年次臨床講義

(U 大学) [小グループ学習] 歯科医師として生涯にわたり学習するための態度と技能を身につける。そのため、自ら問題点を探し出し、自己学習によってそれを解決するための能力を培う

4. 臨床実習体制

1) 2008年度における臨床実習実施開始時期および実施期間

(1) 開始時期

	総計	国公立計	私立計
第5学年	22	7	15
第6学年	0	0	0

(2) 実施期間

5学年4～2月、6学年4～5月

5学年4月～5学年3月（5校、うち1校で評価期間は2月まで）

5学年4月～6学年5月

5学年4月～6学年6月

5学年6月～6学年6月

5学年7月～5学年3月

5学年8月～5学年3月

5学年9月～5学年2月

5学年9月～5学年3月、6学年4月～7月

5学年9月～6学年6月末

5学年10月～翌年9月（4校）

5学年10月～第6学年12月

5学年11月～6学年10月

5学年11月～6学年11月

5学年11月～6学年11月（第5学年9～11月予備実習、第5学年11月～第6学年11月臨床実習）

2) 診療参加型臨床実習実施状況

(1) 歯学モデル・コア・カリキュラムの水準1～水準4の達成度（平均：％）

	総計	国公立計	私立計
水準1	85	98	74
水準2	58	95	43
水準3	52	83	40
水準4	47	68	38

(2) 学生専用治療室

	総計	国公立計	私立計
有	9	6	3
無	11	1	10
無回答	2	0	2

(3) 過去3年間の学生患者総数と学生1人あたりの担当患者数

	全体	国公立計	私立計
2008年度 学生用患者総数	14,958	2,766	22,716
2008年度 学生1人あたりの担当患者数	93	29	134
2007年度 学生用患者総数	17,574	3,263	27,592
2007年度 学生1人あたりの担当患者数	88	29	129
2006年度 学生用患者総数	17,484	3,187	27,492
2006年度 学生1人あたりの担当患者数	94	29	140

国立 2008年度 12月分まで記入 2校

私立 記録なし2校、未記入1校、3年間患者総数不明1校、2007、2006年不明1校

2008年度 H20,12まで3校、H21,2まで1校、予想数1校

(4) 過去3年間の附属病院年間患者総数における学生担当患者総数の比率

	全体	国公立計	私立計
2008年度 附属病院年間患者総数	144,669	153,045	140,100
2008年度 学生担当患者総数の比率	10.38%	4%	14.7%
2007年度 附属病院年間患者総数	158,771	171,225	152,065
2007年度 学生担当患者総数の比率	9%	4%	13%
2006年度 附属病院年間患者総数	156,495	171,932	148,182
2006年度 学生担当患者総数の比率	16%	2%	25%

国立 2008年度 12月まで記入1校、未記入1校

私立 3年間記録なし2校、比率未記入1校、比率不明1校

2008年度未集計1校、総数未記入1校、比率未記入1校、比率不明1校

2007、2006年度 比率不明1校

5. 卒業前後の状況

1) 過去3年間の卒後臨床研修機関としての募集定員数 (22大学)

	総計	国公立計	私立計
2008年度	2,285	454	1,831
2007年度	2,333	460	1,873
2006年度	2,401	483	1,918

2) 過去3年間の卒後臨床研修制度における貴大学のマッチング率 (平均%)

	全体	国公立計	私立計
2008年度	90	94	87
2007年度	91	95	87
2006年度	89.5	89	90

3) 過去3年間の貴大学卒業生の貴大学へのマッチング率 (平均%)

	全体	国公立計	私立計
2008年度	74.5	66	83
2007年度	75	63	87
2006年度	76.5	67	86

4) 過去3年間の大学院入学定員と大学院学生総数 (合計) (22大学)

	全体	国公立計	私立計
2008年度 大学院入学定員	973	539	434
2008年度 大学院学生総数	2,161	1,164	997
2007年度 大学院入学定員	1,197	763	434
2007年度 大学院学生総数	2,022	1,068	954
2006年度 大学院入学定員	1,023	589	434
2006年度 大学院学生総数	1,902	1,019	883

5) 過去3年間の大学院学生総数に対する貴大学出身者の比率 (平均%)

	全体	国公立計	私立計
2008年度	57.5	43	72
2007年度	57.8	42.7	73
2006年度	60.3	45.7	75

6. その他

自己点検評価の実施

	総計	国公立計	私立計
有	19	6	13
無	3	1	2

(B大学) 歯学研究科としての自己点検評価を毎年。また東北大学全学としての自己点検評価を3年毎に行っている。また、第三者(学外有識者)による外部評価を定期的実施している

(C大学) 歯学部における教育全般について、学生の成績評価法とその基準、シラバス、授業形態と方法、FD委員、教育カリキュラム、国際交流、学生の受け入れ、教育・研究のための人的、物的体制、社会貢献、学生生活、教員の業績評価報告

(D大学) 学生による授業評価の実施

(E大学) 大学基準協会による相互評価を平成8年度、平成15年度に受けている。平成21年度、認証評価を受ける予定

(F大学) 自己点検評価は毎年実施。外部評価(第三者評価)を定期的実施している

(G大学) 平成5年度から定期的に自己点検・評価を実施し、改善・改革に努めている。本学評価に対する社会的要請にこたえるべく、これを公表するとともに学内の自己点検・評価のみで

なく財団法人大学基準協会の行う第三者評価、さらには学外者に本学の自己点検・評価結果を評価する外部評価を受け改善・改革に努めている

(H大学)平成6年度から3年ごとに全学的な自己点検評価を行い、改善意見をまとめています。その改善結果を検証しながら、教育研究の質的向上に努めます

(I大学) 毎年自己点検自己評価を行い、冊子にしている

(J大学) 自己点検評価報告書を作成し、学外へ公表している

(K大学) 大学評価の形式に準じて行い、最終的に取り纏めたものを冊子としている

(L大学) 教員は任期制下にあり、各職位の任期に合わせて、任期更新のための評価基準がそれぞれ定められている。また、大学基準協会の維持会員として、7年ごとに実施されている相互評価による認証評価を受けている

(M大学) 教育内容に関しての卒業生へのアンケート調査の実施

(N大学) 学生による授業評価アンケート

(O大学) 自己点検評価は3年毎に実施

(P大学) 教授、准教授、講師に調査用紙を配布し、結果を集計後、学内にて公表している

(Q大学) 中期計画に基づく行動計画により、目標達成度等を点検評価している

(R大学) 学生への臨床実習アンケートの実施。アンケート結果を参考に次年度の学習内容を改善

(S大学) 全学で実施している中期目標・中期計画の中で、教育の自己点検評価を行っている
本学部独自の自己点検評価については、平成13年度以降実施していない

(U大学) 自己点検・評価委員会を置き自己点検評価をしている。また、2年ごとに報告書を作成しホームページや冊子郵送等にて公表している

以上

5. 事業報告

(2) 国内歯科大学・大学歯学部シラバス調査

シラバスの評価方法略号、

H = 筆記試験

R = レポート

J = 実習試験

口 = 口頭試問

小 = 小テスト

A 大学

科目	授業科目名	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	解剖学(実習)・組織学(実習)	2	85	127.5	86	258	H, R, 小, J, 口
生理学	生理学(実習)	2	52	78	11	33	H, J
生化学	生化学(実習)	2	38	57	12	37.5	H
病理学	病理学(実習)	3	46	69	14	42	H, R, J
細菌学	微生物学(実習)	3	48	72	12	36	H, R
薬理学	薬理学(実習)	3	42	63	10	30	H, R
歯理工学	歯理工学(実習)	2	46	69	12	36	H, R
公衆衛生学							
予防歯科学	予防歯科学(実習)	3	48	72	10	30	H, R
歯科保存学	保存修復学(実習)・歯周病学(実習)・歯内療法学(実習)	3-4	81	121.5	32	96	H, R, 小, J,
歯科補綴学	全部床補綴学(実習)・部分床補綴学(実習)・冠橋義歯学(実習)	4	63	189	38	136.5	H, 小
口腔外科学	口腔外科学(実習)	3-4	44	66	4	12	H
歯科矯正学	歯科矯正学(実習)	4	22	33	11	33	H, R, 小
小児歯科学	小児歯科学(実習)	4	25	37.5	11	33	H, J, 小
歯科放射線学	歯科放射線学	3	28	42			H
麻酔学	歯科麻酔学(実習)	4	21	31.5	1	4.5	H
内科学	内科学	3	60	45			H
外科学	外科学	3	15	22.5			H
隣接医学	小児科学・皮膚科学・神経科学・臨床検査医学・整形外科学・産婦人科学・耳鼻咽喉科学・眼科学・泌尿器科学	5					
医療倫理	問題基盤型学習・イの原則・態度演習	1-3	45	67.5			H
細胞生物学	専門課程への生物学, 実験	1	14	21	15	22.5	H, R
歯科医療入門	歯科医学概論(実習)・人体生命科学	1	78	117	9	58.5	H, J
歯科英語	専門英語	2-3-4	28	42			R
総合セミナー							
早期体験実習	歯科専門体験実習	2					R
研究体験実習							
社会歯科学	医学統計学・社会歯科学・法医学	2-3-5	41	61.5			H
加齢歯科学	高齢者歯科学	4	6	9			H, R, 小
インプラント学	口腔インプラント科学	4	15	22.5			
総合歯科学	総合講義・生命科学演習・口腔診断学(実習)・総合講義・総合演習	3-4-5-6	451	676.5	2	6	H, J
哲学	哲学	1	14	21			H
文学	近代日本文学	1	14	21			H, 作文
心理学	心理学	1	14	32			H
物理学	物理学, 実験	1	14	21	15	22.5	H, R, 小
統計学	数理統計学・情報の数理・情報リテラシー	1	56	84			H, R
化学	専門課程への化学, 実験	1	14	21	15	22.5	H, R
美術	人体を観る, 診る, 描く	1					21 形成的評価
英語	english reading&writing english speaking&listening	1	28	42	28	42	H
ドイツ語	ドイツ語	1	28	42			H
体育	健康運動科学・フィットネスとスポーツ	1	14	21	15	22.5	H, R
法学	法学	1	14	21			H, 小
選択科目	倫理学・いのちの文化論・人格の心理学・医療と法律	1	14	21			H, R
選択科目	日本語表現論・ことばの諸相・英語講読・ドイツ文化論	1	14	21			H, R
選択科目	日本語会話・韓国語会話・ドイツ語会話・フランス語会話・イタリア語会話・スペイン語会話	1	14	21			H, R
選択科目	準備物理学・準備化学・準備生物学・教養の化学・教養の生物学	1	14	21			H, R
障害者歯科学	障害者歯科学	4	9	13.5			H, R

B 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	歯のかたち・人体の構造・人体の発生・人体の細胞と組織・アドバンスⅡ、Ⅲ	1・2・3	143	420	41	278	H、J、スケッチ
生理学	生体の機能・口腔の機能・生体の機能応用	2・3	73	120	15	30	H、R
生化学	生体分子の科学Ⅰ、Ⅱ	2・3	54	115.5	23	34.5	H、R
病理学	病理総論・口腔病理	3	32	150	28		H
細菌学	感染と免疫	3	64	150	12	150	H、R、口
薬理学	くすりの科学	3	61	129	14	21	H、R
歯科理工学	歯科生体材料の化学Ⅰ、Ⅱ、アドバンスⅠ	2・3	52		26		H、R
公衆衛生学	口腔保健発育学Ⅱ	4	26		4		H
予防歯科学	口腔保健発育学Ⅰ	3・4	22		8		H
歯科保存学	口腔修復学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・口腔機能回復学Ⅳ	3・4	75		88		H、J
歯科補綴学	口腔修復学Ⅱ・口腔機能回復学Ⅰ、Ⅱ	4・5	75		120		H、R
口腔外科学	口腔病態外科学Ⅱ、Ⅲ	4	108				H、小論文
歯科矯正学	口腔保健発育学Ⅱ	4	20		28		H、小
小児歯科学	口腔保健発育学Ⅲ	4	58		14		H、小
歯科放射線学	口腔病態外科学Ⅰ	4	6		6		H、J
麻酔学	口腔病態外科学Ⅳ	4・5	38				H
内科学	隣接歯科学	5		180			H
外科学	隣接歯科学	5					H
隣接医学							
医療倫理							
細胞生物学							
歯科臨床入門	歯科臨床入門・歯学概論	1	22	90			担当教員の評価
歯科英語							
総合セミナー							
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	社会歯科学	4	22	60			R
加齢歯科学	口腔機能回復学Ⅱ	4・5	4				H
インプラント学							
総合歯科学	総合歯科学	5	48				H
	保存、補綴、小児歯科、矯正などの科目は他の大学と分け方が異なり、授業、実習の時間も明確に分からないので以下にあらためて表を作りました。						
口腔保健発育学Ⅰ	公衆衛生学・小児歯科学	3・4	50	total 120	4		
口腔保健発育学Ⅱ	咬合、成長発育・矯正学・小児歯科学	4	58	total 120	8		
口腔保健発育学Ⅲ	障害者歯科学・矯正学実習	4	18	total 120	42		
口腔病態外科学Ⅰ	放射線学	4	22	total 60	6		
口腔病態外科学Ⅱ	口腔外科学	4	35	total 75			
口腔病態外科学Ⅲ	口腔外科学・インプラント学	4	64	total 75			
口腔病態外科学Ⅳ	麻酔科学	4.5	45	total 60			
口腔修復学Ⅰ	保存修復学・メタルインレーン実習	3・4	13	total 150	52		
口腔修復学Ⅱ	冠橋義歯学・歯形彫刻・ブリッジ実習など	4	20	total 180	70		
口腔修復学Ⅲ	歯内療法学(実習)	3	15	total 90	15		
口腔機能回復学Ⅰ	欠損歯列の審査、診断・可徹性部分床義歯補綴学	3・4	15	total 120	16		
口腔機能回復学Ⅱ	加齢歯科学・全部床義歯補綴学(実習)・顎口腔機能回復学実習	4.5	15	total 150	30		
口腔機能回復学Ⅲ	歯周病学(実習)	4	15	total 90	15		

C 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	口腔解剖学(実習)・解剖学(実習)・	2					
生理学	口腔生理学(実習)	2	60	60	15	45	H、R、小
生化学	口腔生化学(実習)	3	60	60	15	45	H、R、小
病理学	口腔病理学(実習)	3	45	45	15	60	H、R、J
細菌学	口腔細菌学(実習)	3	45	45	15	45	H、R
薬理学	歯科薬理学(実習)	3	45	45	15	45	H、R、J
歯科理工学	生体材料・歯科材料学 I、II(実習)	2・3	45	45	15	45	H、R、J
公衆衛生学	口腔衛生学(実習)	3	45	45	45	45	H、R、J
予防歯科学							
歯科保存学	保存修復学 I、II(実習)・歯内療法学(実習)・歯周病学(実習)	3・4	135	135	45	135	H、J、小
歯科補綴学	冠橋義歯学 I、II(実習)・有床義歯学 I、II(実習)	3・4	105	105	45	180	H、R、J、小
口腔外科学	口腔外科学 I～VI	3・4	90	90			
歯科矯正学	歯科矯正学(実習)	4	45	45	15	45	H、小
小児歯科学	小児歯科学(実習)	4	45	45	15	45	H、J、小
歯科放射線学	歯科放射線学	3	45	45			H
麻酔学	歯科麻酔学	4	45	45			H
内科学	内科学	3	15	15			H
外科学	外科学	3	7	7			H
隣接医学	小児科学	3	8	8			H
医療倫理							
細胞生物学	基礎生物学・生物学実験	1	90	90	60	60	H、小
歯科医療入門	歯科医学概論・歯科医学演習・歯科医療人間学 I～IV・歯科臨床基礎学 I、II・診療視聴覚教育・生命基礎科学	1・2・3・4	285	285	15	30	H、R、口
歯科英語	英語 I、II・英会話	1・2	120	120			H
総合セミナー	総合科目 I～IV(演習)・総合学習 I～IV	1・2・3・4	270	270	15	15	H、J、小
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	法医学・社会歯科学 I、II・歯科医療管理学	1・2・3	90	90			H
加齢歯科学							
インプラント学							
総合歯科学	臨床総合講義・OSCE、CBL演習	4	450	450			H
心理学	心理学	1	30	30			H、R、小
物理学	基礎物理学・物理学・物理学実験	1・2	90	90	45	45	H、R、J
化学	基礎化学・化学・化学実験	1・2	120	120	45	45	H、R
統計	統計数学・I、C、T	1	90	90			H、R
ドイツ語	ドイツ語 I、II	1・2	60	60			H
国語	文章表現	1	30	30			H
倫理学	倫理学	2	45	45			H、小
社会学	社会学・社会学	1・2	60	60			H、R
臨床実習	臨床実習	5			464	464	H
美術	美術	1	30	30			H

D 大学

科目	授業科目名	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	口腔解剖学・組織学	2	106	159	88	132	H、J
生理学	口腔生理学	2・3	96	144	8	12	H、口、R
生化学	生化学・口腔生化学	2・3	70	105	8	12	H、小、J、R
病理学	病理学・口腔病理学	3	55	83	35	52.5	H、R、小
細菌学	微生物学	3	54	81	12	18	H、J
薬理学	薬理学	3・4	69	103.5	9	13.5	H、R、J
歯科理工学	歯科材料科学・歯科機械学	3	58	87	30	45	H、R、J
公衆衛生学	口腔衛生学	3	69	103.5	12	18	H
予防歯科学							
歯科保存学	保存修復学・歯内療法学・歯周病学	3・4・5	68	102	84	126	H、J
歯科補綴学	総義歯学・局部床義歯学・CrBr学	4・5	130	195	225	337.5	H、J
口腔外科学	口腔外科学	3・4	94	141	20	30	H
歯科矯正学	歯科矯正学	4・5	33	49.5	33	49.5	H
小児歯科学	小児歯科学	4・5	35	52.5	9	13.5	H
歯科放射線学	小児歯科学・放射線学	3・4	42	63	4	6	H
麻酔学	麻酔学	4	15	22.5			H、R
内科学	内科学	4	16	24			H
外科学	外科学	4・5	8	12			H
隣接医学	小児科学・総合講義・皮膚科学・耳鼻咽喉科学・眼科学	4・5	32	48			H
医療倫理	医療倫理	2	50	75			
細胞生物学							
歯科医療入門	行動科学・歯学概論・口腔診断学・医療情報科学	1・4	88	132	4	6	H、R
歯科英語	歯学英語	3・4	28	42			H、小
総合セミナー	歯学教養ゼミ・総合講義	1・3	50	75			R
早期体験実習	総合講義	5		21	14	21	
研究体験実習	歯学基礎科学	2			27	40.5	
社会歯科学	歯学・医事法制・歯科医療管理学	5	21	31.5			
加齢歯科学	高齢者歯科学	5	12	18			H
インプラント学	口腔外科	4	6	7.5			
総合歯科学							
医療心理学	医療心理学・歯科行動科学	5	12	18	4	6	H、R
数学	数学	1・2	131	196.5			R、小
物理	物理、総合理科実験	1・2	74	111	25	37.5	H、R、小
化学	化学、総合理科実験	1・2	74	111	8	12	H、R
生物	生物、総合理科実験	1・2	97	145.5	8	12	H、R
哲学	哲学	1	34	51			H
倫理学	倫理学	1	30	45			H、R
心理学	心理学、人間関係論	1	70	112.5			H、小
経済学	経済学	1	30	45			H、小
体育	体育	1・2			50	75	R、J
英語	英会話・英作文・英文講読	1・2	247	370.5			Hリスニングテスト、小
選択	中国語・スペイン語・ドイツ語	1	32	48			H、小
PC	PC入力・パソコン学習	1・2	25	37.5	21	31.5	H
コミュニケーション	コミュニケーション論	2	17	25.5			

E 大学

科目	授業科目名	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	解剖学(実習)・口腔解剖学(実習)・組織学(実習)・口腔組織学(実習)・発生形態学	2	100	150	85	255	H、口、R、スケッチ
生理学	生理学(実習)・口腔生理学	2-3	53	79.5	14	42	H、R
生化学	物質の科学・生物の構造と機能(実習)・生化学	2-3	82	123	28	84	H、小、R
病理学	病理学(実習)・口腔病理学(実習)	2-3	42	63	27	81	H、R、小
細胞生物学	微生物学(実習)・口腔微生物学	2-3	41	61.5	14	42	H、口
薬理学	薬理学(実習)・薬理薬理学	2-3	41	61.5	14	42	H、R、口
歯理工学	歯理工学(実習)	2-3	43	64.5	15	45	H、R、小
公衆衛生学	衛生学(実習)	3	31	46.5	8	24	H、小、R
予防歯科学	口腔衛生学(実習)	3-4	23	34.5	8	24	H、小、J
歯科保存学	歯内療法学(実習)・保存修復学(実習)・歯周療法学(実習)	3-4	83	124.5	41	162	H、R、口、J
歯科補綴学	歯科補綴学総論・有床義歯補綴学・総義歯学実習・クラウンブリッジ補綴学(実習)・局所義歯実習	3-4	84	126	41	246	H、J
口腔外科学	口腔外科学(実習)・オーラルデザイン	4	78	117	4	12	H、R
歯科矯正学	歯科矯正学(実習)	3-4	28	42	14	42	H、R
小児歯科学	小児歯科学(実習)	3-4	27	40.5	14	42	R、小
歯科放射線学	歯科放射線学	4	28	42	6	9	R、H、J
歯科学	歯科麻酔学	4	4	42	4	12	H、R
内科学	内科学	4	27	40.5			H
外科学	外科学	4	24	36			H
隣接医学	産婦人科学・整形外科学・精神神経科学・小児科学・皮膚科学・耳鼻咽喉科学・眼科学	4	42	63			H、R
医療倫理				0			
細胞生物学	細胞分子生物学	2	28	42			H、小
歯科医学入門	歯科医学概論・生命倫理・歯科臨床概論	1-2	41	61.5			R、H
歯科英語	科学英語・歯科医学英語・歯科医学英語講読	2-3	28	42			H
総合セミナー				0			
早期体験実習	コミュニケーション学	1-2-3-4	52	102	8	24	R
研究体験実習				0			
社会科学	法社会学・社会歯科学・歯科医療管理学	3-4	42	63			H
加齢歯科学				0			
インプラント学				0			
総合歯科学	課題講義	4-5	97	145.5			H、J、R
歯科基礎科学				0			
PC				0			
障害者の歯科治療				0			
顎顔面補綴学				0			
第二外国語				0			
哲学	哲学	1	13	19.5			H、R
法医学				0			
歴史学				0			
統計学	医療統計学	2	14	21			H
地理学				0			
物理学	基礎物理学・一般物理学・理科実験・自然科学演習	1	45	67.5	5	15	H
化学	基礎化学・一般化学・理科実験・自然科学演習	1	32	48	9	27	H、小、R
生物学	基礎生物学・一般生物学	1	26	39			H
英語	英語	1	80	120			H
経済学	経済学	1	14	21			H
社会学	日本史・社会学・社会福祉・医療法学	1	55	82.5			H
人類学	人類学	1	14	21			H、小、R、H
情報科学	情報科学入門	1	13	19.5			R、H
宗教学				0			
心理学	心理学	1	27	40.5			H
健康学	健康学・体育実技	1	9	13.5	42	63	H、J
文学	美術	1	13	19.5			
芸術				0			
生涯学習				0			
数学	自然科学演習・数学・歯科基礎数学	1	43	64.5			H
ドイツ語	独語	1	53	79.5			H
フランス語	フラン語	1	14	21			H、小

F 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	人体の構造と機能	3	136		66		H 小 R 口
生理学	人体の構造と機能	3	71		45		H 小 口
生化学	人体の構造と機能	3	45		45		
病理学	病理	3	65		19		H
細菌学	感染と生体防御	3	55		18		H 小
薬理学	歯科医療基礎	4	45		21		H 小 R
歯理工学	生体材料	3	45		24		H 小 R
(公衆衛生学)	歯科医療基礎に含まれる	4	32		24		H R
予防歯科学	歯科医療基礎	4					
歯科保存学	う蝕と歯髄疾患 歯周病	45	97		155		H J
歯科補綴学	咬合回復、う蝕と歯髄疾患	5	82		230		H J
口腔外科学	顎口腔医療	5	59		15		H 小
歯科矯正学	咬合育成・発達	4	17		35		H J R 口
小児歯科学	咬合育成・発達	4	38		14		H J R 口
歯科放射線学	歯科医療基礎	4	48		7		H R
麻酔学	全身と歯科医療	5	26		4		H R
内科学	全身と歯科医療	5	34		3		H R
外科学	全身と歯科医療	5	12		0		H R
隣接医学	全身と歯科医療、顎口腔医療	3	76		6		H 小
医療倫理	歯科医療入門	3	26		0		H 小 R
細胞生物学	生命の分子の基盤と細胞の機能	3	81		18		H 小 R
歯科医療入門	歯科医療入門	3	90				H 小 R
歯科英語	学年混合選択セミナー	345	15		0		R
総合セミナー	課題統合セミナー	345	66		0		
早期体験実習	臨床体験実習1	34	2		60		R
体験実習	臨床体験実習1, 包括臨床実習、臨床情報処理	56	14		609+6年全コマ		小 R
研究体験実習	臨床体験実習2, 包括臨床実習	4	6		236		ポートフォリオ
社会歯科学	研究体験実習	4	28		0		H 小 R
加齢歯科学	歯科医療基礎	5	14		0		H R
インプラント学		45	8		0		H
総合歯科学			0		0		
学年混合選択セミナー		345	10		0		R
総合課題演習		3	51				H 小

教養シラバスなし

G 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	生命科学・解剖組織学・口腔形態学・顎顔面発生学	2	181	181	45	180	H、小、口
生理学	生体機能学、口腔機能学	2	60	60	14	42	H、小、R
生化学							
病理学	病理病態学	3	30	30	33	99	H、小
細菌学	感染微生物学	3	71	71	14	42	H、小
薬理学	生体機能制御学、薬物療法学	3.4	102	10	20	60	H、小、R
歯科理工学	歯科材料学	2	30	30	15	45	H、小
公衆衛生学	健康科学	3	14	14			H
予防歯科学	口腔健康学	3	43	43	15	45	H
歯科保存学	歯冠修復学、歯髄・歯周疾患治療学	3	164	164	87	246	H、小
歯科補綴学	欠損修復学	4	83	83	56	168	H、小、口
口腔外科学	顎口腔疾患治療学、顎機能治療学、顎機能診査診断学	3.4	143	143	26	26	H、小
歯科矯正学	顎口腔診査診断学	4	75	75	15	45	H、小、J
小児歯科学	咬合学、専門歯科学	6			7	21	口、小、J
歯科放射線学	(咬合学を含む)、専門歯科学						
麻醉学	(顎口腔診査診断学を含む)						
内科学	(顎口腔診査診断学を含む)	6	30	30			H、小
外科学	内科学	6	30	30			H、小
隣接医学	外科学	6	47	47			H、R
医療倫理	泌尿器科学・脳神経外科学・人類遺伝学・法医学・精神神経科学						
細胞生物学		2			13	39	J、H
歯科医療入門	生命基礎科学	1.2.3.4	224	224			H、R、小
歯科英語	医療人間科学	1.2.3.4	142	142			H、小
総合セミナー	英語、アドバンス外国語 I						
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	社会歯科学、専門歯科学	6	40	40			H、R
加齢歯科学							
インプラント学							
総合歯科学	臨床歯科学	5	102	306			H、R
ドイツ語	ドイツ語、アドバンス外国語 II	1.4	60	60			H、R
統計	数理情報科学	1	14	14	26	52	H、小
自然科学	基礎自然科学(物理、化学、物質、生体高分子)	1	209	233	27	81	H、小、口
先端	先端歯科治療学	6	28	28			H、小、R
	専門歯科学に矯正・咬合誘導(小児)・法医学を含み明確なら インなし						

H 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	口腔の基本構造・人体の構造と機能・頭頸部・口腔の基本構造と機能 口腔、頭蓋、顎顔面領域の加齢とその異常	2.3	246	348	71	171	R、J
生理学	人体の構造と機能(実習)	2.3	70	70	15	44	R、口、H
生化学	生命の分子的基本(実習)	2	28	28	30	67.5	J
病理学	病因と病態	3	42	42	14	42	H、J
細菌学	感染と免疫(実習)	2	28	35	29	64	H
薬理学	生体と薬物	3	42	42	14	42	H、R、小
歯科理工学	歯科生体材料・歯科材料	2	28	35	30	67.5	H、J
公衆衛生学	社会歯科1	2	30	30			H、R
予防歯科学	社会歯科2-②	4	28	28	14	42	H、R
歯科保存学	歯、歯周組織の疾患1、2・歯科医学総合講義	3.4	58	87	88	160	H、R、J、口
歯科補綴学	歯、歯周組織の疾患1、2・歯科医学総合講義	3.4	101	101	29	64.5	H、R、J、小
口腔外科学	口腔、顎顔面領域の疾患①②・診査の基本②	3.4	84	154			H、
歯科矯正学	歯科医療の展開	4	14	28	26	58.5	H、J
小児歯科学	歯科医療の展開	4	14	28	29	66	H、小
歯科放射線学	社会歯科医学2-①・診査の基本①	3	15	30	15	45	H、
麻酔学	診査の基本①	3	30	30	15	45	H
内科学	全身と疾患	4	15	30			H
外科学	全身と疾患	4	15	30			H
隣接医学	全身と疾患	4	43	86			H
医療倫理	医の原則①②	2.4	42	56			H、R
細胞生物学	生命現象の科学2・生涯学習	1.2	69	127	14	42	H、R
歯科医療入門	歯科医学概論	1	14	28			H、R
歯科英語	基礎英語・英会話・科学英語	1	81	162			H
総合セミナー							
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学							
加齢歯科学	歯科医療の展開	4	14	28			H
インプラント学	診査の基本	4	14	28			H
総合歯科学	歯科医学総合講義・テーマ別講義	5.6	446		13	26	J
美術	美術演習	1					
保健体育	保健体育	1	26	52			H、J
化学	生命現象の科学1	1	29	58	14	42	H、R
物理	物理現象と物質の科学	1	29	58	14	42	H
情報	情報の科学・医療情報学	1.4	71	128			H
人文(選択)	外国文学・美学・哲学・倫理	1	13(後)14(前)	26(後)28			H、R
社会(選択)	医学・歯医学史・法学・社会学	1	14(後)15(前)	28(後)30			H、R
外国語(選択)	ドイツ語・フランス語	1	14(後)15(前)	28(後)30			H、R、小
検査	診査の基本②	4	30	45			H
障害者歯科	全身疾患患者の歯科治療	4	73	88			H

J 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	歯の解剖、人体の構造と発生、人体解剖学、口腔解剖学、口腔組織発生学、総合基礎医学、臨床解剖学、人体の組織	12346	128	167	65	84	H 小 R
生理学	生体の機能、総合基礎医学	12363	60	78	14	18	H R
生化学	分子生物学、口腔分子機能学	12346	79	103	13	17	H R
病理学	病態病理学	2346	64	83	13	17	H 小
細菌学	感染微生物学、生命防御学、総合基礎医学	12346	69	90	12	16	H 小 R
薬理学	薬物療法学、総合基礎医学	2346	74	96	10	13	H 小 R
歯科理工学	歯科材料工学、材料科学、総合基礎医学、歯科理工学	2346	80	104	13	17	H R
公衆衛生学	公衆衛生学、環境保健学、健康科学、総合基礎医学	2364	79	103	13	17	H
予防歯科学	健康科学、予防歯科学、口腔保険学実習	236	30	39	13	17	H R
歯科保存学	歯科硬組織修復学、歯髄・根尖歯周疾患治療学、歯周疾患治療学	346	192	250	68	88	H 小 J
歯科補綴学	歯冠補綴学、総義歯補綴学、局部小義歯補綴学、架工義歯学	346	133	173	51	66	H 小 J
口腔外科学	口腔診断治療学、口腔外科手術の基礎手技実習	346	101	131	21	27	H J
歯科矯正学	顎顔面口腔形態機能成育学	346	66	86	13	17	H 小 J
小児歯科学	顎顔面口腔形態機能成育学	346	42	55	12	16	H 小 J
歯科放射線学	顎顔面口腔形態機能成育学	346	105	137	8	10	H 小
麻酔学	人と放射線、画像検査の基礎と応用	46	42	55	10	13	H 小
内科学	歯科麻酔学、救急処置	34	26	34	0	0	H 小
外科学	内科学	34	23	30	0	0	H
隣接医学	耳鼻咽喉科学、皮膚科学	5	26	34	0	0	H
医療倫理	PBLチュートリアル、医と哲学、歯科医療の基本	12	52	68	0	0	H
細胞生物学	生命の科学	1	14	18	0	0	H
歯科医療入門	病院医療概論、医療コミュニケーション概論	13	24	31	12	16	総合評価
歯科英語			0	0	0	0	
総合セミナー	顎口腔機能制御・再建学総合臨床基礎学実習、歯周疾患治療学	4	39	56	0	0	H 小 J
早期体験実習			0	0	0	0	
体験実習		5	通年				
研究体験実習			0	0	0	0	
社会歯科学	法学、社会歯科学、歯科法医学	125	39	56			H
加齢歯科学	高齢者歯科学	3	13	17	0	0	ポートフォリオ
インプラント学	インプラント学	5	13	17	0	0	H
総合歯科学	総合歯科学、歯科医学基礎特論、歯科医学総論	56	59	77	0	0	H 小
数学	数理基礎	1	13	17	0	0	H 小
生物学	生物学、生命の科学、基礎生物学	1	25	32.5	13	17	H R 小
物理学	物理現象の科学、基礎物理学、物理学	1	38	49	13	17	H R
化学	生体物質の化学、基礎科学、科学実習	1	38	49	13	17	H R 小
英語	応用英語、Oral Communication、総合英語	12	52	68	0	0	H
ドイツ語							
国語							
心理学	心理学概論	1	23	30	0	0	H 小
体育	実践スポーツ健康学、スポーツ健康学	1	13	17	13	13	小 R J
統計	医学統計学	1	13	17	13	13	H 小 R
コンピュータ	情報リテラシー、アドバンスリテラシー	1	14	18	13	13	H R 小
選択科目							
文学	文学	1	13	17	0	0	H R
環境と命	環境と命	1	10	0	0	0	H

K 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	解剖学(実習)・口腔解剖学(実習)・組織学・口腔組織学(実習)	2.3	70		45		H, J, R
生理学	生体生理機能学(実習)・生体機能調節学・顎運動制御学	2.3	48		10		H, R
生化学	分子生命科学(実習)・唾液と唾液腺	2.3	20		6		H, R
病理学	病理病態診断学(実習)・口腔顎顔面病態病理診断学	2.3	29		29		H, O, R
細菌学	病態病理診断技能学	2.3.4	50		14		H
薬理学	薬物療法学・生体防御学(実習)・菌性感染性	2.3.4	48		10		H, R
歯科理工学	化学療法薬の基礎と臨床	2.3	39		14		H, R
公衆衛生学	歯科技術工学・歯科理工学(実習)・材料化学	2.3.4	41				H, R
予防歯科学	健康口腔学・環境保健学・地域口腔保健学	3.4	28		7		H, R
歯科保存学	基礎口腔学・口腔保健学実習・予防歯科学実習 総合診療検査学(実習)・口腔制御接着修復学(実習)	3.4	111		46+9		H, R, J
歯科補綴学	歯髓根検査歯周疾患治療学(実習)・基本的治療手技実習 歯周疾患治療学(実習)・基本的治療手技実習 口腔顎顔面外科診断治療学(実習)・顎矯正修復学 顎口腔機能診断学・部分床義歯補綴学(実習) 全部床義歯補綴学(実習)・架工義歯学(実習)	3.4	71		41		H, J, O
口腔外科学	口腔顎顔面外科手術学(実習)・口腔顎顔面外科学(実習) 口腔顎顔面外科診断治療学・歯科症候学演習	3.4	81		6		H, R
歯科矯正学	不正咬合の治療計画立案実習	4			7		R
小児歯科学	顎顔面口腔形態機能養成学・咬合誘導実習	2.3.4	54		7		H, R
歯科放射線学	ヒトと放射線画像検査の基礎と応用	3	29				H, R
麻酔学	歯科麻酔と救急処置	4	28				H
内科学	内科学	4	28				H
外科学	外科学	4	28				H, 小
隣接医学	耳鼻咽喉科学	4	14				H
医療倫理	医療倫理学・医の倫理入門・歯科コミュニケーション実習	2.4	14		7		H, 観察記録(R?)
細胞生物学	細胞の生物学・自然科学実習	1	29		14		H
歯科医療入門	医学概論・歯科医学史・専門歯科治療概論・歯科医学入門演習	1.2	41				H, R
歯科英語	総合英語・医療英語・英語会話	1.2	110				H
総合セミナー	病院体験実習	1.3			20		J, R
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	医療法学・歯科法医学・医療情報・医療管理学・社会歯科介護福祉	2	35				H
加齢歯科学	高齢者歯科学	4	7				H
インプラント学	顎咬合診断・口腔インプラント学	4	14				H
総合歯科学	包括歯科医療・総合科目						
心理学	青年心理学・臨床心理学	1.2	28				H
自由科目	社会学・外国文学・経済学・基礎数理・ドイツの生活と情報	1	14				H, R
選択	原子核と放射線・物質の構造と反応・生命の連続性へのアプローチ	2	14				H, R
物理	熱と物質の物理	1	14		14		H, R
化学	生体物質の化学	1	13		14		H
統計	基礎関数解析学・情報科学の実習・医療統計学	1.2	27				H, R, 小
ドイツ語	基礎独語	1	14				H, R
国語	国語表現法	1	14				J
体育	フィットネス	1			14		J
障害者歯科	障害者歯科学・歯科心身医学	3.4	7				H
検査	臨床検査・検査学	3	14				H
ヒト	ヒトの一生・顔	2	21				H, R
ファンダメンタル	ファンダメンタルスキル実習	1	8		15		J

L 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	歯の解剖学・骨学・人体解剖学(実習)・解剖学(実習)・組織学(実習)・口腔組織学(実習)	2	79		56		H,スケッチ
生理学	興奮性組織の生理学・神経の生理学・循環、呼吸の生理学・口腔生理学(実習)	2	56		14		H,口,R
生化学	一般生理学・口腔生化学(実習)	2.3	28		14		H,J
病理学	基礎細菌学・一般細菌学・口腔細菌学(実習)	2.3	28		28		H,J,スケッチ
細菌学	基礎細菌学・一般細菌学・口腔細菌学(実習)	2.3	28		7		H,口,R
薬理学	歯科薬理学 I~III(実習)	2.3	42		7		H,R,小
歯理工学	歯科理工学 I~III(実習)	2.3	42		14		H,R,小
公衆衛生学	口腔保健学	3	14				H
予防歯科学	予防歯科学 I, II(実習)	3	24		7		H,R
歯科保存学	保存修復学(実習)・歯周治療学(実習)・歯内療法学(実習)・歯形彫刻実習・歯周病の基礎と臨床・ウ蝕学	3.4	71		70		H,R,J,口
歯科補綴学	全部床補綴学(実習)・部分床補綴学(実習)・冠橋補綴学(実習)	3.4	42		82		H,J
口腔外科学	口腔外科学 I~V・救命救急歯科学・咬合学	3.4.5	104				H,小
歯科矯正学	歯科矯正学 I, II(実習)	4	28		14		H,J,小
小児歯科学	小児歯科学 I, II(実習)	4	28		10		H,J
歯科放射線学	小児歯科学 I~III	3.4	42				H
麻酔学	歯科放射線学	4	14				H
内科学	内科学 I~III	3.4	42				H
外科学	外科学 I, II	4					H
隣接医学	耳鼻咽喉科学・眼科学・皮膚科学・精神科学・小児科学・産婦人科学	5					H
医療倫理							
細胞生物学	細胞生物学・ヒトの細胞遺伝子・自然科学演習 I, II	1	90		6		H,R
歯科医療入門	医療人間科学(実習)	1.2	11		28		H,R,口
歯科英語	英語 I~VIII・歯科医学英語 I, II	1.2	95				H
総合セミナー	進化する歯学・生体科学の基礎・生体防御の仕組み・生体材料と歯科医療						
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	歯科法医学・社会歯科学	3.4	28				H,R
加齢歯科学	加齢の科学・高齢者歯科学	3.4	29				H
インプラント学	口腔顎顔面インプラント学	4	14				H
歯科医学	歯科医学総論 I~III・総合歯科医学	4.5	70+α				H,J,小
心理学	心理学 I, II	1	28				H
物理学	物理学	1	27				H,R
化学	化学 I~III	1.2	42				H
統計	統計解析・情報処理・統計処理	1.2	27		28		H
ドイツ語	ドイツ語 I~IV	1	19				H
国語							
体育	保健体育講義・体育実技	1.2	13		43		H,R
総合臨床基礎実習	総合臨床歯科実習	4	14				J
臨床実習	臨床実習 I, II	5.6					
選択科目	動物学実習・人体と地球環境・日本語コミュニケーション・ヨーロッパ文学・視覚教育科目・生命倫理学・有機化学・超高齢社会における歯科医学・中級ドイツ語・宗教学 I, II	1.2	115				H,R
宗教学	宗教学 I, II	1	27				H
ラテン語	ラテン語	2	5				H

M 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	人体発生学、組織学、人体解剖学、基礎科学演習、基礎科学、歯の形態、口腔組	23	119	178.5	153	229.5	H J 口
生理学	細胞発生学、生体構造機能学、神経解剖学	23	26	39	22	33	H R J グループ討論
生化学	生理学、基礎科学演習、生体機能学	23	12	18	16	24	H R J グループ討論
病理学	生化学、基礎科学演習	234	61	91.5	44	66	H R
細菌学	病理学、基礎科学演習	23	75	122.5	26	34.5	H R 口
薬理学	基礎科学演習、口腔微生物学	3	16	24	16	24	H R J
歯科理工学	歯科理工学、生体理工学、基礎科学演習、生体材料学	23	72	108	58	87	H 小 R
公衆衛生学	公衆衛生学	3	16	24			H
予防歯科学	予防歯科学	4	16	24	16	24	H ディスカッション
歯科保存学	保存修復学、う蝕学、歯冠修復学、歯周病学、歯内療法学、実践歯周治療学、ク	346	119	178.5	123	184.5	H J
歯科補綴学	リニカルカリオロジー	45	85	127.5	63	94.5	H J
口腔外科学	有床義歯学、欠損補綴学	4	32	48	9	13.5	H J R
歯科矯正学	口腔外科学	4	4	6	38	57	H J
小児歯科学	歯科矯正学	4	45	67.5	9	13.5	H 小 J
放射線学	成長発育学、小児歯科学	4	26	39	0	0	H
麻酔学	放射線学	45	36	54	0	0	H 小
内科学	麻酔学、全身管理学	4	24	36	0	0	H
外科学	内科学	4	14	21	0	0	H
隣接医学	整形外科学、小児科学、神経内科学、脳神経外科学、小児外科学、眼科学、産	45	14	21	0	0	H
医療倫理	科婦人学、精神医学、耳鼻咽喉科学、皮膚科学	4	8	12	0	0	H R J
細胞生物学	医療倫理						
歯科医療入門	細胞生物学						
歯科英語	細いコミュニケーション論	3	32	48	0	0	H 討論
総合セミナー	臨床英語	4	15	22.5	0	0	H
早期体験実習	顎顔面診断・治療学、統合科目、特別授業	56	12	18	72	108	H 小 口
研究体験実習	顎顔面診断・治療学、統合科目、特別授業	12			44	66	R
社会歯科学	早期臨床実習	56			?	?	
加齢歯科学	臨床予備実習、臨床実習	23	21	31.5	6	9	H R
インプラント学	組織工学実習、歯学研究入門	4	10	15	0	0	H
総合歯科学	社会歯科学	4	32	48	0	0	H
数学	加齢歯科学	5	9	13.5			H
物理学	統合科目						H 小
化学	数学						H 小
英語	物理学						H R 小
ドイツ語	化学						H R
国語	英語						H R 小
心理学	ドイツ語						H
体育	国語						H 小
統計	心理学						H R J
コンピュータ-	体育	21	46	69	0	0	H R プレゼンテーション
選択科目	統計						H R 小
文学	コンピュータ-						H R
	選択科目						H
	文学	2	8	12			H
	バイオメディカルサイエンス						

N 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	解剖学(実習)・歯の解剖学・組織学・口腔組織学(実習)	2.3	45	67.5	45	202.5	H、R、小
生理学	生理学・口腔生理学(実習)	2	45	67.5	14	42	H
生化学	生化学・口腔生化学(実習)・生化学特講	2.3	60	90	15	45	H、R
病理学	病理学・口腔病理学(実習)	3	60	90	15	45	H
細菌学	細菌学・口腔細菌学(実習)	2.3	45	67.5	15	45	H、小
薬理学	薬理学・歯科薬理学(実習)	2.3	45	67.5	15	45	H、R、小
歯科理工学	歯科理工学(実習)	2	45	67.5	15	45	H、R、小
公衆衛生学	衛生学	2.3	30	45			H、R、小
予防歯科学	口腔衛生学・衛生学・口腔衛生学実習	3	30	45	15	67.5	H、R、小
歯科保存学	歯冠彫刻実習・保存修復学(実習)・歯内治療学(実習)・歯周病学(実習)	3.4	45	67.5	45	135	H、口、J
歯科補綴学	全部床義歯学(実習)・部分床義歯学(実習)・冠・架工義歯学(実習)	3.4	90	135	45	135	H、J、小
口腔外科学	口腔外科学	3.4	60	90			H、小
歯科矯正学	歯科矯正学(実習)	3.4	30	45	15	45	H、J、小
小児歯科学	小児歯科学(実習)	3.4	30	45	15	45	H、J、小
歯科放射線学	歯科放射線学	4	30	45			H、小
麻酔学	歯科麻酔学	4	30	45			H、小
内科学	内科学	3	30	45			H、R
外科学	外科学	3	15	22.5			H
隣接医学	隣接医学	3.4.5	45	67.5			H、小
医療倫理	医療人行動学	1.2.3	75	112.5			H、R
細胞生物学	分子生物学・生物学実験	2	15	22.5	8	24	H、小
歯科医療入門	歯科保健医療総論・入門歯科学(実習)・生命科学入門	1.4			30	90	R、口、H
歯科英語	言語表現・英語	1.2	60	90			H、小
総合セミナー							
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	社会歯科学・法医学歯科学	3.4	45	67.5			H
加齢歯科学							
インプラント学							
総合歯科学	総合講義	4.5.6	864	1296			H、小
障害者歯科学	障害者歯科学	3	15	22.5			H、小
心理学	臨床心理学	2.3	30	45			H
社会	人と社会	1	16	24			R、H
体育	体育	1	30	45			出席
統計	情報リテラシー	1	30	45			出席、総合的
言語	言語表現	1	30	45			H
自然科学	基礎自然科学(数理・化学・生物)・化学実験	1.2	180	270	8	24	H、小
PBLセミナー	経済セミナー・ドイツとドイツ語・脳を鍛える・運動とからだ 人体を考える・歯科理工学入門セミナー・細胞生物学セミナー 食品の機能を考える・数理物理科学入門ⅠⅡ・社会思想 英語で読み解く生命科学・鏡検標本を作る・最先端歯科医療の扉 喫煙と健康・健康スポーツセミナー	1	15	22.5			R

○ 大学

科目	授業科目名	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	解剖学(実習)・口腔解剖学(実習)・生理学(実習)・口腔生理学(実習)	2	106	159	56	168	記載なし
生理学	生理学(実習)・口腔生理学(実習)	2	43	64.5	16	24	
生化学	生化学(実習)・口腔生化学(実習)	2	49	73.5	16	24	
病理学	病理学(実習)・口腔病理学(実習)	3	60	90	18	27	
細菌学	微生物学(実習)・口腔微生物学(実習)	2	45	67.5	16	24	
薬理学	薬理学・歯科薬理学(両実習)	2	46	69	7	21	
歯科理工学	歯科理工学(実習)	2	46	69	16	24	
公衆衛生学	衛生学・口腔衛生学実習(両実習)	3	30	45	16	24	
予防歯科学							
歯科保存学	歯内療法学(実習)・歯周病学(実習)・歯冠修復学(実習)	3	130	195	41	61.5	
歯科補綴学	可徹性義歯学(実習)・固定性義歯学(実習)	3・4	81	121.5	54	117	
口腔外科学	口腔外科学(実習)・顎顔面外科学(実習)	4	60	90	32	48	
歯科矯正学	歯科矯正学(実習)	4	45	67.5	16	24	
小児歯科学	小児歯科学(実習)	4	45	67.5	20	30	
歯科放射線学	歯科放射線学(実習)	3	45	67.5	15	22.5	
麻酔学	麻酔学	4	30	45			
内科学	内科学	3	30	45			
外科学	外科学	3	30	45			
隣接医学	耳鼻咽喉科学・皮膚科学・小児科学	3・4	45	67.5			
医療倫理	歯科医療管理学	4	15	22.5			
細胞生物学							
歯科医療入門	歯学概論・基礎ゼミ	1	105	159			
歯科英語	英語・英会話・英語基礎	1	90	135			
総合セミナー							
早期体験実習	早期体験学習	1					
研究体験実習							
社会歯科学	社会歯科学・法医学	4	30	45			
加齢歯科学	高齢者歯科学(実習)	4	15	22.5	15	22.5	
インプラント学	インプラント学(実習)	4	15	22.5	15	22.5	
総合歯科学	客観的総合演習・課題講義	2・3・4・5・6	268	402			
障害者歯科学	障害者歯科学(実習)	4	15	22.5	15	22.5	
哲学	哲学	1	28	42			
歴史学	歴史学	1	30	45			
文学	文学	1	26	39			
法学	法学	1	30	45			
地理学	地理学	1	42	63	14		
政治学	政治学	1	27	40.5	15		
倫理学	倫理学	1	30	45	14		
心理学	心理学	1	30	45			
統計学	統計学・情報処理基礎・情報処理演習	1	60	90			
数学	数学	1	30	45			
物理学	物理学(実習)	1	30	45	7	21	
化学	化学(実習)	1	30	45	6	18	
生物学	生物学(実習)	1	30	45	7	21	
健康体力科学	健康体力科学	1	30	45			

科目	授業科目名	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	人体の構造・細胞の構造と機能・歯の構造	2	68		132		H, R, 口, 小
生理学	人体の機能	2	28		20		H, R
生化学	生命の分子の基礎	2	70		18		H, 小, R
病理学	病因、病態、診断	3	56		56		H, R
細菌学	感染と免疫	3	42		13		H, R
薬理学	生体薬物	3	42		14		H
歯理工学	生体・歯科材料	2・3	42		15		H, R, J, 小
公衆衛生学	社会と歯学	2・3	60		6		小, 感想文, J
予防歯科学	歯冠形成・歯髄歯冠組織疾患の病態と診断	2・3・4	103		56		H, J, 小
歯科保存学	歯の欠損・全部欠損補綴・部分欠損補綴・冠橋義歯補綴	2・3・4	41		81		H, J, 小
歯科補綴学	口腔・顎顔面領域の疾患	4	42				H
口腔外科学	顎顔面部の成長と発育と不正咬合・不正咬合の診断と治療	3・4	24		14		H, R
歯科矯正学	小児の歯科治療	4	20		7		H, J
歯科放射線学	画像検査	4	28				H
歯科麻酔学	歯科麻酔	4	14				H, R
内科学	臨床医学	4	28				H
外科学	臨床医学	4	28				H
隣接医学	臨床医学(小児学・眼科学・頭頸部外科学・整形外科学・ゲノム情報応用診断学・皮膚科学・心身医学・産婦人科学・耳鼻咽喉科学)	4・5	53				H, R
医療倫理	歯科医療における安全性・医の原則	2・3	42				H, R, 小
細胞生物学	歯科学概論・歯科の歴史	1・3	26				R
歯科医療入門	歯科臨床検査	3	14				H
歯科英語							
総合セミナー							
早期体験実習							
研究体験実習							
社会歯科学	歯科法医学	5	8				H
加齢歯科学	高齢者の歯科治療	5	12				H
インプラント学	インプラント学	5	12				H
総合歯科学	歯科基礎科学	2	14				H
歯科基礎科学	情報の科学	2	14				J
PC							
障害者の歯科治療	障害者の歯科治療	5	12				H
顎顔面補綴学	顎顔面補綴学	5	11				H
第二外国語	ドイツ語・フランス語・中国語	1	30				H, 小
哲学	哲学	1	28				R
法学	法学	1	30				H, 小, R
歴史学	歴史学	1	41				J
統計学	情報統計学	1	26				H, J, 小, R
地理学	地理学	1	30				H, 小, R
物理学	物理学	1	42		14		H, 小, R
化学	化学	1	27		15		H, 小, R
生物学	生物学	1	31		14		H, 小, R
英語	英語 1A, 1B, 英会話	1	70				H
経済学	経済学	1	28				H, 小
社会学	社会学	1	42				H, 小, R
教育学	教育学	1	30				H
政治学	政治学	1	30				H, 小
宗教学	宗教学	1	45				H, R
心理学	心理学	1	30				H, R
スポーツ科学	スポーツ科学	1	1				H
文学	文学	1	28				H, R
芸術	芸術	1	28				H, R
生涯学習	生涯学習	1	14				R

Q 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	細胞、組織学・内臓の構造・歯、歯周組織の構造と発生・神経の構造・運動器の構造・頭頸部、歯の解剖学実習・口腔解剖学実習	2	82	123	95	142.5	H、J、R
生理学	動物の機能の生理学・口腔感覚・運動生理学・口腔生理学実習	2	93	140	20	30	H、J、R、小
生化学	生体分子の構造、機能と代謝・分子歯科学・口腔生化学	2	81	121	12	18	H、R
病理学	発病の病理、病態学・病理解剖学演習・再生歯学の基礎的演習・口腔病理、口腔疾患、治療の病理病態学・再生歯学の生物学的解析、発病と治療の病理組織学、外科病理診断基礎実習	3・5	70	105	70	105	H、J、R
細菌学	微生物学・免疫学・ウイルス学・感染症学・口腔感染防御論	3・4	70	105	16	24	H、小、R
薬理学	歯科薬理学	3	88	132	15	22.5	H、小、R
歯科理工学	生体材料学 I、II・硬組織代替材料学	4	19	28.5	7	10.5	H、小、R
公衆衛生学	歯周疾患の病因論・口腔衛生学・口腔保健学実習	3・4・5	22	33	7	10.5	H、R
予防歯科学	歯科疾患の予防の方法論・臨床予防歯科学	4・5	14	21			H、小
歯科保存学	硬組織修復学・ウ蝕学と接着性材料臨床応用学・保存修復学	4・5・6	59	88.5	41	61.5	H、口、R
歯科補綴学	Cr-Biによる咬合再建学・欠損歯列の診査・部分無歯学の咬合再建学・咬合再建における形態と顎機能・高齢者の再建咬合の科学・義歯維持装置の科学実習	4・5	39	58.5	79	118.5	H、J、小
口腔外科学	炎症の科学と治療学・膿胞と顎関節疾患・口腔疾患の診断	4	70	105			H、小
歯科矯正学	口腔、顎、顔面の成長発育・矯正力による生体反応・顎、顔面咬合異常・歯の移動の臨床実習	4・5	31	46.5	7	10.5	H
小児歯科学	小児の口腔保健指導・歯、顎口腔領域の発育異常・小児と障害者	4・5	30	45	8	12	H、R
歯科放射線学	顎口腔X線解剖学・放射線生物学・口腔疾患の画像診断	4・5	37	55.5	7	10.5	H、J
麻酔学	麻酔学・局麻と精神鎮静法・麻酔と患者管理・臨床救急医学	4・5・6	26	39			H、R
内科学	口腔内科学・内科学	4・5	36	54			H、R
外科学	口腔外科学・外科学	4	30	45			H
隣接医学	整形外科学・小児科学・耳鼻咽喉科学・産婦人科学・皮膚科学・眼科学・精神神経病態学	4・5	54	81			H
医療倫理	生命倫理学・インフォームドコンセント	4・3	9	13.5			小、R
細胞生物学	細胞生物学・分子生物学・情報伝達生化学	1	45	67.5			小、R
歯科医療入門	臨床疫学に基づいた欠損機能回復・歯冠補綴学とEBM実習・チュートリアル	1・4	27	40.5	16	24	R、発表会
歯科英語							
総合セミナー	チュートリアル・チーム医療	1	9	13.5			R
早期体験実習	早期見学実習	1					R
研究体験実習	チュートリアル・自由研究演習	3・5	30	45			R
社会歯科学	医事法制・法歯学・歯科医療管理学	3	15	22.5			小、R
加齢歯科学	高齢者歯科学・有病者の歯科治療・障害者歯科学・在宅看護論	3・4・6	33	49.5			H、小
インプラント学		5			7	8.5	H、小
総合歯科学		6	32	48			H
TMD	機能的咬合系の成立と顎関節症	4	7	10.5			H、小
統計学	疫学・保健統計学・歯科医療統計学	3	15	22.5			H、小
人間生態学	心身医学	3・4	18	27			H、R
ポリクリ	臨床技能実習	5・6					カウント×
	歯学国際交流演習・国際歯科医療	3					カウント×

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	局所解剖学、中枢神経解剖学演習、口腔解剖学、口腔組織学、解剖学基礎実習、組織学基礎実習	2345	『週二回などの記載のみで、時間数不明』				H 口
生理学	口腔生理学、口腔機能学基礎実習	2345					H RL小スケッチ
生化学	口腔生化学、口腔機能学基礎実習	2345					HR
病理学	口腔病理学、口腔病理学基礎実習	345					HR口デイスカッション
細菌学	口腔細菌学、免疫学、口腔細菌学基礎実習	2345					HR口
薬理学	歯科薬理学	345					HR
歯科理工学	歯科理工学	24					HRJ
公衆衛生学	口腔衛生学、口腔健康発育学基礎実習	34					HR口
予防歯科学							
歯科保存学	保存修復学、歯内・歯周療法学、応用口腔医学基礎実習、う蝕学、J歯周病学、歯周病態学	34					HRJ小
歯科補綴学	義歯補綴学、補綴学、口腔機能修復学基礎実習	34					HJデイスカッション
口腔外科学	口腔外科学、顎外科学、顎口腔医療学基礎実習、口腔腫瘍学、応用口腔医学基礎実習	45					HR口
歯科矯正学	歯科矯正学	45					HJ口
小児歯科学	小児歯科学、口腔健康発育学基礎実習、咬合発達育成学特論	345					HR口
歯科放射線学	教養ゼミ、歯科放射線学	134					HR
麻酔学	歯科麻酔学、顎口腔医療学基礎実習	45					HR口
内科学							
外科学							
隣接医学							
医療倫理	医療倫理学	5					R デイスカッション
細胞生物学	分子予防医学	45					R
歯科医療入門	教養ゼミ、歯学臨床入門、総合歯科医療学	1245					R 小 ポートフォリオ
歯科英語	専門英語	3					討論 R
総合ゼミナール	診断・検査学、顎機能学、歯学研究特論、口腔機能修復学特論、臨床歯科医学総論	35					HR、
早期体験実習	教養ゼミ	1					R
体験実習		56					
研究体験実習	分子予防医学実習	5					R
社会歯科学	特別科目	5					R
加齢歯科学	成人・高齢者歯科学	5					HR
インプラント学	先端歯科補綴学演習	4					H
総合歯科学							
	教養ゼミ	1					プレゼンテーション
	教養ゼミ、応用口腔医学特論	14					ディベート
	臨床心理学	5					HR
	医療情報処理学	2					HR
	障害者歯科学	5					HR
数学							
生物学							
物理学							
化学							
英語							
ドイツ語							
国語	教養シラバスなし						
心理学							
体育							
統計							
コンピュータ							
選択科目							
文学							

T 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	一般基礎医学1、歯科基礎医学123、生物科学実習124	12	75	150	106	212	H J R
生理学	一般基礎医学34、生理、口腔生理学	23	30	60	24	48	H R
生化学	一般基礎医学2	2	30	60	16	32	H R
病理学	病理学、口腔病理学	34	60	120	28	56	H R J
細菌学	細胞生物学、感染と免疫	13	48	96	42	84	H R
薬理学	薬理学	34	38	76	21	42	H
歯科理工学	生体材料科学、臨床咬合学	35	24	48	0	0	H 小
公衆衛生学	環境医学、社会系医歯学	3	30	60	0	0	H R
予防歯科学	口腔健康学	4	15	30	15	30	H R J
歯科保存学	う蝕歯髓疾患制御学、口腔機能修復治療学、歯周病学	3	74	148	51	102	H R J
歯科補綴学	臨床咬合学、部分欠損補綴治療学、口腔機能再建治療学	34	95	190	70	140	H R J
口腔外科学	口腔外科学	4	60	120	0	0	H
歯科矯正学	歯科矯正学	4	25	50	20	40	H J
小児歯科学	小児歯科学	4	15	30	8	16	H 小 J
歯科放射線学	歯科放射線学	4	30	60	12	24	H J
麻酔学	麻酔学	45	30	60	6	12	H R 小 口
内科学	内科学	45	45	90	0	0	H 小
外科学	外科学	45	30	60	0	0	H R
隣接医学	耳鼻科学、眼科学、小児科学、皮膚科学、リハビリテーション学、精神医学、医療心理学	5	63	126			H R 小
医療倫理	倫理学、医の倫理	25	23	46			R
細胞生物学	細胞生物学2、細胞生物学12	12	45	90	30	60	H R
歯科医学入門	行動科学、医療コミュニケーション、医療行動科学、患者学	12345	104	208	30	60	R
歯科英語	医学英語、英語3	345	56	112	0	0	H 小 論文書く
総合セミナー	最新生命科学	2	15	30	0	0	R
早期体験実習	登壇前総合実習	5	0	0	15	30	R
体験実習		6	0	0	?	?	
研究室配属	研究室配属	5	0	0	30	60	
社会歯科学	法医学、歯科管理学、医事法制	45	38	76	0	0	H R
加齢歯科学	栄養と食生活、高齢者歯科学	34	25	50	0	0	H R
インプラント学	口腔外科学、口腔						H
総合歯科学							
数学	確率・統計	12	60	120	0	0	H
生物学	進化と環境、動物生態学	1	45	90	0	0	H R
物理学	物理学、生命と物理学	1	30	60	16	32	H R
化学	化学、生命と化学	1	45	90	0	0	H
英語	英語	12	75	150	0	0	H
ドイツ語							
国語	日本語文章表現法、	2	30	60	0	0	作文、R
心理学	心理学	30	60	0	0	0	H 小
体育	身体育成学・生涯スポーツ・スポーツタイム	13	23	46	30	60	J
統計	情報処理、医療情報学	15	8	16	30	60	H 小 R
コンピュータ							H R 小
選択科目	ドイツ語・中国語・韓国語	12	60	120	0	0	H
文学	文学	2	30	60			R
歯学概論							H
	文化人類学、比較文化論	2	30	60	0	0	H R
	美学	2	15	30	0	0	H R
	社会学	2	15	30	0	0	H R
	歴史学	12	30	60	0	0	H R
	経済学、政治学	2	30	60	0	0	H 口
	哲学	1	30	60	0	0	H R
	法学	1	30	60	0	0	H

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	歯の解剖学、解剖学入門、系統解剖学、組織学、生体構造学	123	158	205	123	205	123	205	H R J
生理学	生理学、細胞分子生物学、口腔生理学	23	69	90	15	90	15	90	H R
生化学	生化学、機能生化学実習、口腔生化学	23	55	71.5	30	71.5	30	71.5	H R
病理学	病理学、生体構造学	3	60	78	45	78	45	78	HRJ
細菌学	細菌学、機能生化学実習、免疫学	23	64	83	24	83	24	83	H 小 R
薬理学	薬理学、細胞分子生物学	23	55	71.5	20	71.5	20	71.5	H 小 R
歯科理工学	歯科理工学、歯科医療工学、歯科理工学	123	62	80.6	30	80.6	30	80.6	H R J
公衆衛生学	公衆衛生学、	2	12	15.6		15.6		15.6	H
予防歯科学	口腔保健学	35	18	23.4	9	23.4	9	23.4	H
歯科保存学	口腔治療学、歯内療法学、歯周療法学	345	101	131.3	108	131.3	108	131.3	H R J
歯科補綴学	冠橋義歯学、歯冠修復基礎実習、補綴学、有床義歯学	345	85	110.5	224	110.5	224	110.5	H R J
口腔外科学	歯科外科学、口腔顎顔面機能・形態学、口腔腫瘍学	45	64	83.2	12	83.2	12	83.2	H
歯科矯正学	歯科矯正学、成長発達歯学実習	4	34	44.2	33	44.2	33	44.2	H J
小児歯科学	小児歯科学、成長発達歯学実習	45	48	62.4	39	62.4	39	62.4	H J
歯科放射線学	画像診断学総論、画像診断学	45	38	49.4	15	49.4	15	49.4	H J
麻酔学	麻酔学	45	39	50.7	9	50.7	9	50.7	H
内科学	臨床医学概論、内科学	235	59	76.7		76.7		76.7	H
外科学	臨床医学概論、腫瘍・炎症学	23	41	53.3		53.3		53.3	H
隣接医学	循環・呼吸・腎臓病学、消化器病学、栄養学、小児科学、皮膚科学、産婦人科学、耳鼻咽喉科学、精神医学	234	101	131.3		131.3		131.3	H
医療倫理	行動科学セミナー、医療倫理学	1125	33	42.9	15	42.9	15	42.9	R 討論
細胞生物学	細胞生物学、モレキュラーバイオロジー	12	74	96.2	21	96.2	21	96.2	H J
歯科医療入門	歯科医療入門	1235	38	49.4	27	49.4	27	49.4	H R
歯科英語	歯科英語		0						
総合セミナー	テーマ別、口腔内科学、美容医療学、歯科医療管理学、臨床診断演習	345	94	122		122		122	H
早期体験実習	早期体験実習								
体験実習	体験実習								
研究体験実習	基本操作実習	1			17		17		R
社会歯科学	歯科法医学、医事法制、社会歯科学	345	44	57.2		57.2		57.2	H
加齢歯科学	介護施設・ブラッシング体験実習、介護高齢者歯科	135	7	9.1	43	9.1	43	9.1	H R
インプラント学	インプラント学	5	15	19.5	2	19.5	2	19.5	H
総合歯科学	臨床科学演習、生命科学演習、統合演習	5	124	161.2		161.2		161.2	H
障害者歯科	障害者歯科	56	7	9.1		9.1		9.1	H
数学	数学	12	105	136.5	0	136.5	0	136.5	0 HR 小
生物学	生物学								
物理学	物理学	1	44	57.2	0	57.2	0	57.2	0 H
化学	化学、細胞化学	1	70	91	0	91	0	91	0 H
英語	Scientific English, Practical English	12	105	136.5	0	136.5	0	136.5	0 R H 小
ドイツ語	ドイツ語	12	43	55.9	0	55.9	0	55.9	0 H
国語	論理学・日本語表現法								
心理学	心理学								
体育	スポーツ	1	0	0	26	0	26	0	33.8
統計	統計学	2	12	15.6	0	15.6	0	15.6	0 H
コンピュータ	コンピュータ								
選択科目	選択科目								
文学	文学								
	小グループ別学習	1	14	18.2	11	18.2	11	18.2	14.3 デイスカッション
	哲学、医療人間学	1	13	16.9		16.9		16.9	H
	情報処理	12	20	26	40	26	40	26	52 R J
	現代文明論	1	12	15.6	0	15.6	0	15.6	0 小 論
	コミュニケーション・アサーティブトレーニング	12	45	58.5	0	58.5	0	58.5	0 R
	異文化理解、比較文化論	1	26	33.8	0	33.8	0	33.8	0 R
	経済学、医療経済学	12	30	39	0	39	0	39	0 HR
	法学	1	17	22.1	0	22.1	0	22.1	0 H R
	美学	1	13	16.9	0	16.9	0	16.9	0 H

V 大学

科目	授業科目	学年	講義コマ数	講義時間数	実習コマ数	実習時間数	評価方法
解剖学	解剖学(実習)・発生学(実習)・組織学(実習)・口腔組織学(実習)・臨床解剖学・硬組織科学	2.3.5	131	255	63	186	H、J
生理学	生理学(実習)・口腔生理学	2.3	35	57	14	42	H、R
生化学	生化学(実習)・口腔生化学	2.3	38	61.5	14	42	H、R
病理学	病理学総論(実習)・口腔病理学(実習)	3	40	60	30	90	H、
細菌学	微生物学・口腔微生物学(実習)・口腔感染症免疫学	3.5	48	72	6	18	R
薬理学	薬理学(実習)・歯科薬理学・臨床薬理学	3.5	37	55.5			H
歯科理工学	歯科理工学 I～IV(実習)・臨床歯科器材薬剤学・接着歯学	2.3.5	73	196.5	29	78	H、R、R、口
公衆衛生学	衛生学(実習)	4	7	21	7	21	H、口
予防歯科学	予防歯科学(実習)	4	14	21			H、J、口
歯科保存学	保存修復学(実習)・歯周療法学(実習)・歯周治療学(実習)・ウ触学・歯周病学	4.5	59	111	39	117	H、R、J
歯科補綴学	可蝕性歯科補綴学(実習)・冠橋義歯学(実習)	4	22	66	34	102	H、J、小
口腔外科学	口腔外科学 I、II・咬合学・口腔腫瘍学・臨床検査学	4.5	73	121.5	6	18	H、
歯科矯正学	歯科矯正学(実習)	4.5	22	33	10	30	H、J
小児歯科学	小児歯科学(実習)・成長歯学	4.5	34	61.5	7	21	H、
歯科放射線学	歯科放射線学(実習)	4	15	45			H、
麻酔学	歯科麻酔学(実習)・疼痛学	4.5	32	48			H、R、小
内科学	内科学総論・内科学各論	4	46	69			H、R
外科学	外科学総論・外科学各論	4	29	43.5			H、
隣接医学	泌尿器科学・脳神経外科学・人類遺伝学・法医学・精神神経科学・小児科学・産婦人科学	4	43	64.5			H、R
医療倫理							
細胞生物学	細胞生物学・ブラクティス・細胞生物学入門 I、II	1	41	81			R
歯科医療入門	歯学展望	1	23	34.5			R
歯科英語	科学日本語、英語	1					R
総合セミナー	基礎歯学輪講	6	8	12			H、
早期体験実習	学内早期体験実習	1			29	174	R
研究体験実習							
社会歯科学	医学統計学・歯科医療管理学	3.6	25	37.5			H、R、小
加齢歯科学	高齢者歯科学	5	14	21			R
インプラント学	口腔インプラント学	5	15	22.5			H、
総合歯科学	医療面接	5	14	21			H、
東洋医学	歯科東洋医学・歯科臨床東洋医学	3.5	25	37.5			H、
障害者歯科学	障害者歯科学・心身医学・摂食嚥下リハビリテーション・睡眠障害と疾患	5	39	58.5			R

5. 事業報告

(3) 国外大学・認証機関視察

平成20年度文部科学省大学評価研究委託事業
「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
海外調査（シンガポール）

調査報告者

東京医科歯科大学

MDセンター 荒木孝二

歯学教育開発学分野 鶴田 潤

1. シンガポールについて

国土面積が699 km²と東京23区とほぼ同じであるシンガポールは、人口約459万人（うちシンガポール人・永住者は358万人）である。歯科大学は、シンガポール国立大学歯学部（National University of Singapore, Faculty of Dentistry）1つであり、その他、Nanyang Polytechnicにて、Oral Health Therapistの教育を行っている。歯科医師数は、約1400人である。シンガポールは、その特色として、Singapore Dental Councilが認めている海外歯科大学数が多く見られる。（資料1）

2. シンガポール国立大学歯学部における卒前歯学教育

<概要>

シンガポール国立大学歯学部については、シンガポールで唯一の歯学部である。カリキュラムは4年制であり、卒業時には、Bachelor of Dental Surgery (BDS)の学位を与えている。Professional Examinationと言われる試験が、各学年末に実施されている。最終学年時におけるProfessional Examinationは、Singapore Dental Councilの免許試験として扱われ、合格した卒業生は、この後に別の試験を受けることなく、Singapore Dental Councilへ歯科医籍登録することができる。4学年で行われるProfessional Examination全てにおいて、その平均としてAランクを取った優秀な学生は、「Honors degree」を与えられる。卒後、全ての卒業生について、4年間（シンガポール人）、5年間（外国籍）、シンガポール政府の職につくことが必要である。配属場所として、National Dental Center、あるいは、地域歯科診療所、学校歯科や、シンガポール軍隊歯科診療所へ勤務することとなる。

学部教育については、2つのパートから編成されており、最初の2年の臨床前教育と、2年の臨床教育の編成となる。歯科に関わる科目は、入学初日より行われる。1年目については、シミュレーション実習室にて、臨床前保存学実習が週1日行われる。1年目に含まれる他の科目は、歯科材料学、歯科形態学、口腔生物学、う蝕学である。臨床教育は、2年目以降行われ、総時間数として1166時間であり、1名の学生が担当する患者数は総じて20～30名となる。評価制度は、コンペテンシーベースでの評価となる（図3）。

1997年に、大きなカリキュラム改革を実施し、それまでの従来型カリキュラムより、コンペテンシーベースカリキュラムを導入した。この際、PBL テュートリアルや口腔生物学、う蝕学、咬合、行動科学などの統合科目を導入した。また、研究モジュールについても、生涯教育の一貫として取り入れられた。このカリキュラムを、2003年に改編し、現在の形となっている。1997年以降、2001年、2005年と4年おきに、Schoolレベルでの評価を行っている。この際には、分野レベルでの評価、試験における外部評価者による評価もその一部として実施されている。

<カリキュラム管理について>

歯学部カリキュラムは、Dean's Office で中央的に扱われる。あらゆる変更、提案については、カリキュラム委員会によって承認された後、Faculty Board によって承認される。大きな変更（新たなコース設置、新たな構造等）については、大学本部としての University Committee on Educational Policies (UCEP) と the Board of Undergraduate Studies (BUS) という 2 つの大学委員会の議論と提案をもとに、議会における承認が必要となる（図 1）。

<カリキュラムの目標>

歯学部カリキュラムの目的は、卒業生が、様々な場面において、健全な一般歯科治療を実施できる能力を有し、生涯に渡る研鑽を積むことができるように育成することである。

教育目標：

歯学部卒業生は、

- a) 専門職意識、倫理、社会責任を有する。
- b) 生物科学に対する十分な理解を持ち、臨床歯科医学と基礎科学を統合することができる。
- c) 全身疾患と口腔疾患の関係についての理解を含む、口腔疾患を診断できる能力を有する。
- d) 一般歯科治療にて必要とされる予防、治療処置を実施できる技術を有する。
- e) 他の歯科医療従事者、医療従事者と働くことができ、良好なコミュニケーション技術を持つ。
- f) Evidence-based Dentistry を実践できる。
- g) 生涯教育を継続することができる。

<教育手法>

講義、テュートリアル、PBL テュートリアル、セミナー、Undergraduate Research Opportunities Programme (UROP)、治療計画立案セミナー、フィールドトリップおよび地域歯科保健活動の組み合わせを取っている。

<入学制度>

2008 年度については、現在 1 年次に 44 名の学生がおり、4 全学年合わせて 163 名となっている。小中高校の 12 年間の課程を終えた学生が歯学部入学対象となる（図 2）。学生は、G. C. E. Advanced Level あるいは、それに相当する試験結果に基づいて選ばれる。審査リストに記載された学生は、手技試験および面接試験を課される。2008 年度については、約 1000 名の応募者があった。

入学選抜の基準：70%が大学点（G. C. E. Advanced Level あるいは、それに相当する試験結果、プロジェクトワーク）、30 点が学部点（手技試験および面接試験）である。歯学部においては、例年優秀な学生が入学希望をするため、入学学生は例年優秀である。

過去 5 年における入学選抜基準の変化については、2004 年、面接試験について、医学部より完全に独立して実施するようになった。それ以前については、医学部、歯学部へ入学希望の学生は、医師、歯科医師の合同委員会によって面接が行われていた。こ

の新たな面接方法により、歯学部より選ばれた委員によって、歯学部を第1、2、3希望としている学生に対して、面接が行われるようになった。2007年より、歯学部は、the Exceptional Discretionary Admission Scheme (EIS)のもと、相応の学位をもつ技術専門学校の卒業生の受験を認めたが、現在までにこの枠組での応募はない。2008年からは、歯学部は、歯学部を第1、2希望としている学生のみを受入れることとした。入学者については、女子学生の割合は、2001年度において35.3%であったのに対し、2004年度では58.8%と増加している。ほとんどの学生は、シンガポール国籍であるが、過去5年に渡る外国籍学生の割合は15.2%であり、そのほとんどがマレーシア国籍である。2004年より、大学全体の入試指針として、自由裁量試験制度が導入され、その学生選抜にあたっては定員の10%を上限としての選抜が許されている。歯学部の基準は、・地域職、地域保健に長く関わっていること。・リーダーシップがあること。・Co-Curricular Activitiesで、非常に優秀であること。・得難い人材であることとなっているが、2004年度から、歯学部においては、毎年2名の学生をこの基準にて選抜してきており、これらの学生は、本選抜システムを評価するためにフォローアップされている。教員数については、常勤31名、非常勤112名（内訳：Clinical faculty、38名、Adjunct faculty、74名）の体制となっている。

<試験／評価>

Professional Examination

各学年末において、Professional Examinationが実施される。様々な形式が用いられる（論文形式、短答形式、多肢選択問題、OSCEs、技術試験、臨床試験等）。最終学年におけるProfessional Examinationについては、内部評価者と外部評価者の両者によって実施される。外部評価者は、外部の評判の高い歯学部より招かれている。歯学部教員は、この機会を学生の達成度を海外の歯科大学へ示す機会と考えている。学生は、最後のProfessional Examinationを受験する前には、カリキュラム内の全ての臨床能力についての達成と、基準要件を満たしている必要がある。試験に落第した学生については、再試験を受験することが許されているが、両試験について落第した学生については、1年を再履修する必要がある。Continuous Assessmentについては、全評価の内、最大40%の割合を占め、各科目の30~40%を占めている。ほとんどの学生は、4年以内で卒業をし、退学率はとても低い。

<過去5年間におけるカリキュラム改革について>

Multi-site training：2004年から、小児歯科学の教育において、健康推進委員会の学校歯科部門と協力により、学部教育にそれらの施設の利用を始めた。2005年には、微生物学、病理学は、第2次Professional Examinationにおいて、別々の試験となった。微生物学は、分子生物学、免疫学、口腔微生物学の範囲まで含み、歯学部の3分野に加え、医学部の微生物学教室によって教えられている。2006年には、口腔生物学は、口腔組織学、顎顔面発生学、口腔生化学と口腔生理学を含むように再編された。口腔生物学は、第1次Professional Examinationにおいて、口腔解剖学の試験に変わって実施されることとなった。この科目は、口腔顎顔面外科学教室によって扱われている。口腔解剖学は、従来、組織学と歯科形態学の2つよりなっていたが、形態学については、現在、統合コースである咬合の中に含まれ、口腔組織学については、口腔生物学の一部となっている。2008年には、3年生の歯科公衆衛生の講義の中に、高齢者およびスベ

シャルニーズ歯科のモジュールが加えられた。1996年からは、Overseas Enrichment Programme (OEP) が開始された。OEPの目的は他の文化や環境に接することで、学生の経験をより広げることである。3年生、4年生は、このプログラムに参加することができ、優秀な学業成績で、学外活動も盛んな学生については、奨学金を得る機会もある。行き先は、日本、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカであり、2～3週間、受入大学において、授業や様々な活動に参加することとなる。一方、Elective Attachment Programmeとして、歯学部は海外からの学部学生の受入を行っている。訪問学生については、2～3週間、授業への参加、臨床見学等を行うことができる。オーストラリア、アジア、ヨーロッパ、アメリカからの学生が参加している。また、学生については、生涯教育の姿勢を身につけるために、歯学部卒業前より生涯研修プログラムの受講を義務としている。学部学生は、少なくとも、24時間分の生涯研修プログラムを受講することが必要である。

<歯学部教育プログラムの優位点、改善点>

優位点として、中央管理型のカリキュラム管理システムであること、アウトカムベースのカリキュラムであること、良好なカリキュラム構成、充実した臨床教育、学際的コースの設置、研究活動への参加、包括的患者治療の実施が挙げられる。一方、改善点として、基礎歯科医学教育の統合化、口腔医学と口腔病理学領域の統合化、疼痛制御についての指導の統合化、プロフェッショナルリズムとコミュニケーションスキルの充実が挙げられる。なお、将来の方向性として、マルチサイトトレーニングの拡充、学部生の地域との連携、海外学生の増加、学部学生数の増加、う蝕治療指導についての統合化等が挙げられる。

<第3者による教育評価制度について>

シンガポールにおいては、Singapore Dental Council、Singapore Dental Association、National University of Singapore、Faculty of Dentistry (NUSFOD) が、歯科医学に関わる機関である。NUSFODが唯一の歯科医師養成機関であることから、その教育が基準となり、Singapore Dental Councilとは表裏一体の関係となっている。歯学部教育の評価としては、講座レベルでの評価、学部レベルでの評価、大学レベルでの評価と、大学内での評価システムが確立している。また、カリキュラムの改編に際しての手続きについては前述の通りであるが、その流れが確立しており、歯学部と大学全体のつながりが明確なものとなっている。また、外部評価としては、最終学年の Professional Examinationについて、外部評価者を招聘し、歯学部カリキュラムの最終結果である学生の評価を通し、歯学部カリキュラムへのアドバイスを得るという方法をとっている。1990年代までは、連合王国 General Dental Council の評価を受けていたが、それ以降はこの制度は廃止された。

3. 卒後教育について

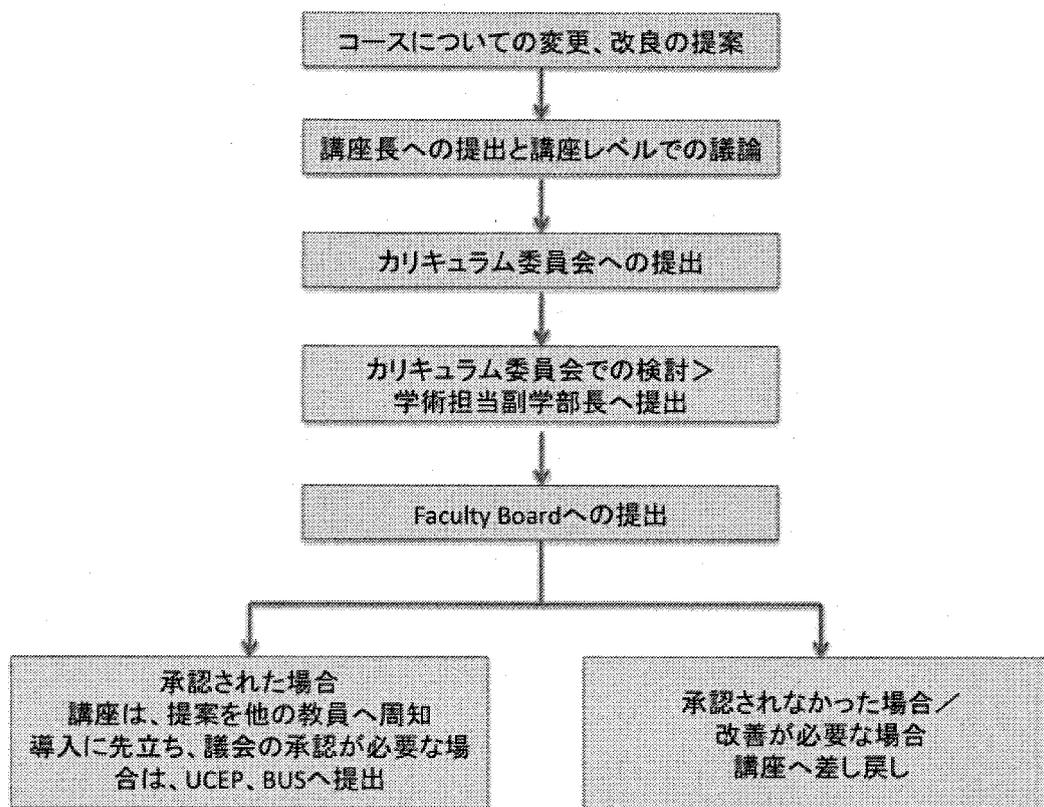
シンガポール国立大学歯学部においては、卒後教育として、Master of Dental Surgery (MDS)、Master of Science (MSc)、Doctor of Philosophy (Ph. D.)、Graduate Diploma in Dental Implantology を実施している。Master of Dental Surgery (MDS) については、Division of Graduate Dental Studies が管理を行っており、2週間の Basic Medical Science course、Part1 MDS Examination、Clinical Residency Training

Programme からなる。MDS には、Endodontics、Oral & Maxillofacial Surgery、Orthodontics、Periodontology、Prosthodontics の5つの専門領域が含まれている。3年間のプログラムにより MDS が得られるほか、Endodontics 以外の領域については、the Royal college of Surgeons, Edinburgh と合同の試験を行うこととなる。Master of Science (MSc)、Doctor of Philosophy (Ph. D.)については、歯学部が管理を行い、組織工学、再生医学、顔面疼痛のメカニズム、生体材料、カリオロジー、頭蓋画像学の5つのテーマについての研究を進め、全ての研究生は、一定のモジュール履修が義務づけられている。また、MSc については、最短1年間、最長3年間、Ph. D. については、最短2年間、最長5年間の履修が認められている。歯学部卒業生については、直接 Ph. D. コースへ入学することができる。Graduate diploma in Dental Implantology については、the Center for Advanced Dental Education が管理を行っている。Graduate Diploma は、Singapore Dental Council により、「Additional Qualification」として認められている。これは一般歯科医向けのコースとなるが、最低5年間の臨床経験が必要とされる。

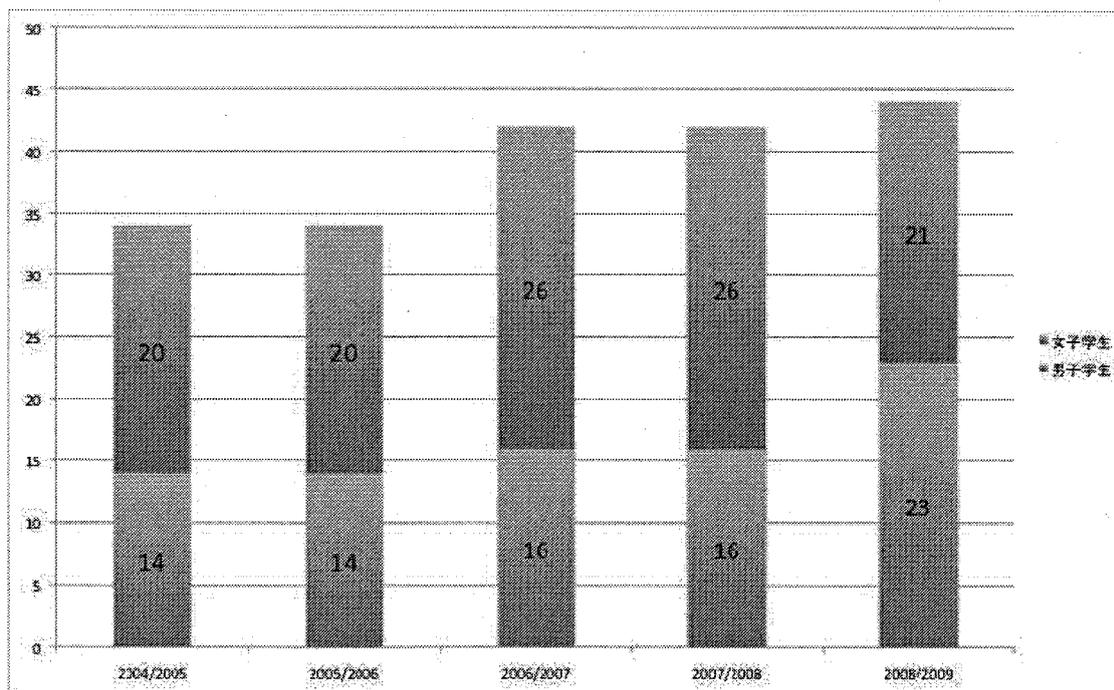
4. 生涯研修制度：研修 Continuing Professional Education (CPE)

シンガポールにおいては、Singapore Dental Council に登録している歯科医師は、CPE を受けることが必須である。2007年に開始されたものであるが、2年間に70ポイントが必要となる。内80% (56ポイント) については、コアコースとして、歯科に関わる内容、20% (14ポイント) については、ノンコアコースとして、コンピュータースキル等の内容が含まれるものとなっている。1ポイントは1時間の計算となる。これらコースの提供者は、シンガポール国立大学の the Center for Advanced Dental Education や、Singapore Dental Association、他の団体となるが、これらは、Singapore Dental Council に認められた団体である。

(図1：カリキュラム管理)



(図2：入学学生数推移)



(図3：カリキュラム概略図)

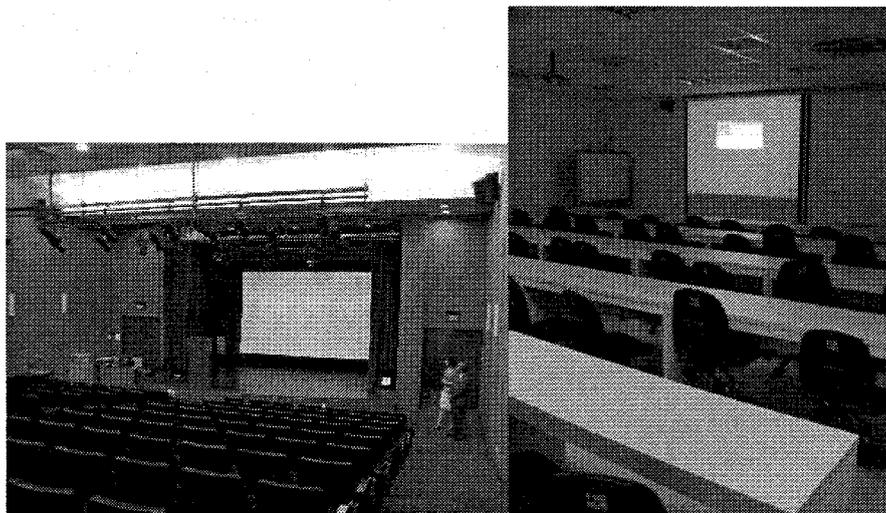
First Year	Anatomy	Examinable papers in the 1st Professional B.D.S. Examination
	Biochemistry	
	Oral Biology	
	Physiology	
First Year	Carlology	
	Occlusion	
	Pre-clinical Operative Dentistry	
First Professional Examination		

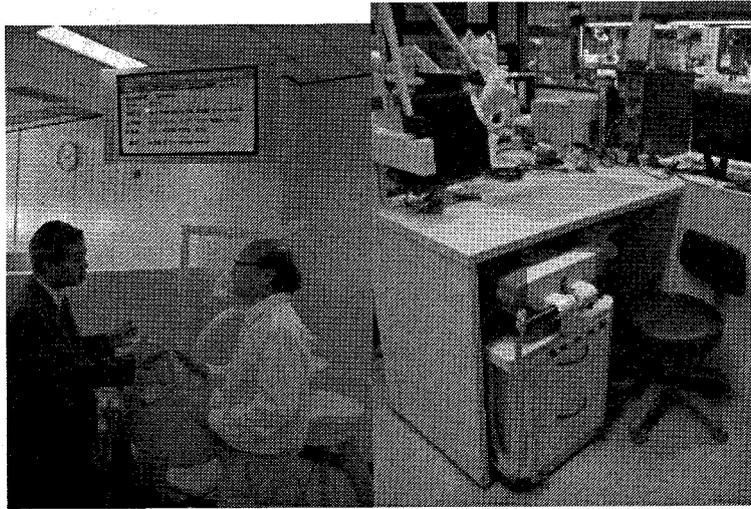
Second Year	Dental Materials	Examinable papers in the 2nd Professional B.D.S. Examination
	Microbiology	
	Pathology	
	Pharmacology	
Second Year	Oral Radiology	
	Occlusion	
	Pre-clinical Endodontics	
	Pre-clinical Operative Dentistry	
	Pre-clinical Fixed Prosthodontics	
	Pre-clinical Removable Prosthodontics	
	Pre-clinical Periodontology	
	Preventive Dentistry	
	Behavioural Science	
Second Professional Examination		

Third Year	Medicine	Examinable papers in the 3rd Professional B.S.C. Examination
	Oral Pathology	
	Surgery	
	Anaesthesia	
	Occlusion	
	Oral Radiology	
	Preventive Dentistry	
	Dental Public Health	
	Endodontics	
	Operative Dentistry	
	Oral & Maxillofacial Surgery	
	Orthodontics	
	Pediatric Dentistry	
	Fixed Prosthodontics	
	Removable Prosthodontics	
	Periodontology	
	Behavioural Science	
Ethics		
Third Professional Examination		

Fourth Year	Oral & Maxillofacial Surgery	Oral & Maxillofacial Surgery Oral Medicine
	Preventive Dentistry I	Preventive Dentistry Dental Public Health Periodontology
	Preventive Dentistry II	Orthodontics Pediatric Dentistry
	Restorative Dentistry I	Fixed Prosthodontics Removable Prosthodontics
	Restorative Dentistry II	Operative Dentistry Endodontics
	Clinical Dentistry	Interdisciplinary Clinical Examination
	General Practice Management	
Behavioural Science		
Final Professional Examination		

(シンガポール大学歯学部施設等写真)





(シンガポール歯科医師会)



(資料1)

Singapore Dental Councilへ登録ができるとされている海外の歯学部リスト

Australia (5校)

1. University of Sydney B. D. S. /BDent
2. University of Queensland B. D. Sc.
3. University of Adelaide B. D. S.
4. University of Melbourne B. D. Sc.
5. University of Western Australia B. D. Sc.

Canada (10校)

1. University of Alberta D. D. S
2. University of British Columbia D. M. D
3. University of Manitoba D. M. D
4. Dalhousie University D. D. S
5. University of Toronto D. D. S
6. University of Western Ontario D. D. S
7. Laval University D. M. D
8. McGill University D. D. S
9. University of Montreal D. M. D
10. University of Saskatchewan D. M. D

Hong Kong (1校)

1. University of Hong Kong B. D. S.

New Zealand (1校)

1. University of Otago B. D. S.

Republic of Ireland (2校)

1. National University of Ireland B. D. S.
2. University of Dublin

United Kingdom (13校)

1. University of Birmingham B. D. S.
2. University of Bristol B. D. S.
3. University of Leeds B. Ch. D.
4. University of Liverpool B. D. S.
5. University of London B. D. S.
6. University of Manchester B. D. S.
7. University of Newcastle upon Tyne B. D. S.
8. University of Sheffield B. D. S.
9. Queen's University of Belfast B. D. S.
10. University of Dundee B. D. S.
11. University of Edinburgh B. D. S.
12. University of Glasgow B. D. S.
13. University of Wales B. D. S.

United States of America (57校)

1. University of Alabama School of Dentistry at UAB D. M. D
2. A. T. Still University Arizona School of Dentistry and Oral Health D. M. D

3. Loma Linda University School of Dentistry D.D.S
4. University of California at Los Angeles School of Dentistry D.D.S
5. University of California at San Francisco School of Dentistry D.D.S
6. University of the Pacific Arthur A. Dugoni School of Dentistry D.D.S
7. University of Southern California School of Dentistry D.D.S
8. University of Colorado at Denver and Health Sciences Center D.D.S
9. University of Connecticut School of Dental Medicine D.M.D
10. Nova Southeastern University College of Dental Medicine D.M.D
11. University of Florida College of Dentistry D.M.D
12. Medical College of Georgia School of Dentistry D.M.D
13. Southern Illinois University School of Dental Medicine D.M.D
14. University of Illinois at Chicago College of Dentistry D.D.S
15. Northwestern University D.D.S
16. Indiana University School of Dentistry D.D.S
17. University of Iowa College of Dentistry D.D.S
18. University of Kentucky College of Dentistry D.M.D
19. University of Louisville School of Dentistry D.M.D
20. Louisiana State University School of Dentistry D.D.S
21. Boston University Goldman School of Dental Medicine D.M.D
22. Harvard University School of Dental Medicine D.M.D
23. Tufts University School of Dental Medicine D.M.D
24. University of Maryland Baltimore College of Dental Surgery D.D.S
25. University of Detroit Mercy School of Dentistry D.D.S
26. University of Michigan School of Dentistry D.D.S
27. University of Minnesota School of Dentistry D.D.S
28. University of Mississippi School of Dentistry D.D.S
29. University of Missouri-Kansas City School of Dentistry D.D.S
30. Creighton University School of Dentistry D.D.S
31. University of Nebraska Medical Center College of Dentistry D.D.S
32. University of Medicine and Dentistry of New Jersey New Jersey Dental School D.M.D
33. University of Nevada, Las Vegas School of Dental Medicine D.M.D
34. Columbia University College of Dental Medicine D.D.S
35. New York University College of Dentistry D.D.S
36. State University of New York at Buffalo School of Dental Medicine D.D.S
37. State University of New York at Stony Brook School of Dental Medicine D.D.S
38. University of North Carolina School of Dentistry D.D.S
39. Case Western Reserve University School of Dental Medicine D.M.D
40. Ohio State University College of Dentistry D.D.S
41. University of Oklahoma College of Dentistry D.D.S
42. Oregon Health and Science University School of Dentistry D.M.D
43. Temple University The Maurice H. Kornberg School of Dentistry D.M.D
44. University of Pennsylvania School of Dental Medicine D.M.D
45. University of Pittsburgh School of Dental Medicine D.M.D

46. University of Puerto Rico School of Dentistry D.M.D
47. Medical University of South Carolina College of Dental Medicine D.M.D
48. Meharry Medical College School of Dentistry D.D.S
49. University of Tennessee College of Dentistry D.D.S
50. Baylor College of Dentistry Component of Texas A and M Health Science Centre D.D.S
51. University of Texas Health Science Centre-Houston Dental Branch D.D.S
52. University of Texas Health Science Centre-San Antonio Dental School D.D.S
53. Virginia Commonwealth University School of Dentistry D.D.S
54. Howard University College of Dentistry D.D.S
55. University of Washington-Health Sciences School of Dentistry D.D.S
56. West Virginia University School of Dentistry D.D.S
57. Marquette University School of Dentistry D.D.S.

<参考>

- ・外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/MOFAJ/area/singapore/index.html>
- ・シンガポール大学歯学部 :
歯学部案内 HP : <http://www.nus.edu.sg/registrar/nusbuletin/FoD/index.html>
歯学部 HP : <http://www.dentistry.nus.edu.sg/>
- ・Singapore Dental Council HP : https://www.sdc.gov.sg/html/SDC_Home.html
- ・Singapore Dental Association HP : <http://cms.sda.org.sg/>

<協力者>

National University of Singapore, Faculty of Dentistry

- ・ Keason B C Tan, Dean
- ・ Kelvin W.C.Foong, Vice Dean
- ・ Keng Siong Beng, Assistant Dean (Clinical Affairs)

Singapore Dental Association

- ・ Loh Kwang Yong, Administrative Manager
- ・ Wennie Kok, Senior Administrator
- ・ Lee jon Yang, Administrator

平成20年度文部科学省大学評価研究委託事業
「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
海外調査（オーストラリア連邦）

調査報告者

東京医科歯科大学

MDセンター 荒木孝二

歯学教育開発学分野 鶴田 潤

1. オーストラリア連邦について

オーストラリア連邦（以下、オーストラリア）については、769万2024km²と日本の約20倍、アラスカを除く米とほぼ同じという広い国土を保有し、人口は約2063万人（2006）と、日本の約6分の1である。オーストラリアにおいてはその行政区として、6つの州と2つのテリトリーに分かれており、それぞれの法律によって、行政が行われている。

2. オーストラリアにおける歯科事情

前述の通り、オーストラリアでは、各自治行政区によって行政を管轄していることから、歯科医師免許許可についても各々が管轄している。そのために、歯科医師として働くためには、各州やテリトリーへの歯科医籍登録が必要となる。将来的には、この登録制度を、Federal Government 制、即ち、中央登録制度に改編しようという動きもあるようである。歯科医師の専門医としては、一般歯科医師のほか、矯正歯科、歯周歯科、小児歯科、補綴歯科、歯内歯科、口腔顔面外科の専門歯科医制度がある。歯科医籍を登録する機関として、は、各地域のDental Boardが挙げられるが、例として、Victoria州では、Dental Practice Board of Victoriaがその機関となる。特徴的な点としては、Dental Boardに対して、歯科医師、歯科保健業種のみならず、学生も登録しなければならない、ということである。この点においては、「患者の権利の保護」という観点から、患者治療に携わる関係者が登録されているという見方ができる。

実際に歯科医療を支えているオーストラリアの歯科医師数については、2006年度のAustralian Bureau of Statisticsの調査によると、9071名の歯科医師であり、オーストラリア全国民のうち22%が国外出身である状況下、歯科医師については47%が国外出身となっている。他の医療業種についても同様のことが言えるようである。オーストラリアにおける主な歯科関連公的機関については、①The Australian Dental Association Inc、②Australia Dental Council Royal Australian College of Dental Surgeons Inc、③Dental Practice Board of Victoria、④Dental Board of New South Wales、⑤Dental Board of Queensland、⑥Dental Board of South Australia、⑦Dental Board of Tasmania、⑧Dental Board of the ACT、⑨Dental Board of the Northern

Territory、⑩Dental Board of Western Australiaがある。

3. オーストラリアの歯学教育、評価認証制度

オーストラリアでは、各州に歯科医籍登録を行う必要があるが、受けるべき歯学教育については、Australian Dental Councilに認められた教育機関を卒業することが基本となる。オーストラリアの歯学教育については、基本的に5年間となるが、4年間の大学もある。現在のところ、アデレード大学、メルボルン大学、シドニー大学、クイーンズランド大学、ウェスタンオーストラリア大学、グリフィス大学がある。

<Australian Dental Council (ADC) による評価認証制度>

Australian Dental Council (ADC) は、歯学教育における教育の質の確認と質の改善を促進するために、オーストラリア国内の歯科大学により実施されている歯科口腔保健教育の評価認証を行っている。ADC は、the Dental Council of New Zealand (DCNZ) とともに、共同評価認証委員会を設置し、歯科医師、専門医、歯科衛生士、デンタルセラピストについての教育基準やその評価プログラムについて、該当機関へアドバイスをを行う業務を行っている。プログラム評価委員会は、Accreditation Review Teams によって、その評価プログラムを実施している。Accreditation Review Teams は、プログラム評価委員会によって選ばれ、Councilによって任命される。委員構成は、歯科、歯科関連業種などの業種からバランスよく選抜され構成されている。これらのチームが行うことは、以下のこととなる。

- ・カリキュラムを構成するプログラムの書類、カリキュラムを構成する施設、資源などの評価を実施する。(大学は、20のガイドラインに沿った書類を作成する。)
- ・現地調査を行い、担当者との面会、大学施設、教育病院・診療所への訪問調査を行う。
現地調査については、3～4名の委員が訪問し、3日間の調査を行う。
- ・関連する立場の人たちとのインタビュー
- ・大学プログラムに対して、最初に言及されるべき点を記載するドラフトレポートを作成、報告した後、更に詳細な報告書を作成、Councilに提出する。

ADC/DCNZプログラム評価委員会は、評価チームによって作成された報告書をもとに、そのプログラムに対しての最終評価、およびプログラム評価委員会による改善案を提示する。ADCによって評価認証されたプログラム(カリキュラム)からの卒業生は、オーストラリア内のどの州、テリトリーへの歯科医籍登録をすることができることとなり、各州、テリトリーの歯科医籍登録委員会に対し、そのプログラムが、ADCガイドラインを満たしていることを示すこととなる。

従来から行われているプログラムについては、以下の評価認証が与えられる。

・Full accreditation

プログラムに問題がない場合に適用されるものである。歯学教育プログラムについて

は7年毎、口腔保健教育、卒後教育については5年毎に実施されている。毎年のレポートを提出する必要がある。

・ **Full accreditation subject to conditions**

評価認証の際に、改善すべき点がある場合には、条件付きの認証を与えられることとなり、その場合に適用されるものである。この際には、指定された期間内に改善を行い、毎年のレポートを行う必要がある。

・ **Provisional accreditation**

この評価認証については、通常よりもより短い期間をもって行われる。この認証は、通常評価認証において言及された改善案への反応がない場合に適用される。また、このほか、プログラム（カリキュラム）からの卒業生が、歯科医師として臨床を行う際に、十分な知識、技術、態度を具備していると判断されない場合に、そのプログラム（カリキュラム）に適用されるものである。

・ **No accreditation**

プログラムあるいは学部について、深刻な不備がある場合、認証はなされず、その場合に適用されるものである。

新たにプログラムを開設する場合、あるいは、プログラムを大きく変える場合について、以下の認証が行われる。

・ **New Program Accreditation**

この評価認証については、新たに導入されるプログラムについて、Full Accreditation を受ける状態になるまでの期間をもって実施されるものである。この認証により、一定の期間において、改善案を実施していくこととなる。この評価認証については、前進的な評価であり、実施するコースを毎年評価する。このプロセスは毎年行われる新たなコース、最終学年を含む学年までを評価することとなる。

・ **No Accreditation**

新たなプログラムに深刻な問題がある場合は、認証は行われず、その場合に適用されるものである。

1990年代までは、連合王国 General Dental Council による評価認証をうけていたこともあり、それ以前の卒業生は、連合王国で歯科医師として働くことができる。現在はこの認証制度はない。また、Australia Dental Council が、「Public Sector Dental Workforce」として歯科医療に携わることを可能と判断（認証）している海外大学プログラムについては、以下の大学がある。

Canada (10 大学)

1. Dalhousie University
2. Laval University
3. McGill University

4. University of Alberta
5. University of British Columbia
6. University of Manitoba
7. University of Montreal
8. University of Saskatchewan
9. University of Toronto
10. University of Western Ontario

Hong Kong (1大学)

1. University of Hong Kong

Ireland (2大学)

1. National University of Ireland
2. University of Dublin

Malaysia (2大学)

1. National university of Malaysia
2. University of Malaya

Singapore (1大学)

1. National University of Singapore

South Africa (5大学)

1. Medical University of Southern Africa (Medunsa)
2. University of Western Cape
3. University of Pretoria
4. University of Stellenbosch
5. University of Witwatersrand

United Kingdom (15大学)

1. University of Belfast
2. University of Birmingham
3. University of Bristol
4. University of Dundee
5. University of Durham
6. University of Edinburgh
7. University of Glasgow
8. University of Leeds
9. University of Liverpool
10. University of London
11. University of Manchester
12. University of Newcastle-Upon-Tyne

- 1 3. University of St Andrews
- 1 4. University of Sheffield
- 1 5. University of Wales

United States (56大学)

1. University of Alabama
2. A.T.Still University of Health Sciences, Arizona
3. Loma Linda University
4. University of California at Los Angeles
5. University of Southern California
6. University of California at San Francisco
7. University of the Pacific
8. University of Colorado
9. University of Connecticut
- 1 0. Howard University of Dentistry
- 1 1. Nova Southeastern University
- 1 2. University of Florida
- 1 3. Medical College of Georgia
- 1 4. University of Iowa
- 1 5. Southern Illinois University
- 1 6. University of Illinois at Chicago
- 1 7. Indiana University
- 1 8. University of Kentucky
- 1 9. University of Louisville
- 2 0. Louisiana State University
- 2 1. Boston University
- 2 2. Harvard University
- 2 3. Tufts University
- 2 4. University of Maryland Baltimore
- 2 5. University of Michigan
- 2 6. University of Detroit
- 2 7. University of Minnesota
- 2 8. University of Missouri-Kansas City
- 2 9. University of Mississippi
- 3 0. University of North Carolina
- 3 1. University of Nebraska
- 3 2. Creighton University

33. University of Medicine and Dentistry New Jersey
34. University of Nevada, Las Vegas
35. State University of New York at Buffalo
36. Columbia University
37. New York University
38. State University of New York at Stony Brook
39. Case Western Reserve University
40. Ohio State University
41. University of Oklahoma
42. Oregon Health and Science University
43. Temple University
44. University of Pennsylvania
45. University of Pittsburgh
46. University of Puerto Rico
47. Medical University of South Carolina
48. University of Tennessee
49. Meharry Medical College School of Dentistry
50. Baylor College of Dentistry Component of Texas
51. University of Texas Health Science - Houston
52. University of Texas Health Science - San Antonio
53. Virginia Commonwealth University
54. University of Washington
55. Marquette University
56. West Virginia University

4. メルボルン大学医・歯・健康科学部歯学科の教育について

メルボルン大学は、Victoria 州にある総合大学であり、その一つの学部として、歯学部がある。歯学科は、医・歯・健康科学部内の学科である。キャンパスは、Royal Dental Hospital of Melbourne と同じ建物の中にある。大学と病院機能は分けられているため、学生への規則通知も、非常にしっかりとされている。

メルボルン大学歯学科については、2011 年より新たなプログラムを開始することとなり、2009 年においては現行プログラムの最終学生を取る段階となっている。現行プログラムは、5 年制であり、入学要件としては高校卒業、卒業時には Bachelor of Dental Sciences (BDS) を得ることができる。2011 年からの新たなプログラムにおいては、4 年制となり、入学要件は、メルボルン大学における卒業レベルであれば、Bachelor of Biomedicine、Bachelor of Science の学位が必要となり、他大学卒業生

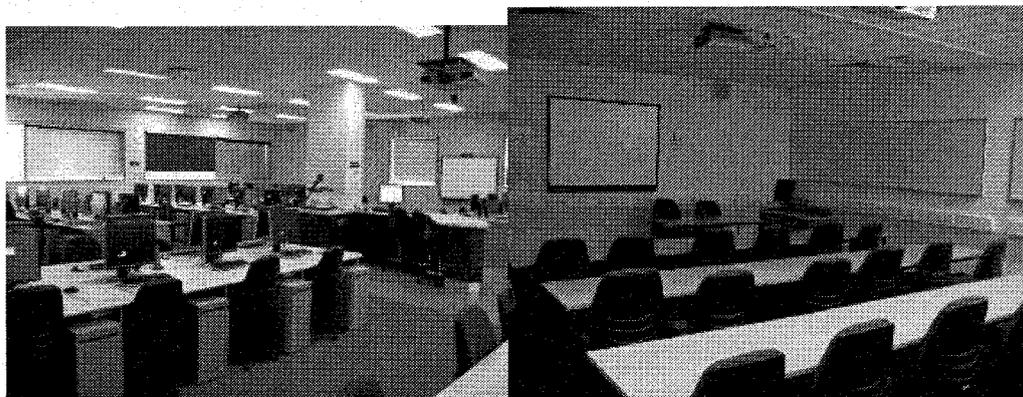
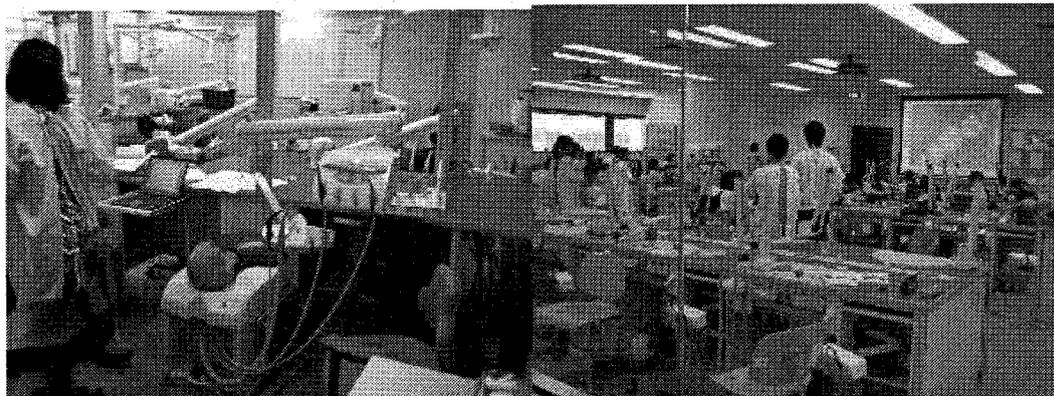
については、科目要件を満たすことが必要となることである。卒業時には、Doctor of Dental Surgery を得ることができる予定であり、Dental Practice Board への登録がなされることとなる。すなわち、BDS Sc から DDS への移行となる。現在、ADC との調整を行っているとのことであった。

現行カリキュラムにおいては、学生数は、1 学年 40 名程度であり、教育に関わる常勤教員については、30 名である。入試選抜については、高校卒業後については、Victorian Certificate of Education Index (VCE) のスコア、the Equivalent National Tertiary Entrance Rank (ENTER) のスコア、Undergraduate Medicine and Health Sciences Admission Test (UMAT) のスコアを用いて、選抜を行う。国内からの学士入学生については、それまでの履修科目歴と UMAT のスコアが必要となる。学生については、入学時に、感染症の罹患状況確認、犯罪歴についての Police Check (1 年間有効)、子供に仕事として関わる為の Working with Children Checks (5 年間有効) を受けなければならない。BDS Sc プログラムについては、400 時間を上限として臨床実習を行っている。教育手法としては、講義、テュートリアル、セミナー、実習、自習、PBL テュートリアル、臨床実習、地方配属、ワークショップ、コンピューターアシステッドラーニングが行われている。試験評価については、多肢選択形式試験、短答試験、筆記試験、実習試験、臨床実施試験の他、OSCEs も実施されている。OSCEs については、4 年生の Dental Practice 4 の Restorative Dentistry、Growth and Development、Oral Health Science の 4 つ領域にて、筆記試験とともに実施されている。1 年次については、主に基礎的な科目を中心にカリキュラムが組まれているが、2 年目以降については、臨床に関わる科目および診療に関わる事柄を学ぶこととなる。5 年生においては、地域関連病院へ 4 週間の実習派遣や、Elective Study として研究実習の期間が設けられている。この期間については、学生は国内のみならず、海外の大学で研究を行うこともできる。最終的に、Journal of Dental Research の形式に則った形式のレポート提出および口演を行う必要がある。4 年生 2 学期からは、研究の基本についての授業を行っている。施設として、コンピュータールーム、臨床前実習室、講義室などがある中で、特徴的であったのが、レントゲン撮影専用の実習室が設けられていることであった。3 年次まで終了した学生に対しての選択肢として、Bachelor of Dental Studies のプログラムが用意されている。このプログラムは、1 年間のプログラムであり、主に、生物科学研究を行うコースとなる。

卒後教育については、Graduate course in Clinical Training として、Postgraduate Diploma in Clinical Dentistry (1 年)、Postgraduate Diploma in Oral & Maxillofacial Surgery (1 年)、Graduate Diploma in Forensic Odontology (1 年)、Doctor of Clinical Dentistry (3 年)、Graduate Certificate in Clinical Dentistry (20 週間) のコースがある。これらのコースのうち、専門医として働くために必要となるコースは、Doctor of Clinical Dentistry であり、その内容としては、歯内治療学、小児歯科学、

歯周治療学、補綴学、スペシャルニーズ歯科治療学、口腔医学、歯科矯正学の7領域がある。また、基礎系の卒後教育としては、Bachelor of Science (Honours) (1年)、Master of Dental Science (2年)、Master of Philosophy (2年)、Doctor of Philosophy (3～4年)がある。

(メルボルン大学医・歯・健康科学部歯学科学内写真)



(メルボルン大学医・歯・健康科学部歯学科カリキュラム)

1st Year:

511-121 Introduction to Biomedical Science	511-126 Dental Practice 1	511-124 Oral Health Sciences 1
Semester 1 only. Contact hours: 96	Year long. Introduction to Dentistry; Human Development and Behaviour I; Dental Materials Science and Conservative Dentistry. Contact hours: 148	Semester 2 only. Anatomy; Histology and Embryology; Chemistry. Contact hours: 162

2nd Year:

511-224 Oral Health Sciences 2A	511-225 Oral Health Sciences 2B	511-226 Dental Practice 2
Semester 1 only. Physiology; Biochemistry; and Topographical Anatomy. Contact hours: 192	Semester 2 only. Microbiology; and Neuroscience. Contact hours: 90	Year long. Oral Biology; Human Development and Behaviour II; Dental Materials Science and Conservative Dentistry. Contact hours: 246

3rd Year:

511-326 Dental Practice 3	511-323 Oral Health Sciences 3	511-324 The Scientific Principles of Surgical Practice
Year long. Restorative Dentistry; Oral Health Practice; Growth and Development. Contact hours: 218	Semester 1 only. Pharmacology; Pathology; and Medicine. Contact hours: 82	Semester 2 only. Surgery; and Oral Medicine, Pathology and Surgery. Contact hours: 60

4th Year:

511-422 Dental Practice 4
Year long. Restorative Dentistry; Growth and Development; Oral Medicine, Pathology and Surgery; Oral Health Sciences; Advanced Dental Study 1 Contact hours: 368

5th Year:

511-522 Dental Practice 5
Year long rotation. General Practice; General Practice - Community Clinics; Specialist Practice; Academic Teaching/Advanced Dental Study 2

参考:

- ・ 外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/australia/index.html>
- ・ メルボルン大学歯学科 HP :
<http://www.dent.unimelb.edu.au/index.html>
http://www.dent.unimelb.edu.au/dsweb/future_students/undergrad/bdsc.html
- ・ Australian Dental Council HP : <http://www.dentalcouncil.net.au/>
- ・ Dental Practice Board of Victoria HP : <http://www.dentprac.vic.gov.au/>
- ・ Australian Dental Association HP : <http://www.ada.org.au/>

- The University of MELBOURNE, School of Dental Science, 2008 Undergraduate Student Information and Course Guide
- ABS-Selected Health Occupations: Australia, 2006 Dental Practitioners (関連 HP : <http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsf/mf/4819.0>)

<協力者>

The University of Melbourne, Faculty of Medicine, Dentistry & Health Sciences,
School of Dental Science

- Michael Burrow, Clinical Dean
- Mike Morgan, Colgate Chair of Population Oral Health

平成20年度文部科学省大学評価研究委託事業
「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
海外調査（オランダ王国）

調査報告者

東京医科歯科大学

MDセンター 荒木孝二

歯科医療行動学分野 俣木志朗

歯学教育開発学分野 鶴田 潤

1. オランダ王国について

オランダ王国（以下、オランダ）については、国土は4万1864 km²で、九州とほぼ同じ面積であり、人口は、1636万人（2007年オランダ中央統計局）と日本の9分の1程度である。

2. オランダの歯科事情について

1997年12月に、法律である「Wet Beroepen in de Individuele Gezondheidszorg」(BIG-act)が施行され、それ以降、全ての医療関係職については、Ministry of Health, Welfare and Sportに登録する必要がある。登録については、現在は、35万人の医師、薬剤師、歯科医師、看護婦等が登録している。登録料は80ユーロである。うち歯科医師は10901名（2008年）であり、内実際に治療に携わっている歯科医師は8791名（内45%は50歳以上）、外国からの歯科医師は641名ということである。専門医としては、歯科矯正医、口腔顔面外科医があり、それぞれ、261名、214名である。専門医ではないが、一般歯科医の中である分野を標榜しているのは、歯内治療60名、小児歯科40名、歯周病80名である。他の関連職としては、歯科衛生士2260名（2008年）、歯科技工士5000名（2008年）、デンチュリスト290名（2005年）、歯科助手16400名（2004年）ということであった。

3. オランダの歯学教育について

歯学教育はこれまでは他ヨーロッパ諸国と同様に5年制教育であったが、2007年9月入学の学生からは、6年制教育となった。理由としては、従来カリキュラムの過剰負担、また、教育のよりアカデミックな部分の充実、次世代の歯科医師を時代の変化、高齢者社会へ適応させるため、とうことであった。5年制プログラムとの差別化をするために、6年制プログラム卒業生については、「Oral Physician」と呼ぶという。歯科大学は、

Academisch Centrum Tandheelkunde Amsterdam (ACTA)、Universitair Medisch Centrum St. Radboud、Universitair Medisch Centrum Groningenの3校である。3校合わせて、300名の定員であり、2007年には226名の卒業生を輩出している。およその数であるが、全国で毎年800～900名の歯学部進学希望者がいる。女子学生率は55%となっている。最初の3年教育を終了した段階でBachelor of Science、5年を終了した段階でMaster of Science (MSc) が得られる。その後、登録をすることで、「Dentist」として働くことができるようになる。

<入試制度について>

歯学部に入学するためには、Voorbereidend wetenschappelijk onderwijs (VWO) (12～18歳) において、物理、化学、生物の教育を受けている必要がある。

入試制度については、基本的に試験はない。受験生は、国の入試担当機関に希望を出し、大学に入学できる制度であるが、医学部、歯学部等については、定員のうち何割かを大学が選ぶことができる制度もある。

<ナイメーヘン大学歯学部>

ナイメーヘン大学歯学部は、オランダ東南部に位置し、ドイツ国境沿いにあるナイメーヘンにある。学生数は、一学年65名、うち女子学生はおよそ60%である。大学は総合大学であることから、キャンパスの一角に歯学部病院、歯学部があったが、数年内に、新たな校舎へ移動するということであった。建物自体は古いものであったが、実習機材、施設等は、新しく、図書館についても、歯学部附属の図書館があるなど、教育環境については、とても良いものであった。教職員数は、常勤換算数で310名であり、給与は、200名分が政府、15～20名については外部研究費、残りについては、患者収入でまかなっているということであった。うち、常勤換算で80～100名が研究職、歯科医師であるということであった。入試においては、定員の50% (約30名) を大学で選抜するシステムとなっており、面接、手技試験等で判断している。歯学部においては、年2回の教員集会において、カリキュラムの変更等がある場合には、それを教員へ公表するということである。また、年1回、カリキュラム全体の見直しを行い、レポートを作成、5年毎にそれらをまとめ、カリキュラム改編の資料とするということであった。カリキュラム評価については、このような学部レベルの評価のみならず、大学レベルでの評価も行われる。歯学部として行うべきことは、年度毎の必要情報を詳細に大学に報告することである。教育に関わる情報については、ほとんど全てがホームページ上で見るできるようになっている。大学レベルの評価においては、大学当局のCentral Department of Education and Quality Assuranceが担当となる。国の評価という意味では、その機能は

大学当局に任されており、Quality Assurance Netherlands Universities (QANU) が行う。

4. オランダにおける大学評価認証制度について

オランダにおいては、国の代わりに、Association of Universities in the Netherlands (VSNU : Vereniging van Universiteiten) が実施してきた。評価については、オランダ国内の大学全ての分野が対象となり、定期的実施されてきた。この際に、自己評価と外部評価が行われるが、視察団が訪問調査を行い、その結果については公開され、関係省庁にも報告がなされていた。視察団により、改善が必要と判断された場合には、その内容を一定期間に渡りフォローアップされることとなり、評価項目としては、①プログラムの目標、特徴、内容について（教育目標、試験レベル、試験方法、学生能力、最終論文／研究）、②学生について（学生数、進学率／退学率、平均在学年数、学生支援環境、施設）、③卒業生（卒業生のレベル、社会からの要望）、④教職員について（教職員数、学位、教員／学生割合）、⑤国際化について（エラスムプログラムへの参加状況、海外交流）、⑥内部評価認証システムについて（自己評価、前の評価認証からの改善、評価方法、同窓との関係）などであった。

2003年には、大学教育の質を評価するために、Dutch-Flemish Accreditation Organization (NVAO : Nederlands-vlaamse accreditatieorganisatie) が設立され、その枠組みのもと、現在は、VSNUに代わって、Quality Assurance Netherlands Universities (QANU) により、オランダ国内の大学は評価認証を5年おきに受けることとなっている。NVAOの枠組みにおいては、Learning Outcomeを重要視しており、自己評価、外部評価項目は、①教育プログラムの目的、②プログラム詳細（大学教育に関する要件、目的と教育内容の関係、一貫性、研究、試験方法等）、③教職員について（教職員についての要件、レベル、質等）、④施設について（設備、宿舍等）、⑤内部評価制度について（結果の評価方法、改善措置等。）、⑥結果（達成レベル、プログラム終了学生の割合）の6つの項目である。訪問調査時には、これらの項目について、1 (poor) ～4 (Excellent) のレーティングで評価され、1 (poor) が、一項目以上ある場合には、認証されないこととなる。

5. European Union (EU) における歯学教育の変遷と歯学教育プログラム認証評価について

European Union (EU) においては、1995年にAdvisory committee on the Training Dental Practitioner (ACTDP) が、Proficiencies for the practice of dentistry in the EU

を発行、1997年には、EUのプロジェクトとしてDetEdが開始された。このDentEdは、Association of Dental Education in Europe (ADEE) のメンバーによって開始されたものであるが、その後、DentEd III (~2007年) まで、ヨーロッパの歯科医学教育の収斂と調和を実行するための中心的役割を果たしてきた。ADEEには、現在、150以上の歯学部がメンバーとなっている。一方、1999年には、29カ国の教育大臣によりBologna Declarationが署名され、ヨーロッパにおける高等教育において、ヨーロッパ高等教育エリアを設立し、お互いの学位の認知をもって、学生、教員の移動が簡便に行うことができるようにすることを、2010年まで調整する、とされている。また、国家間レベルの会合では、2001年にはプラハのEU教育大臣会合において、European Association for Quality Assurance in Higher Education(ENQA)が、教育の質の保証システムの枠組みを2010年までに確立するということが、現在までに、45カ国が署名をしている。そして、この背景のもと、ADEEは、DentEdのプロジェクトを通し、歯学教育におけるカリキュラムの調整を行ってきた。学生の移動については、European Credit Transfer System (ECTS) があることから、その単位計算に合わせての各大学歯学カリキュラムの再編成等が行われている。また、学生、教員の移動のみならず、医師、歯科医師、看護師などの専門職についても、国境を越えた自由移動が保証されたために、歯科医師免許、学位の共通認識を持つことも必要となった。EU加盟国において、他国の歯科医師が、自国の国民に対して治療を行う際に、自国の歯科医師と同等レベル以上の質を保持していることが必要であり、「患者の安全を保証できない」というような事態を避けるため、歯学教育を提供する教育機関の間において、一定の方向性を持ち、お互いに一定の基準を共有するための枠組みが必要となった。その結果、ADEE、DentEdメンバーによって作成されたProfile and Competences for the European Dentist (PCD) (資料1) が、2004年にADEEで承認され、現在は2009年の完成に向け、Supporting competenciesの修正が行われている。PCDの内容は、EU加盟国の歯学部についてのQuality Assuranceに対して、各国が定める歯学教育のベンチマーク以外の基準となり得るものである。また、各国歯学部に対し、質の評価認証がどのようなものであるべきか、どのように実施されるべきものであるかという点について表した、Quality Assurance & Benchmarking, An Approach for European Dental School (資料2) が、2006年にADEE総会で承認されている。Quality Assuranceについては、基本的に、その国において実施されるものであるが、その内容は、EU加盟国内で通用するものでなければならず、その意味で、DentEd (ADEE) は、その評価活動の一つとして、自己評価書に基づくSite-visitを繰り返してきた。これらの訪問は、国内の大学当局による評価認証とはレベルが異なるものであるが、そのプロセスには共有できる部分も多く認められる。2008年は、Ankara大学(トル

コ)、Yeditepe大学(トルコ)、2007年はGazi大学(トルコ)、Moscow大学(ロシア)等の大学が評価を受け、その結果はADEEのホームページ上で公開されている。

このように、EU加盟国における高等教育ネットワークの確立は、各国それぞれの大学の個性を残しつつ、学生の移動を可能とするような枠組みをもたらし、高等教育の活性化を促していると考えられる。特に、ヨーロッパ内では、学位要件と職の免許が等しく扱われる歯科医師については、その教育内容が、直接患者利益、患者保護の観点に結びつくこともあり、歯学教育における教育内容の質の保証は必須のものとなっている。

オランダで言えば、ナイメーヘン大学における歯学教育の質の評価認証が、オランダ国内で十分である、とうだけでなく、他EU加盟国26カ国で十分通用するものでなければならない、ということである。今後、この質の評価認証システムが、EU加盟国が増える中、どのように機能していくのか注視していく必要があると考えられた。

<EU加盟国27カ国>

オーストリア、ベルギー、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、ドイツ、ギリシャ、フィンランド、フランス、ブルガリア、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク、マルタ、ポーランド、ポルトガル、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、オランダ、英国

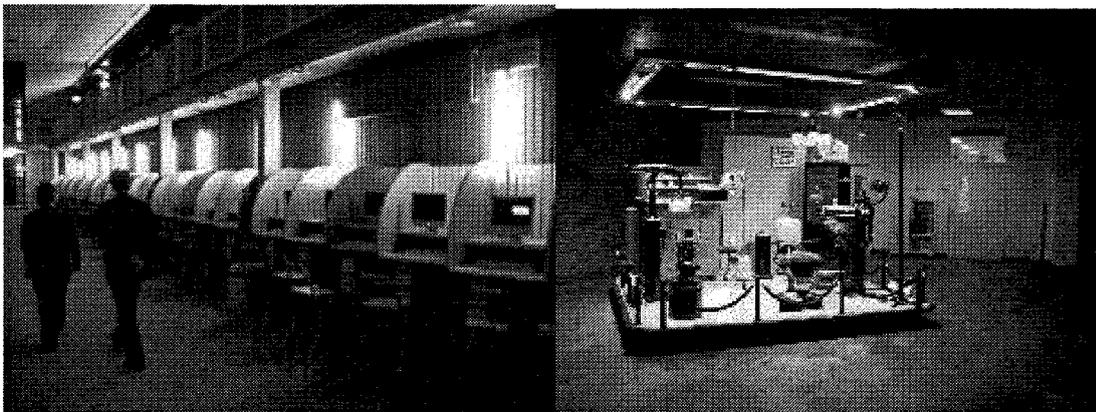
ECTS	1 year	2 nd year	3 ^d year	4 th year	5 th year
60	190	290	390	490	501a
57		280			
54	150		380		
51		250			
48	140		360	480	576
45					520
42	131		350	470	506a
39		240		456	
36	130	230			
33			330		
30					
27	120		320	407	
24	112	207	306	406	
21					
18	111	220	311	466	
15	110	210			506b
12		206		440	501
9	106		310	420	
6	100	200		411	
3			307	410	

ナイメーヘン大学歯学部カリキュラム図（5年制モデル）

左コラム数字は、ECTS を示す。右5本のコラム中は、学科番号を示す。白地の部分は、Professional Training module であり、主に、包括臨床に向けての医歯の基本的臨床技術を学ぶ。緑の部分は、4年次の Research Project に向けた研究関連モジュールである。黄色部分は、選択実習であり、2年次は、文学、法律、哲学など、5年次は、歯科に関わる課題となる。青の部分は、包括臨床実習であり、2年次から始まる

APPENDIX: Curriculum Content, Structure and ECTS European Dental Schools
Part II Methods of Learning and Teaching, Assessment procedures and Performance Criteria より抜粋。

(ナイメーヘン大学歯学部施設写真)



<参考>

- 外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/netherlands/index.html>
- 外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/index.html>
- Manual of Dental Practice 2008, Council of European Dentists
- Registratie en InformatieBeroepsbeoefenaren in de Zorg (Healthcare Providers Registration and Information) HP : <http://www.ribiz.nl/en/AboutRIBIZ/default.aspx>
- NederlandseMaatschappij tot bevorderingderTandheelkunde HP :
<http://www.tandartsennet.nl/english/about-the-nmt.html>
- Vereniging van universiteiten (VSNU) HP : <http://www.vsnu.nl/About-VSNU/What-is-VSNU.htm>
- 独立行政法人大学評価・学位授与機構HP : http://www.niad.ac.jp/n_links/kokusai/1177921_1021.html
- Nederlands-VlaamseAccreditatieOrganisatie (NVAO) : <http://www.nvao.net/>
- Quality Assurance Netherlands Universities (QANU) : <http://www.qanu.nl/>
- QANU PROTOCOL, Version 3.1 e, Guide to external quality, assessment of bachelor's and master's degree programmes in research-oriented universities
- Association of Dental Education in Europe HP : <http://www.adee.org/cms/>
- A Six Year Dental Curriculum -Stomatology Revisited. Proceedings 33rd Annual Meeting of the Association for Dental Education in Europe. European Journal of Dental Education 12(2):112, May2008. Kersten, Henk
- Profile and Competences for the European Dentist
- European Convergence in Dental Education DentEd III 2004-2007
- ナイメーヘン大学歯学部HP :
http://www.ru.nl/students/bachelors_student/vm_bachelor_faculty/bachelor's_medical/vm/dentistry/
<http://www.studiegids.science.ru.nl/2008/fmw/prospectus/Tandheelkunde/>

<協力者>

University of Nijmegen, School of Dentistry

- Professor FonsPlasschaert, Former Dean, Former Rector of University of Nijmegen, Former President of Association of Dental Education in Europe

調査報告者

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科

歯科医療行動科学分野 俣木志朗

歯学教育開発学分野 森尾郁子

はじめに

「米国に歯科大学は何校あるか」との問いに対しては「正式に ADA/CODA 認証を受けている卒前歯学教育プログラムが現在 56 ある」と回答するのが正しいようにも思われる。米国では歯科医師免許に関する事項は州政府管轄であり、たとえばカリフォルニア州では消費者庁 Department of Consumer Affairs の中に担当課が存在する。根拠となる法律は、州の歯科医療法 state dental practice act である。州内で歯科医師として働くためにはいわゆる国家試験に相当する National Board Dental Examinations (NBDE) のパート1、パート2に合格し、州が実施する臨床実地試験に合格していることが必要であるが、それらの試験の受験資格は、すべての州において基本的には米国歯科医師会・歯学教育認証委員会 American Dental Association, Commission on Dental Accreditation の認証を受けたプログラムを修了していることが条件になる。したがって、ADA/CODA 認証を受けていないプログラムを提供する「歯科大学」があるとすれば、それは歯科医師養成という観点からは「歯科大学」とはいえない。（注：最近カリフォルニア州では ADA/CODA 認証を受けていないメキシコの歯科大学卒業を、受験資格として認める動きもある。）

今回は卒前歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価という観点から、米国の卒前歯学教育の ADA/CODA 認証に注目し、評価を受ける歯科大学側の受け止め方と評価を行う側の立場について現地調査を行った。カリフォルニア州には現在5つの歯科大学があるが、訪問先はカリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部（2005年に ADA/CODA 視察）、パシフィック大学歯学部（2007年）、南カリフォルニア大学歯学部（2008年）とし、折しも調査期間中にロマリダ大学歯学部視察でカリフォルニアを訪れていた ADA/CODA 関係者から情報収集を行った。

I 米国の歯科医療の特徴

米国では歯科医療「保険」は一般的には民間保険会社が提供するもので、国家レベルで行われる公的保険は低所得者に対するメディケイド Medicaid、65歳以上の高齢者対象のメディケア Medicare のみであると考えてよい。その結果、メディケイドの対象となるほどの低所得ではないが、民間保険会社の歯科保険 dental plan を購入する余裕がない人々も多く存在する。医療保険についていえば国民の1/6にあたる4,500万人が無保険であるという。州別・地域別の歯科医師数にはかなりの格差があり、歯科医師が特に少ない地域では、予防処置以外にも基本的治療が実施できる「上級歯科衛生士」を認める州も出てきている。歯科医療が直面する課題としては、歯科医療へのアクセスにおける地域格差の解消や低所得者層の歯科医療へのアクセス向上などがある。

米国で歯科医療に関わる主な人材は、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手などである。

II 米国の歯学教育制度・歯科医師免許制度の概要

1. 入学要件

概ね入学資格・要件は以下の4つである。

1) 歯科大学入学前の4年制大学での単位取得状況：大学によって最低限の科目・単位数指定

がある。生物学、有機・無機化学の単位取得を要求されることが多い。

2) 歯科大学入学試験 DAT (Dental Admission Test) の成績

※米国歯科医師会の教育部 Division of Education が担当している。

<http://www.ada.org/prof/ed/testing/dat/index.asp>

3) 入学願書一式 (AADSAS 申請書類には小論文、推薦書などが含まれる)

4) 面接試験 1) ~ 3) の書類審査で選抜された志願者が面接試験に呼ばれる。

面接委員には歯科学生が加わることもある。

2. 願書受付

願書一式を AADSAS (the American Association of Dental Schools Application Service) に送付すると複数校受験の場合には、重複して書類を提出しなくてもよいという利点がある。多くの歯科大学が AADSAS を利用している。

3. 卒前歯学教育プログラム

米国には現在 56 校の歯科大学・歯学部があり、卒前歯学教育 predoctoral course の多くは 4 年制であるが、3 年制もある。年間の卒業生数は 4,478 人 (ADEA, 2005-2006)。

歯科医師以外の歯科医療専門職養成コースとして、歯科衛生士養成校 278 校、歯科助手養成校 259 校、歯科技工士養成校 24 校がある。

歯科医師免許は州政府管轄であり、National Board Dental Examinations (NBDE) のパート 1 (主に基礎系科目)、パート 2 (歯科臨床総合問題) に合格し、州の臨床実地試験に合格する必要がある。パート 1、パート 2 はコンピュータ化され、年間を通じて受験可能である。

<http://www.ada.org/prof/ed/testing/index.asp>

歯学教育が直面する課題としては、歯科大学の教員確保と歯科医学教育へのアクセスの格差解消などがあげられる。前者は主に歯科開業医と大学教員給与の差が大きいため、常勤ポストが埋まらない大学が増えていることである。教員の高齢化も指摘されている。概して米国の歯科大学では非常勤教員 (特に臨床系) の比率が高い。後者は歯科医師数の地域格差とも関係することであるが、人種・民族、性別などの点で多様な学生を歯科大学に入学させようとするものである。

III 卒前歯学教育の第三者評価

歯学教育プログラムの認証評価は米国歯科医師会・歯学教育認証委員会が行っている。

American Dental Association, Commission on Dental Accreditation (以下 ADA/CODA と記す)

<http://www.ada.org/prof/ed/accred/index.asp>

※高等教育機関としての評価などは別に存在する。

1. ADA/CODA 認証評価のよりどころとなる基準 Accreditation Standards

卒前歯学教育以外にも卒後歯学教育、歯科医師以外の歯科医療職養成課程のすべてに関する基準が存在し、基準の見直しについては順次、修正案がインターネット上に公開され、質問などを受け付ける公聴会 Open Hearing が開催されている。

1) 卒前歯学教育プログラム認証基準

Accreditation Standards for Dental Education Programs

※現在提案されている改定案については、2009 年 5 月 1 日までに意見を募り、2009 年 7 月

の委員会で決定される予定になっている。

2) 卒後歯学教育プログラム認証基準

Accreditation Standard for Advanced Dental Programs

- Advanced General Dentistry Education Programs in Orofacial Pain
- Clinical Fellowship Training Programs in Craniofacial and Special Care Orthodontics など

3) 歯科医師以外の歯科医療職養成プログラム認証基準

Accreditation Standards for Allied Dental Programs

- Accreditation Standards for Dental Laboratory Technology Education Programs
- Accreditation Standards for Dental Assisting Education Programs
- Accreditation Standards for Dental Hygiene Education Programs

2. 現行の卒前歯学教育プログラム認証基準の構成

Accreditation Standards for Dental Education Programs

Standard 1- Institutional Effectiveness

1-1...1-8

Standard 2-Educational Program

Admission, Instruction, Biomedical Sciences, Behavioral Sciences, Practice Management, Ethics and Professionalism, Information Management and Critical Thinking, Clinical Sciences 2-1...2-27

Standard 3-Faculty and Staff

3-1...3-5

Standard 4-Educational Support Services

Facilities and Resources, Student Services, Student Financial Aid, Health Services 4-1...4-8

Standard 5-Patient Care Services

5-1...5-8

Standard 6-Research Program

6-1...6-2

※別紙参照 “Accreditation Standards for Dental Education Programs”

3. 卒前歯学教育の評価作業の実際

歯学教育プログラム認証評価は7年毎に行われるが（例外的に卒後口腔外科プログラムは5年毎）、視察の24ヶ月前から歯学教育認証委員会 CODA と被評価大学とのやり取りが始まる。

1) 自己評価 self-study : 視察60日前までに歯学部長は自己評価報告書を CODA と視察チームメンバーに送付する。自己評価報告書は2008年1月1日から電子媒体による関連書類一式の提出が求められるようになった。電子媒体でない書類が提出された場合には CODA が有料で電子媒体に変換する。

2) 視察 site visit by the site visit team

視察チームの構成

CODA 指名の歯科医師（座長・責任者）

CODA 指名の各分野の専門家

CODA スタッフ（視察の調整と視察報告書作成）

州の関係者（州の臨床実施試験関係者など）

視察研修者（評価方法の研修など）
カナダ委員会の代表
見学者
被評価大学への出資団体代表

※卒後プログラムや歯科医師以外の歯科医療職養成プログラムの評価は、専門家1名で行う（卒後口腔外科と歯科衛生士養成プログラムは例外で、2名で行う）。

視察期間は通常卒前歯学教育プログラムで2日半、その他は1日半程度である。視察の際には卒前歯学教育プログラムだけでなく、当該歯科大学が提供している他の卒後プログラムや歯科医師以外の歯科医療職養成プログラムの評価も同時に行う。また、他の認証評価機関（たとえば州・地域の大学評価機関など）と連携して行うこともある。

視察日程は原則、被評価大学が決定して、視察に先立ち両者で再確認する。

【標準的視察日程】

オープニングセッション

教育施設見学

※臨床実習時間の2割以上が学外施設で行われる場合には、学外施設も視察先に含める。

昼食

教員との面談

研修医/学生との面談（教員不在の場合で行われる）

総括会議（学部長、プログラム責任者などの出席のもと、視察結果の概要が説明される）

- 3) 暫定視察報告書 preliminary site visit report
- 4) 視察報告書に対する答申 response to the preliminary site visit report 30日以内に提出
- 5) 正式視察報告書と評価決定 formal site visit report and notification of accreditation action
3)、4)に基づき CODA で審議した結果を、30日以内に発表する。

評価結果 accreditation status

- ・無条件認証 Approval without Reporting Requirements
- ・条件付認証 Approval with Reporting Requirements 改善策を指定期間内に提出する必要あり
- ・暫定認証 Initial Accreditation
- ・非認証 Not approved

- 6) 最終視察報告書 final site visit report の受け取り
改善への取り組み

IV 訪問先での調査

1. パシフィック大学歯学部 University of the Pacific, Arthur A. Dugoni, School of Dentistry

2155 Webster Street, San Francisco, CA 94115, USA

訪問日：平成21年2月9日（月）

対応していただいた先生方

Prof. Anders Nattestad, DDS, PhD, Professor and Director of Predoctoral Oral and Maxillofacial Surgery

Prof. Nader A. Nadershahi, DDS, MBA, Associate Dean for Academic Affairs

Prof. David W. Chambers, EdM, PhD, MBA, in charge of the past accreditations

概要：1896年創立の私立大学。1967年に8階建て校舎完成（1～8階まですべてが歯学部）。サンフランシスコ市内でも19世紀に立てられた木造のビクトリアン・ハウスが特徴的な高級住宅地として知られるパシフィック・ハイツにある。1996年にシミュレーション臨床教育施設の設置をはじめ、教室などの刷新を進めている。2004年歯学部の名称を元学部長の名をつけた現在のものとした。研究よりは教育、教育も卒業よりは卒業前重視で、3年間のプログラムを卒業したら、歯科医師としてすぐに働けるようにすることを明確に目標として掲げている。卒業プログラムはいくつかあるが、在籍者は少ない。歯科衛生士など歯科医師以外の歯科医療職養成プログラムはストックトンというやや離れたキャンパスで提供されている。卒業前歯学教育に重点を置いており、研究面はあまり重点を置いていないことは確かであるが、教育評価に対しては前向きで、教育に関する研究では成果をあげている。ADA/CODAに提出した自己評価報告書を見ても研究に割かれたページ数は多くない。

1) 入学試験の特徴

3年制卒業前歯学教育プログラムが基本である。

他に優先プログラムとして以下のようなものがあるが、実際の入学者は少ないようである。

5年制プログラム：高校卒業後、一定の資格を満たした学生対象

6年制プログラム：学士号を3年で取得し、あと3年で歯学教育を行う

7年制プログラム：学士号を4年で取得し、あと3年で歯学教育を行う

その他、学士号をとらないで歯学部に入学者を対象として、後から学士号が取れるプログラムや、米国外で歯科医師免許を取得した学生に対する International Dental/Dentist Program（2年制、定員22名で一般プログラムの2年次から入学する。以下IDPと記す）もあり、それぞれ入学要件・試験が異なる。

1年生から入学する140名の入学定員に対して、3,000名を越える志願者があるとのことで、競争率は高い。競争率の高さは動機のしっかりした優秀な学生を取ることを可能にしている。

3年間で卒業できる確率の高い学生を採用するために、入学試験はたいへん重要なものと認識している。中途退学者を出すことは学生にとっても、大学にとっても損失である。

入試方法は一般的なもので、DATの成績、前大学の成績GPA、小論文、推薦書などを評価した結果、140名に対して約200名を面接に呼ぶ。面接日は丸1日（8:00～16:00）をかけて、教育内容や学費等の説明、学内案内、面接試験（教員と学生による）などを行う。面接試験には少なくとも1時間はかける。授業料など財政的な説明を事前に詳しく行うことは、中途退学者を少なくすることにつながる。一般的に歯科大学を目指す学生は、7、8校に願書を送っているため、他の志望校に合格すると、合格した学生が抜けていく場合もある。したがって、入試業務は定員が埋まるまで五月雨式に行われる。

2) カリキュラムの特徴

全米で唯一の36ヶ月（3年間）のカリキュラム（7月入学）を提供している。カリキュラムの最大の特徴は基礎・臨床系科目の統合を迫及している点である。臨床との関連を重視した基礎歯学教育を目指し、基礎系科目については極力臨床的テーマに関連させた形で教育している。縦の統合にも配慮している。歯科の各専門分野を意識した従来の教え方はしていない。

カリキュラムには現れないが、学生・教員間や学生同士の信頼関係に基づいて、他者を尊重し、学生の成功を支援する humanistic な学習環境作りをモットーとしている。こうした学習環境をつくることも中退退学者率を低くすることにつながる。実際、1学年140名中、中退退学者は4～5人程度で、この率は全米のデータと比較するとたいへん低い。欧州の歯科大学では中退退学者の割合は高くなっている。Nattestad 教授の出身であるコペンハーゲン大学では、入学者の約1/3が中退するということである。

1年次のほとんどは臨床前教育であるが、1年次4学期から患者治療が開始され、2年次は大学附属病院での臨床実習、3年次は主に25ある学外臨床実習施設（Laguna Honda Hospital, San Mateo Medial Center, Project Homeless Connect, LaClinica, OnLok and Sonrisas clinics）で臨床実習を行っている。実習時間は2年次約500時間、3年次約1,000時間で、専門外来ローテーション（口腔外科、インプラント、小児歯科、放射線）もある。ひとりの学生が回る学外臨床施設数は、平均7、8箇所である。臨床実習にかかる時間数の多さでは、3年間のプログラムであるにも関わらず、全米の歯科大学中で上位に入るといえる。

学生の臨床能力評価は、試験ケースによって学生の実際の臨床能力を評価することによる。領域別に試験ケース数が決まっていて、たとえば Nattestad 教授が担当する口腔外科では、3つの試験ケースが設定されている。当然、試験ケースでは教員の助けが全くない状態で、自立して治療を遂行できることが条件である。抜歯の試験ケースであれば、チェック項目が約50あって、必須項目（できないと必ず不合格となる）が設定されている。OSCE については1年次終了時に基本的技能評価のために8ステーションで実施している。2年次以降は実際の患者で行う試験ケースで評価する。OSCE は人、時間、労力の点で負担が大きいので、限られた使い方をしている。グループ治療の形態をとり、複数の学生、研修医が一人の患者を治療することがある。

学年進行と国家試験との関係では、入学後1年半後にパート1を、28ヶ月後にパート2を、卒業直前に州の臨床実施試験を受験する。歯科大学によっては、学年進行と各試験の受験時期は特に連動しておらず、各試験は学生の自己責任において受験するという大学もある。この大学では、州の臨床実施試験に合格していないと大学を卒業できないようになっているので、卒業生はすぐに歯科医師として稼ぎ始められる。

3) 教員と教育

教員数は常勤教員が55名、非常勤・ボランティアの臨床教員が約100名。卒業生は開業後、非常勤・ボランティアの臨床教員として母校に教えに戻ってくるという文化がある。カリキュラムの責任は常勤職員にあり、決められたことを実行するのに非常勤・ボランティア教員が関わっている。常勤の中にコアとなる教員がいて、コア教員を中心にカリキュラム改革を迅速に行っている。

カリキュラムを改変する場合にはコア教員の話し合いで比較的速やかに改変することが可能である。Nattestad 教授の経験では、彼の担当する口腔外科で、より早期に学生が患者を担当できるような改革案を示したところ、かなり速やかに実現できた。彼がかつて勤めていた欧州の歯科大学では考えられないような速さであったという。

4) 教育施設

8階建てのビル内を Nadershahi 教授の案内でほぼ隈なく学内を見学した。最上階8階にはファカルティーラウンジ、6、7階にはあまり広くはないが基礎の研究室 (craniofacial research, microbiology, oral medicine & pathology など) があり、5階は事務部とセミナー室。どの部屋も有効利用されている印象を受けた。大講義室は少なく、20人以下のセミナーで使用されていることが多い。3、4階は学生実習室、教室、売店、カフェテリアなどがある。シミュレーション実習室では、PCを組み込んだ実習台からさまざまな教材にアクセスできる。3階に学生用技工室があり、月・木は6:30~21:30、火・水・金は6:30~21:00、土は9:00~15:45まで使用可能としてある(日・祝は閉室)。シミュレーション実習室は、実習台が車軸状配置のものと、それよりも小さめで実習台が横並びになっている IDP 学生用のものと2つある。

2階(Cレベル)の大治療室では、2、3年生と教員が治療をしている。教員が緑、学生は青のガウンを着用して治療する。ガウン着用の有無については治療室の領域によって掲示されている。1階は大講堂と小児歯科と矯正歯科の外来がある。廊下には卒業生名の刻まれたプラークや学部長の写真などが飾られている。

教育形態として少人数のセミナーが多くなってきているので、現在ある中・大講義室は、セミナー用にさらに小さな部屋に改造するかもしれない。セミナーでは学生が症例を提示し、教員がコメントする形態を取っている。ほとんどの部屋で無線LANが使用でき、必要に応じて学生は各自PCで教材をみることができる。ある教授の急死後に、教材の多くが失われたという経験を通して、教材(授業映像を含め)は、すべてIT化して蓄積する計画であるとのことである。

部屋の有効活用への工夫や、掲示物の充実ぶりは印象的であった。各部屋の入り口にはその日行われることが掲示してあり、エレベーター脇には、我々の訪問があることも「本日の行事」として掲示されていた。掲示物は事務部が担当することであると思うが、こうした努力で教員・学生間の情報の共有化、部屋の有効利用が可能になると感じた。

5) ADA/CODA 認証評価の経験

教育担当副学部長である Nadershahi 教授をはじめ、1971年から同大学において過去3回の ADA/CODA 認証評価に関わったという Chambers 教授からも、認証評価プロセスは教育改善における好機と捉えているとの発言があった。

7年毎のその時を単にやり過ごすのではなく、教育評価は不断の取り組みであると考えている。ADA/CODAの基準に照らして自分の大学がどの程度のことを達成しているのか、そういえるための証拠は何かを自らに問う過程である。ADA/CODAは自己評価の根拠となる資料については指定しないので、大学自身でそれを考える必要がある。実際パシフィック大学では優れた教育プログラムに与えられる賞を獲得する努力も行っている。

ADA/CODA 認証評価については、連邦政府教育省が注文をつけることもある。たとえばこれまでに ADA/CODA 認証を認められなかった卒前歯学教育プログラムはないので、その存在意義について疑問の声があがったこともあった。以前は ADA/CODA 認証評価で問題が指摘された場合でも、改善を行う期限が定められていなかったが、期限がつくようになった。また、学生を評価する場合、実際に獲得した能力を評価すべきという提言もされている。

6) その他

州の臨床実施試験に関しては、実際の患者に治療を行うため、患者が当日現れなければ自動的に不合格であるし、患者次第といった面が大きいという批判がある。評価結果は患者に左右され、評価方法としての信頼性の低さも指摘されている。

ADA/CODA 自己評価報告書からは、学生対教員の比率が改善されてきていることがわかるが、教員内訳をみると常勤教員以外で増やしているという問題はある。歯学部附属病院での患者治療の45%は学生によるものであり、患者治療を学生がたくさんしている点では全米でも上位に入るだろう。

私立大学なので、財務面では収入の約7割が学生の授業料である。学生による治療費は教員の65%ぐらいに設定している。州からの補助金で治療することもある。HIV患者がほとんど自己負担なく、治療を受けられる治療室がある。

2. カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部

University of California San Francisco, School of Dentistry

513 Parnassus Avenue, San Francisco, CA 94143, USA

訪問日：平成21年2月10日（火）

対応していただいた先生

Prof. Dorothy A. Perry, Professor and Associate Dean for Education

概要：カリフォルニア大学（州立）の一つ。医学部、歯学部、薬学部、看護学部など医療系の学部だけで構成されている。大学のある地域は病院街という印象で、他のカリフォルニア大学、たとえばバークレー校など、広大なキャンパスを有する大学とは趣きがだいぶ違う。歯学部にはアジア系、インド系など多様な文化的背景をもった学生が入学している。歯学部はその歯学研究レベルの高さでも有名である。

1) 入学試験の特徴

4年制カリキュラムに、2005/2006年以降は80名の学生を入学させていたが、最近になって定員を88名にした。どのような学生を入学させるかについては、多様性を高めるという州の方針にそって入試が行われている。学生は卒業後出身地に帰って歯科医師として働く傾向があると考えられるため、入学してくる学生の多様性を高めれば、歯科医師分布の格差解消につながるというのがその根拠である。歯科医師不足の地域から学生を入学させたいという明確な方針がある。かつては人種・民族によって受入れ人数枠を設けていた時期もあったが、1995年にできたカリフォルニア州の法律 Proposition 209により、ある特定のグループに優先枠を設けることは違法とされ、廃止された。現在の入試では優れた点を評価するという方法でのみ対応が可能である。「優れた点」を単に試験の点数と捉えるのではなく、より広い意味で捉えることで多様性を確保することにつながっている。これまでさまざまな困難（たとえば経済的苦境を乗り越え、家族を支えてきたなど）を経験した学生は、そうした困難を乗り越えたことでポイントが高くなるといった具合である。

DATの成績、前大学での成績GPA、推薦書などに加えて、志願者は「優れた点」を示す証拠書類を提出することができる。入試委員会がすべての文書を評価した上で、88名の入学定員に対して、約250名を面接試験に呼ぶ。一度に250名は呼べないので、一回に20名ずつを呼び、丸一日をかけて説明と面接試験を行う。面接日の最初には必ず歯学部長からの説明があり、教員との1対1での1時間に渡る面接、在籍生との面接へと進む。このような入試の結果、かなり多様な学生を入学させているという。

さらに歯科医師の少ない地域出身の学生が歯科大学に入学しやすくするためのプログラムとして、一度歯科大学受験に失敗した学生を対象としたプログラムを提供している。一度歯科大学を不合格になった学生は、そのままでは翌年以降も不合格になる可能性が高く、どの歯科大学からも面接に呼ばれないという事態になりかねない。足りなかった部分を補強するために1年間カリフォルニア州立大学に入学させて、UCSFの教員がメンターとなって指導を行い、DATスコアを向上させ、UCSFに限らずどこかの歯科大学に入学できる可能性を高めようとするものである。これまでにこのプログラムを終えた学生は、100%歯科大学に入学を果たしている。

授業料はカリフォルニア州出身者と州外の者とは若干異なるが、ほとんどの学生はカリフォルニア州の住民になるので、1、2年の内には州出身者と同額の年間12,000ドルの授業料を納めればよいことになる。

IDPは7年前から開始され、24名の学生を通常プログラムの3年次から入学させている。一般学生とIDP学生との間で何らかの摩擦が起こることも当初は懸念されたが、実際には学生同士は

うまくつきあっている。IDP 学生は年齢も高く、より成熟していることが多いので、相互による影響を及ぼしあっている。出身国はインドが多い。

2) カリキュラムの特徴

卒前歯学教育プログラムは4年制が基本で、5つのストリームからなっている。カリキュラム改革後、5年が経つ。科目別ではなく、なるべく統合した形で教えることを目指している。ストリームのひとつである Biomedical Science Stream は、いわゆる基礎系科目がたくさん組み込まれているが、教員間の連携がうまくとれている。学生に対しては質問を多く投げかけ、考えさせるといった工夫はしているが、いわゆる PBL-tutorial 教育は実施していない。PBL については時間、人、場所などがかなり必要なので、採用していないということであった。学習支援方法として、すべての教材のあるサイトに集結させ、学生が必要に応じて参照することができるなど、数年をかけて IT 環境を整備してきた。セキュリティーについて十分な説明を行い、すべてのものがネット上で見られるようにした。Podcast を使った画像の配信も行っている。授業に PC を持ち込むこともある。セキュリティーをしっかりかけた上で、教材すべてを IT 化して学生に開示することで、毎日どこでも教材にアクセスできる環境を実現しつつあるという。

臨床実習については、2年次春学期に初めて患者を診る。最初は学内 Center of Oral Medicine で患者を治療し、3年次の春・夏学期から学外の臨床実習施設で45日間、患者治療を行う。学外臨床実習先としては地域診療所が多い。教員の指導下にあるものの、学内よりは自由に患者治療の経験を積むことができる。学生達はこの経験を楽しみにしている。地域診療所は歯科医師の少ない地域に配置されていることが多く、連邦政府からの公的援助で歯科医療を提供している。

臨床実習評価方法は、毎日の形成的評価に加えて、総括的評価として定期的に臨床能力評価 Competence-based evaluation を行っている。臨床能力試験では一つの手技に対して、どのくらい到達しているかを評価する。学外臨床実習施設では指導医はいるが、学内の指導医との間で評価にばらつきが生じかねないので、評価者間で調整をしている。臨床実習評価は2つの評価を組み合わせている。最低限のケース数は設定してある（たとえば部分床義歯は5アーチなど）。しかしあまりにケース数にこだわることは、全人的歯科治療という観点からは望ましくない。したがって、最低限のケース数と全人的歯科治療を意識した評価とを組み合わせているとのことである。

学生の臨床実習に協力する患者については、サンフランシスコは人口が集中しており、大学へのアクセスもよいので患者は比較的たくさんいるが、学生に適している患者を見つけるのはやはり容易ではない。学生による治療費は教員の半額に設定できる。教員の治療費は近隣の歯科開業医での治療費とほぼ同額を請求できる。州の公的補助を受けた歯科治療 Denti-Cal を提供しているのは、UCSF の病院が最も多い。

臨床実習以外の成績評価方法については、UCSF ではあまり論文形式の試験はしていないという。むしろ多選択肢問題が多い。OSCE については各ストリームで必要に応じて実施することもあるが、PBL と同様、多大な時間、人、労力を要するので、他の評価方法と組み合わせる必要に応じて行う程度に留めている。

学年進行と各種試験との関係については、学生に対して2年次終了以前にパート1、パート2を受験しないように指導している。試験の可否は進級条件とはしていない。ほとんどの学生は2年次終了時にパート1、4年次終了時にパート2を受験し、州の臨床実地試験は毎年6月に行われるので、卒業の直前に受験する。

約2割の学生は選択性で指導教員について研究プロジェクトを行っている。この体験を通して研究者の生活を体験することができる。研究の強い大学ではあるが、学生全員にさせることはしていない。卒後はほとんどが臨床医になるが、毎年2、3名は修士課程、博士課程へと進み研究

者を目指す。秋学期に「研究発表の日」research dayがあり、学生、大学院生、教員が研究発表を行う。

3) ADA/CODA 認証評価の経験

2005年4月にADA/CODA視察を受けている。実行委員会を編成し、毎週火曜日に集まって、対応を協議した。Perry教授はその委員会の座長であり、2年間の準備過程は一言で言えば「悪夢のよう」。ものすごい仕事量であったが、その副産物として学部内が一つにまとまったという印象を持ったという。2005年4月の視察では、65名の教員・学生がADA/CODA視察チームの面接を受けた。65名に対しては学部長から事前説明があった。

7年前まで歯科衛生士教育プログラムを提供していたが、現在では実施していない。歯科衛生士教育プログラムはコミュニティーカレッジ等で提供していることが多い。現在は歯科衛生士の修士課程のみ提供している。

研究費獲得状況からも全米でも研究が強い大学であり、教員は一般に研究志向が強く、普段の教育やADA/CODA認証評価などの業務に対して、どのような受け止め方をしているのかを聞いたところ、教員のキャリアトラックがある程度分化しているため、教員によってどちらに重きを置くかを選べるとの回答であった。

5年を経過してカリキュラムもだいぶ安定してきているが、教育方針委員会 educational policy committeeにおいて、現在でも継続的にカリキュラムの見直しを行っている。直面している課題の一つは、現在の学生の学習習慣が何十年か前の学生とは明らかに違っている点である。現在の学生の学習習慣に合わせて、カリキュラムも変えていかなければならないと考えている。

3. 南カリフォルニア大学歯学部 University of Southern California, School of Dentistry

925 West 34th Street, Los Angeles, CA 90089-0641, USA

訪問日：平成21年2月12日（木）、2月13日（金）の2日間

対応していただいた先生方

Prof. Eugene Sekiguchi, DDS, MSEE, BSEE, Professor and Associate Dean for International, Professional and Legislative Affairs, Director of Advanced Standing Program for International Doctors

Prof. Sigmund H. Abelson, DDS, G Donald Montgomery Professor of Dentistry, Acting Dean

Dr. Tota Shimizu, Clinical Instructor of graduate program of endodontics

概要：大学の創立は1880年で、西海岸では最古の私立大学。映画、芸術などの専攻を含め多くの学部があり、広大なキャンパスには200近くの建物がある。近隣地域はロサンゼルスダウンタウンの南端に接し、どちらかというといと低所得者層の居住する地域にある。USC全体として留学生は30%と全米で最も留学生数が多い大学のひとつとなっている。歯学部は4階建てのNorris Dental Science Centerにあり、訪問当時は学部長不在で、4名の学部長候補者の選考過程に入っていた。2001年からほとんどの授業がPBL-tutorialで行われており、歯学教育におけるPBL-tutorialを主導する存在として有名。

1) 入学試験の特徴

我々の訪問第1日目には、志願者に対する説明、PBL体験、面接などが行われており、在籍学生のカジュアルな服装とは対照的な服装をした学生達が集まっていた。入試方法は一般的な方法による。

1年次から入学させる144名以外に、32名のIDP入学者を3年次から受け入れている。授業料は通常プログラムと同額である。インド、中東、アジアからの出身者が多い。3年生以降の総学生数176名は、ニューヨーク大学について2番目に多いという。アジアからは日本人は少なく、ベトナム、韓国出身者が多い。

2) カリキュラムの特徴

4年制カリキュラムで、2001年からほとんどの授業をPBLで行っているが、今後は症例基盤型学習の方向へ転換することも考えている。PBL-tutorialにおけるチューター（ファシリテーター）は、原則としてテーマとなっている内容の専門家である必要はないが、やはり専門の教員を置くように変えていく方針であるらしい。PBLのやり方も問題があれば随時変えていく姿勢である。PBLありきではなく、学生中心の教育をどう行うかを考えることが重要である。講義形式であっても学生中心のものにすることもできる。学生の集中力が続くのは15~20分ぐらいまでだろう。だから15~20分間教員が話したら、次は学生同士で考えたことを話させる。得た知識を活用するようにさせることで、使える形で知識を頭に残すことができると考えている。学生数は1年生144名である。8名の小グループにすると小部屋が18室、18人のファシリテーターが必要になる。ファシリテーター養成研修は常に行っている。PBL教育の評価は「トリプルジャンプ」で行っているが、多選択肢問題で知識の評価も行っている。

臨床教育に関しては、2年次の終わりから患者治療準備は開始するが、本格的に患者治療が始まるのは3年次からで、全米平均よりやや遅いと思われるかもしれない。これは臨床実習を始めるに当たって学生の能力がやや不十分であるという指摘があったことで、臨床前教育を十分に行ってから患者治療を始めるようにしたためである。

教員は日々学生の治療を観察し、評価している（ポートフォリオではない）。臨床能力試験は、たとえばクラウン4、修復3、アマルガム2、歯周疾患は10人の患者、全部床義歯1、部分床義歯7、インプラント1（埋入するのは教員で、学生はその上の修復を担当する）など、試験のケース数が決まっている。以前はすべてケース数を定めていたが、現在では必要最低限のケース数とあとは臨床能力試験の結果で評価している。OSCEも適宜行っている。

臨床実習は主に学内の治療室で行うが、現在9つの学外臨床実習施設を有しており、今後、その数を増やす予定である。学生の2割程度は常に学外施設で臨床実習をしている。学外施設の指導者と学内の指導者との評価における調整は常に問題になる。学外臨床実習施設にはUSCの研究所のあるもう一つのキャンパスにある病院、ロサンゼルス郡の診療所等がある。

1年間の卒後プログラムには、GPR (Graduate Practice Residency) という病院を中心とした卒後臨床研修コースと AEGD (Advanced Education in General Dentistry) があり、こうしたコースを終了していると州の臨床実地試験を受験しなくてもよいことになった。卒後プログラム評価は、ポートフォリオによって行われ、州が適当と判断した開業医などが外部評価者として派遣されてくる。その他の卒後プログラムも充実しており、すべての歯科専門分野で卒後プログラムを提供している。

6つのデンタルチェアを搭載した歯科診療車 mobile unit を17台所有している。一地域に歯科診療車4台と学生を派遣することで、かなりの数の患者を診ることができる。学生のうちからこのような実習をする経験が、歯科医師不足の地域で将来働く動機付けになることを期待している。歯科診療車での治療対象者は主に小児・学童である。不法移民が多い地域であるが、子供には罪はない。人口的には子供は2、3割であるが、ここで治療しておけば将来8割の問題を未然に防げるといのが根拠にある。

高齢者歯科については卒前歯学教育では3、4年次で触れられることはあるが、主として修士課程で教えている。高齢者の場合には医学的に複雑な問題を抱えている場合が多いので、障害者とならんで口腔外科医を中心に1階のスペシャルケア外来で対応している。スタッフに対する緊急時の対応訓練（心肺蘇生術など）を行うとともに、近隣の病院とも連携をとっている。

昼休みに学生主催の自主セミナーを見学する機会を得た。テーマは「英語を話さない患者への対応」。教員による当該地域の人口動態の特徴などの情報提供後、スペイン語を母語とするヒスパニック系患者やアフリカ出身の患者治療の際に直面した問題について、学生と教員が意見を述べ合っていた。ベテラン教員からのコメントに、敬意を表しながら耳を傾けていた学生達の姿が印象的であった。

3) ADA/CODA 認証評価の経験

2008年4月8日～10日にADA/CODA認証評価の視察があった。2008年の評価では、改善点としていくつかの点を指摘された。そのひとつに臨床実習修了要件を満たせず、5月中旬の通常の卒業時に卒業できなかった学生が若干多いことがあった（約30名が8月卒業）。臨床実習の進み方については学生の自己責任に任せていた部分が多かった。最低限のケースの遂行や、臨床能力試験を受ける時期などについて、教員が適宜助言を与え、励ます必要性が認識された。学生に期待された学習成果が認められなかった場合、教員側に何か問題があるのではと考えるのが普通である。現在のPBLを中心とした臨床実習前教育は2年間が一塊のようになっているので、微調整が難しいため、もう少し細かい単位として柔軟に問題に対処できるように変えたいと考えているとのことである。

パート1、パート2の成績については、以前はあまりよくなかったが、ADA/CODA認証評価の手続きに入る少し前に、PBL cramming といってPBLで抜け落ちた部分を補うようにしたら、合

格率が改善されてきた。ADA/CODA は7年間の結果をみるので、改善以前の状況も評価されたが、よい方向に向かっていることは示すことができた。

4) 教育施設

4階建ての Norris Dental Science Center をすべて歯学部が使っている。4階には教員の研究室と若干の実験室がある（唾液、免疫関係の実験室、企業提供ラボなど）。研究はもうひとつのキャンパスが中心で、有名な研究室を多数擁している。

3階には臨床の基礎実習室 preclinical lab があり、150名が一度にマネキンつき実習機で実習できる。廊下を挟んで IDP 学生のための基礎実習室がある。3階には卒後矯正歯科プログラムのための治療室もある。以前は卒前に矯正歯科も教育していたが、現在ではカリキュラムが過密になったため、ほとんど卒後教育に回したということである。器材・材料供給コーナーを中心に3ユニット一組が6組配置されている。

2階には廊下を挟んで、学生の大治療室があり、計150ユニットがある。学生数は3年次以降、1学年176名に対して、ユニットは150しかないのも、これも定時に卒業できない学生が出る原因の一つになっているかもしれないとのことであった。学生治療室は診察・検査、歯周病治療、修復、義歯など対応・治療の種類によっていくつかのセクションに分かれている。臨床能力試験を行うセクションは別にあり、そこでは教員は一切、手伝わない。グループ治療の責任者は、約20名の学生を担当しており、責任者の部屋の壁には各学生の臨床実習の進捗状況が示されている。各キュービクル内では学生は上下のスクラブを着て、その上から使い捨てのガウンを着用している。学生が指導医のチェックを待っているという状況もしばしば見られた。各ユニットにはPCがあつて、エックス線写真をはじめとする患者情報、教材にアクセス可能である。2階に学部長室、事務部もある。

1階は玄関の他、緊急窓口、卒後プログラム学生用の治療室、歯科衛生士養成コースの学生のための実習室、講堂などがある。

Norris Dental Science Center で治療しているのは学生だけであつて、教員は治療していない。キャンパスから通り一つ隔てたショッピングセンター内に、教員が治療できるクリニックがある。

5) 教員と教育

USC における常勤教員は4日間大学で教育に携わり、1日は開業医として働くか研究をする教員とされている。収入面でみると開業医は年収約175,000ドル、歯科大学教員は約85,000ドルなので、倍の格差がある。常に教員不足の状況にある理由も納得できる。州立（公立）と私立大学の教員の給料の格差はあまりない。公立の場合には州の予算に影響されるが、私立大学の場合には州の財政に影響を受けないので、民間からの資金援助、学生・同窓生からの資金をうまく調達できれば、公立よりも予算面ではコントロールしやすい。学生治療室で学生を指導している教員はほとんどが、引退前か引退後の経験豊かなボランティアの臨床教授であった。30、40歳台の最も稼がなければならない時代には稼ぎ、その後で非常勤やボランティアで臨床実習の指導を行うというのが一般的のようである。

USC の生涯教育プログラム（講師1名、技術指導2名の計3名一組で派遣）事業では、審美歯科やインプラントに関するテーマを中心に、主に利益を上げることが目標に、さまざまなコースを提供して成功を収めている。

4. 米国歯科医師会歯学教育認証委員会スタッフとの面談

Interview with a staff member, American Dental Association, Commission on Dental Accreditation

面談日：平成21年2月12日（木）

面談者：Dr. Lorraine C. Lewis, Manager Predoctoral Education, Commission on Dental Accreditation, ADA

1) International CODA について

米国内の場合は自己評価と視察の2段階からなっているが、国際の場合には予備調査段階、自己評価、視察の3段階があり、予備調査の段階で予備視察が行われる。アジアの歯科大学では韓国のソウル大学、延世大学が資料を取り寄せるなど、関心を示している。

2) CODA 委員の構成

- ・評価委員会 Review Committee (14) 各プログラムの専門家・責任者として、各プログラムに関わる認証基準 accreditation standards の見直しを行う。
- ・委員会 Commission on Dental Accreditation (CODA) (30名)
委員の内訳：開業医、大学教員、教育専門家、評価専門家、一般人などで、歯科医師23名、その他7名。14ある評価委員会の委員長14名が含まれる。任期は3年間。1年において再任は可能。
評価委員会からの提言をもとに最終的に基準改定や歯科大学の認証評価を決定する。1月と7月に会議がある。
- ・委員会スタッフ（8名）：視察の調整、視察報告書の作成などを行う。ディレクター1名、スタッフ6名（Dr. Lewis もその一人）、補助スタッフ1名。

その他関連団体

- ・米国歯科医学教育学会 CODA 関連タスクフォース ADEA-CODA Task Force
ADEA からは現在、歯学教育をより批判的思考能力 critical thinking を向上させるようなものにすべきではないかとの意見が寄せられている。評価方法は難しいと思われる。

3) 視察の実際

卒前歯学教育プログラムの場合、通常視察チームは評価者6名と CODA スタッフ1名で構成される（座長は学部長クラスであることが多い）。財政面をみる評価者、基礎医歯学をみる評価者、国家試験・免許関係をみる評価者など、役割が決まっている。卒後プログラムや歯科医師以外の養成プログラムがある場合には、プログラムにつき2名の評価者が、同時に視察を行うのが普通である。全体として15～18名の視察団になることが多い。

評価者は旅費等の経費は支払われるが評価することに対する報酬はない。評価者になるメリットは評価者がどのような歯科大学に在籍しているかで分かれるだろう。研究重視の大学においては ADA/CODA 認証の評価者となることはあまり評価されないことも考えられる。

視察の時期が迫っているような大学の関係者などで、視察大学からの了解が得られれば、「物言わぬ見学者」 silent observer として視察に参加することが可能であり、ロマリンダ大学歯学部での視察には、2011年に ADA/CODA 視察を受ける予定の UCLA から見学者が参加していたということである。視察チームへの州の代表者の参加については、ADA/CODA は声をかけるが必須ではない。

視察を成功させるための作業で最も大切なのは、評価者間の調整である。そのため ADA/CODA では評価者の研修を、年間を通して実施しており、ADEA と連携して評価者養成を行うこともあ

る。

標準的視察日程は、歯学部長による発表（教育プログラムの目的、学習目標の提示など）から始まるが、学長が来て話す場合もある。その後学内の教育施設見学を約2時間（評価者の中で手分けして回る）、教員との面談（基礎、臨床系に分かれて行う）、学生との面談などを行い、1日目、2日目の終わりには必ずその日のまとめを行って、評価者間での認識を共有する。学外での臨床実習時間数が全体の20%を超えた場合には学外施設も視察しなければならないことから、各大学とも20%を越えないように調整しているようである。

3日目の午前中に総括会議を行い、視察結果の概要が大学側に説明される。それぞれの基準について合・否で評価するが、評価者が各自で評価するのではなく、合議の結果、視察チームとしての合・否を判断する。ほとんどの場合、合意に達するものだという。基準は満たしているが、改善への提案 suggestion がある場合には報告義務なしの認証 approval without reporting requirement となり、基準を満たしていないことがあり、改善への提言 recommendation がある場合には、報告義務付きの認証 approval with reporting requirement となる。後者の場合には6か月毎に改善状況について報告する義務があり、1年半が経過した段階で、一種の警告が来て、この段階で歯科大学は立場を説明する機会を与えられる。そして2年経過しても改善が見られない場合には、認証を取り消されることになる。

連邦政府の教育省から ADA/CODA に対して、委員会構成（一般人の意見を十分入れているか）、認証基準の見直しなど、改善への注文がつく場合もある。

ADA/CODA としては認証基準に数的指標をなるべく入れないようにしている。目安として数字を提示すると、それにこだわるあまり、本質から外れることが懸念されるためだ。ADA/CODA 認証評価に対する受け止め方は大学によって差があり、教育の質の向上のために積極的に利用していかうとする大学もあれば、通らなければならない過程としてとにかく対応するという大学もあることは認識している。ADA/CODA としては、認証評価を教育の目的にするのではなく、教育の質の保証の一側面として受け止めてほしいと考えている。

おわりに

今回の視察では、3つの歯科大学を訪問したが、いずれもカリフォルニア州にあるのに、それぞれの歯科大学の置かれている諸状況、使命、方向性の違いには驚かされた。カリフォルニア州にある大学だけみてもこれだけ違いがあるのだから、全米56校の多様性は想像を絶する。一方それらの教育プログラムを認証評価する ADA/CODA は、各歯科大学の多様性を認めつつも、患者保護と歯科医師という専門職のステータスを護るために、粛々と認証評価作業を続けているという印象を受けた。

帰国後、韓国ソウル大学歯学部教授からうかがった話では、韓国では歯学教育に関する第三者評価システムを検討するために、昨年 ADA/CODA から講師を招聘して勉強会を開催し、すでに歯学教育評価機関 dental accreditation council を設立したとのことであった。

グローバル化する歯学教育の中で、日本においても時代の流れに対応した第三者評価システムを検討する時が来ていると感じた。

最後に各訪問先で丁寧に対応してくださった方々、サンフランシスコ視察の全日程にご同行いただいた日本學術振興会サンフランシスコ事務所副所長の小松明希子氏、さまざまなご助言いただいた東京医科歯科大学・医歯学教育システム研究センター客員教授の Dr. Joel M. Barish に、深甚なる感謝の意を表す。

DDS/DMD Programs - U.S (ADA Homepage)

Below is a listing of all accredited dental education programs in the United States. Graduates receive either a DDS or DMD degree. Questions related to admission's criteria and application process should be directed to the dental school. The information includes web and mailing address, on-site evaluation years and current accreditation status. To obtain a printed list of all accredited predoctoral dental education programs, please email the Commission at accreditation@ada.org.

AL

University of Alabama School of Dentistry at UAB
1530 3rd Avenue S.
SDB 406
Birmingham, AL 35294-0007
Dean: Dr. Huw F. Thomas
Phone: (205) 934-4720
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2007
Next Accreditation Visit: 2014
Web Address: www.dental.uab.edu

AZ

A.T. Still University Arizona School of Dentistry and Oral Health
5850 East Still Circle
Mesa, AZ 85206
Dean: Dr. Jack Dillenber
Phone: (480) 219-6000
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2007
Next Accreditation Visit: 2014
Web Address: www.atsu.edu/asdoh

Midwestern University College of Dental Medicine

19555 North 59th Avenue
Glendale, AZ 85308
Dean: Dr. Richard J. Simonsen
Phone: 623/572-3800
Accreditation Status: Initial Accreditation
Last Accreditation Visit: n/a
Next Accreditation Visit: 2010
Web Address: www.midwestern.edu

CA

Loma Linda University School of Dentistry
Dental School
Loma Linda, CA 92350
Dean: Dr. Charles J. Goodacre
Phone: (909) 558-4222
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2002
Next Accreditation Visit: 2009
Web Address: www.llu.edu/llu/dentistry

University of California at Los Angeles School of Dentistry

Center for Health Science
Rm 53-038
Los Angeles, CA 90095-1668
Dean: Dr. No-Hee Park
Phone: (310) 206-6063
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2004
Next Accreditation Visit: 2011
Web Address: www.dent.ucla.edu

University of California at San Francisco School of Dentistry

513 Parnassus Ave
S-630
San Francisco, CA 94143
Dean: Dr. John Featherstone
Phone: 415/476-1323
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2005
Next Accreditation Visit: 2012

MO

University of Missouri-Kansas City School of Dentistry
650 East 25th Street
Kansas City, MO 64108
Dean: Dr. Nancy Mills
Phone: 816-235-2010
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2003
Next Accreditation Visit: 2010
Web Address: www.umkc.edu/dentistry

MS

University of Mississippi School of Dentistry
Medical Center,
2500 North State Street
Jackson, MS 39216-4505
Dean: Dr. Buford O. Gilbert
Phone: (601) 984-6125
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2003
Next Accreditation Visit: 2010
Web Address: dentistry.umc.edu

NC

University of North Carolina School of Dentistry
UNC-CH CB# 7450
1090 Old Dental Bldg
Chapel Hill, NC 27599-7450
Dean: Dr. John N. Williams
Phone: (919) 966-2731
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2003
Next Accreditation Visit: 2010
Web Address: www.dent.unc.edu

NE

Creighton University School of Dentistry
2500 California Plaza
Omaha, NE 68178-0240
Dean: Dr. Steven W. Friedrichsen
Phone: (402) 280-5060
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2005
Next Accreditation Visit: 2012
Web Address: cudental.creighton.edu

University of Nebraska Medical Center College of Dentistry

40th & Holdrege Streets
Lincoln, NE 68583-0740
Dean: Dr. John W. Reinhardt
Phone: (402) 472-1344
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2007
Next Accreditation Visit: 2014
Web Address: www.unmc.edu/dentistry

NJ

University of Medicine & Dentistry of New Jersey New Jersey Dental School
110 Bergen St.
Room B815
Newark, NJ 07103-2425
Dean: Dr. Cecile A. Feldman
Phone: (973) 972-4633

Web Address: <http://dentistry.uscf.edu/>

University of Southern California School of Dentistry

925 W. 34th Street
Los Angeles, CA 90089-6041

Dean: Sigmund H. Abelson

Phone: (213) 740-3124

Accreditation Status: Approval with Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2008

Next Accreditation Visit: 2015

Web Address: www.usc.edu/hsc/dental

University of the Pacific Arthur A. Dugoni School of Dentistry

2155 Webster Street

San Francisco, CA 94115

Dean: Dr. Patrick J. Ferrillo Jr.

Phone: (415) 929-6425

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2007

Next Accreditation Visit: 2014

Web Address: dental.pacific.edu

CO

University of Colorado Denver

School of Dental Medicine; Lazzara Center for Oral-Facial Health

13065 E. 17th Avenue

Aurora, CO 80045

Dean: Dr. Denise K. Kassebaum

Phone: (303) 724-7100

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2001

Next Accreditation Visit: 2008

Web Address: www.uchsc.edu/sod

CT

University of Connecticut School of Dental Medicine

263 Farmington Avenue

Farmington, CT 06030-3915

Dean: Dr. R. (Monty) Lamont MacNeil

Phone: (860) 679-2808

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2001

Next Accreditation Visit: 2008

Web Address: sdm.uchc.edu

DC

Howard University College of Dentistry

600 "W" Street, N.W.

Washington, DC 20059

Dean: Dr. Leo E. Rouse

Phone: (202) 806-0440

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2002

Next Accreditation Visit: 2009

Web Address: www.howard.edu

FL

Nova Southeastern University College of Dental Medicine

3200 S. University Drive

Fort Lauderdale, FL 33328

Dean: Dr. Robert A. Uchin

Phone: (954) 262-7311

Accreditation Status: Approval with Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2007

Next Accreditation Visit: 2014

Web Address: dental.nova.edu

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2005

Next Accreditation Visit: 2012

Web Address: dentalschool.umdni.edu/

NV

University of Nevada Las Vegas School of Dental Medicine

Shadow Lane Campus

1001 Shadow Lane

Las Vegas, NV 89106-4124

Dean: Dr. Karen P. West

Phone: (702) 774-2500

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2006

Next Accreditation Visit: 2013

Web Address: dentalschool.unlv.edu/

NY

Columbia University College of Dental Medicine

630 West 168th Street

PH7 East Room 122

New York, NY 10032

Dean: Dr. Ira B. Lamster

Phone: (212) 305-4511

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2002

Next Accreditation Visit: 2009

Web Address: cprmcnet.columbia.edu/dept/dental

New York University College of Dentistry

345 East 24th Street

New York, NY 10010

Dean: Dr. Charles N Bertolami

Phone: 212/998-9898

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2003

Next Accreditation Visit: 2010

Web Address: www.nyu.edu/dental/

State University of New York at Buffalo School of Dental Medicine

325 Squire Hall;

3435 Main Street

Buffalo, NY 14214-3008

Dean: Dr. Richard N. Buchanan

Phone: (716) 829-2836

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2003

Next Accreditation Visit: 2010

Web Address: www.sdm.buffalo.edu

State University of New York at Stony Brook School of Dental Medicine

Health Sciences Center;

154 Rockland Hall

Stony Brook, NY 11794-8700

Dean: Dr. Ray C. Williams

Phone: 631-632-8990

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2006

Next Accreditation Visit: 2013

Web Address: www.hsc.stonybrook.edu/dental

OH

Case Western Reserve Univ. School of Dental Medicine

10900 Euclid Avenue

Cleveland, OH 44106-4905

Dean: Dr. Jerold S. Goldberg

University of Florida College of Dentistry

1600 SW Archer Rd.

Rm D4-6

Gainesville, FL 32610-0405

Dean: Dr. Teresa A. Dolan

Phone: (352) 273-5802

Accreditation Status: Approval with Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2008

Next Accreditation Visit: 2015

Web Address: www.dental.ufl.edu**GA****Medical College of Georgia School of Dentistry**

1120 15th Street

Rm AD 1119

Augusta, GA 30912-0200

Dean: Dr. Connie L. Drisko

Phone: (706) 721-2117

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2004

Next Accreditation Visit: 2011

Web Address: www.mcg.edu/SOD**IA****University of Iowa College of Dentistry**

100 Dental Science Bldg.

Iowa City, IA 52242

Dean: Dr. David C. Johnsen

Phone: (319) 335-7144 or 45

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2004

Next Accreditation Visit: 2011

Web Address: www.dentistry.uiowa.edu**IL****Southern Illinois University School of Dental Medicine**

2800 College Avenue

Bldg 273/2300

Alton, IL 62002

Dean: Dr. Ann M. Boyle

Phone: (618) 474-7120

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2005

Next Accreditation Visit: 2012

Web Address: www.siu.edu/sdm/**University of Illinois at Chicago College of Dentistry**

801 South Paulina Street

Suite # 102

Chicago, IL 60612

Dean: Dr. Bruce S. Graham

Phone: (312) 996-1040

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2006

Next Accreditation Visit: 2013

Web Address: dentistry.uic.edu**IN****Indiana University School of Dentistry**

1121 West Michigan Street

Indianapolis, IN 46202

Dean: Dr. Lawrence Goldblatt

Phone: (317) 274-7461

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2006

Next Accreditation Visit: 2013

Web Address: www.iusd.iupui.edu/default.aspx

Phone: (216) 368-3266

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2002

Next Accreditation Visit: 2009

Web Address: www.case.edu/dental/site/main.html**Ohio State University College of Dentistry**

305 West 12th Avenue;

PO Box 182357

Columbus, OH 43218-2357

Dean: Dr. Carole A. Anderson

Phone: 614-292-9750

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2006

Next Accreditation Visit: 2013

Web Address: www.dent.ohio-state.edu**OK****University of Oklahoma College of Dentistry**

1201 N. Stonewall Avenue

Oklahoma City, OK 73117

Dean: Dr. Stephen K. Young

Phone: (405) 271-6326 or 5444

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2001

Next Accreditation Visit: 2008

Web Address: dentistry.ouhsc.edu**OR****Oregon Health and Science University School of Dentistry**

611 SW Campus Drive

Portland, OR 97239

Dean: Dr. Jack W. Clinton

Phone: (503) 494-8801

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2002

Next Accreditation Visit: 2009

Web Address: www.ohsu.edu/sod/admissions**PA****Temple University The Maurice H. Komberg School of Dentistry**

3223 North Broad Street

Philadelphia, PA 19140

Dean: Dr. Amid I. Ismail

Phone: 215-707-2799

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2004

Next Accreditation Visit: 2011

Web Address: www.temple.edu/dentistry**University of Pennsylvania School of Dental Medicine**

240 South 40th Street;

Robert Shattner Center

Philadelphia, PA 19104-6030

Dean: Dr. Thomas P. Sollecito

Phone: 215-898-8941

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

Last Accreditation Visit: 2007

Next Accreditation Visit: 2014

Web Address: www.dental.upenn.edu**University of Pittsburgh School of Dental Medicine**

3501 Terrace Street

Pittsburgh, PA 15261

Dean: Dr. Thomas W. Braun

Phone: (412) 648-1938

Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements

KY**University of Kentucky College of Dentistry**

800 Rose Street
 D 136 UKMC
 Lexington, KY 40536-0297
 Dean: Dr. Sharon P. Turner
 Phone: (859) 323-1884
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2004
 Next Accreditation Visit: 2011
 Web Address: www.mc.uky.edu/Dentistry

University of Louisville School of Dentistry

501 S. Preston Street
 Louisville, KY 40292
 Dean: Dr. John J. Sauk
 Phone: 502/852-5295
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2008
 Next Accreditation Visit: 2015
 Web Address: www.dental.louisville.edu/dental

LA**Louisiana State University School of Dentistry**

1100 Florida Avenue
 New Orleans, LA 70119-2799
 Dean: Dr. Henry Gremillion
 Phone: 504-619-8500
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2001
 Next Accreditation Visit: 2009
 Web Address: www.lsusd.lsuhs.edu

MA**Boston University Goldman School of Dental Medicine**

100 East Newton Street
 Boston, MA 02118
 Dean: Dr. Jeffrey W. Hutter
 Phone: 617-638-4780
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2005
 Next Accreditation Visit: 2012
 Web Address: dentalschool.bu.edu

Harvard University School of Dental Medicine

188 Longwood Avenue
 Boston, MA 02115
 Dean: Dr. R. Bruce Donoff
 Phone: (617) 432-1401
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2003
 Next Accreditation Visit: 2010
 Web Address: www.hsdm.med.harvard.edu

Tufts University School of Dental Medicine

One Kneeland Street
 Boston, MA 02111
 Dean: Dr. Lonnie H. Norris
 Phone: (617) 636-6636
 Accreditation Status: Approval with Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2008
 Next Accreditation Visit: 2015
 Web Address: www.tufts.edu/dental

MD**University of Maryland Baltimore College of Dental Surgery**

650 W. Baltimore Street

Last Accreditation Visit: 2003
 Next Accreditation Visit: 2010
 Web Address: www.dental.pitt.edu

PR**University of Puerto Rico School of Dental Medicine**

Medical Sciences Campus
 Main Building-Office #A103B, 1st Floor
 San Juan, PR 00936-5067
 Dean: Dr. Yilda M. Rivera
 Phone: (787) 758-2525 x1105
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2006
 Next Accreditation Visit: 2013
 Web Address: <http://dental.rcm.upr.edu/>

SC**Medical University of South Carolina College of Dental Medicine**

171 Ashley Avenue;
 PO Box 250507
 Charleston, SC 29425-1376
 Dean: Dr. John J. Sanders
 Phone: (843) 792-3811
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2003
 Next Accreditation Visit: 2010
 Web Address: www.musc.edu/dentistry

TN**Meharry Medical College School of Dentistry**

1005 D.B. Todd Blvd.
 Nashville, TN 37208
 Dean: Dr. William B. Butler
 Phone: (615) 327-6207
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2008
 Next Accreditation Visit: 2015
 Web Address: dentistry MMC.edu

University of Tennessee College of Dentistry

University of Tennessee Health Science Ctr;
 875 Union Avenue
 Memphis, TN 38163
 Dean: Dr. Timothy L. Hottel
 Phone: (901) 448-6202
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2003
 Next Accreditation Visit: 2010
 Web Address: www.utmem.edu/dentistry

TX**Baylor College of Dentistry Component of Texas A & M Health Sci Ctr**

3302 Gaston Avenue
 Dallas, TX 75246
 Dean: Dr. James S. Cole
 Phone: (214) 828-8201
 Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
 Last Accreditation Visit: 2004
 Next Accreditation Visit: 2011
 Web Address: www.tambcd.edu

Univ. of Texas Hlth Science Ctr-Houston Dental Branch

6516 M. D. Anderson Blvd.;
 Room 147;
 Houston, TX 77225-0068
 Dean: Dr. Catherine M. Flaitz

Suite 6402
Baltimore, MD 21201
Dean: Dr. Christian S. Stohler
Phone: (410) 706-7461
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2004
Next Accreditation Visit: 2011
Web Address: www.dental.umaryland.edu

MI

University of Detroit Mercy School of Dentistry
2700 Martin Luther King Jr. Blvd
(MB 98)
Detroit, MI 48208-2576
Dean: Dr. Mert N. Aksu
Phone: (313) 494-6621
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2007
Next Accreditation Visit: 2014
Web Address: www.udmercy.edu/dental

University of Michigan School of Dentistry

1011 N. University Ave.
Ann Arbor, MI 48109-1078
Dean: Dr. Peter J. Polverini
Phone: (734) 763-3311/3111
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2002
Next Accreditation Visit: 2009
Web Address: www.dent.umich.edu

MN

University of Minnesota School of Dentistry
Room 15-209 Moos Tower
515 S.E. Delaware Street
Minneapolis, MN 55455
Dean: Dr. Patrick M. Lloyd
Phone: (612) 625-9982
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2006
Next Accreditation Visit: 2013
Web Address: www.dentistry.umn.edu/

WV

West Virginia University School of Dentistry
Robert C. Byrd Health Sci Ctr.;
1150 HSC North/Medical Center Drive;
Morgantown, WV 26506-9400
Dean: Dr. Louise T. Veselicky
Phone: 304/293-2521
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2002
Next Accreditation Visit: 2009
Web Address: www.hsc.wvu.edu/sod

Phone: (713) 500-4021
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2005
Next Accreditation Visit: 2012
Web Address: www.db.uth.tmc.edu

University of Texas Hlth Science Ctr-San Antonio Dental School

7703 Floyd Curl Drive
Mail Code 7914
San Antonio, TX 78284-7914
Dean: Dr. Kenneth L. Kalkwarf
Phone: (210) 567-3160
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2005
Next Accreditation Visit: 2012
Web Address: www.dental.uthscsa.edu

VA

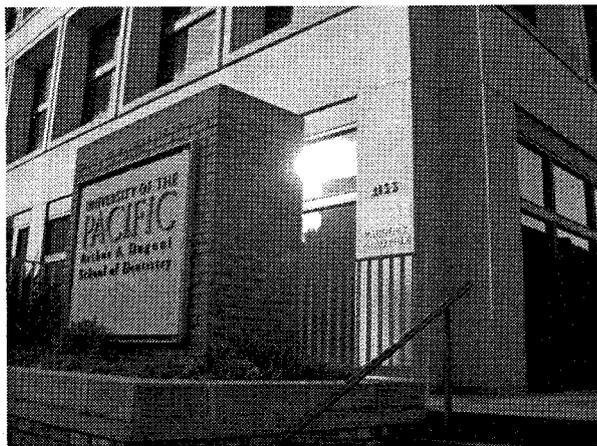
Virginia Commonwealth University School of Dentistry
P.O. Box 980566
520 North 12th Street
Richmond, VA 23298-0566
Dean: Dr. Ronald J. Hunt
Phone: (804) 827-2077
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2003
Next Accreditation Visit: 2010
Web Address: www.dentistry.vcu.edu

WA

University of Washington-Health Sciences School of Dentistry
D322 Health Sciences Bldg;
1959 NE Pacific St.;
Seattle, WA 98195
Dean: Dr. Martha J. Somerman
Phone: (206) 543-5982
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2002
Next Accreditation Visit: 2009
Web Address: www.dental.washington.edu

WI

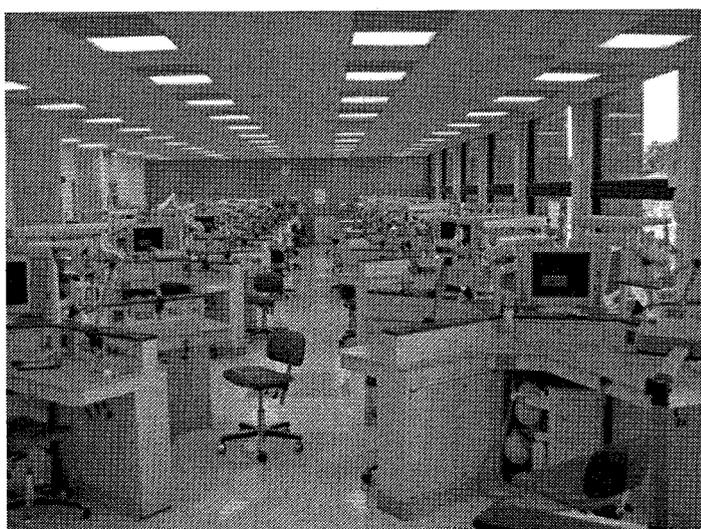
Marquette University School of Dentistry
1801 W. Wisconsin Avenue
Milwaukee, WI 53233
Dean: Dr. William Keith Lobb
Phone: (414) 288-7485
Accreditation Status: Approval without Reporting Requirements
Last Accreditation Visit: 2007
Next Accreditation Visit: 2014
Web Address: www.dental.mu.edu



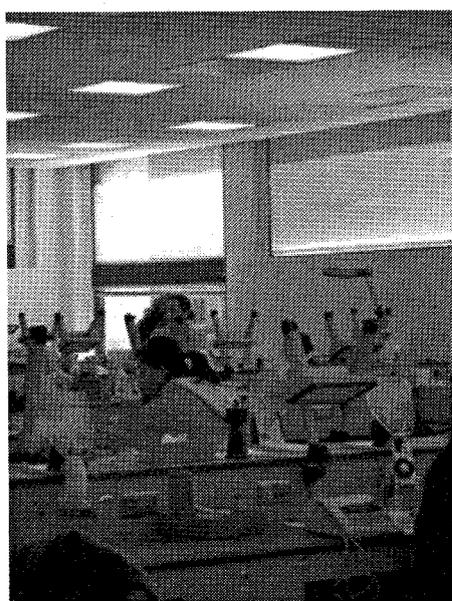
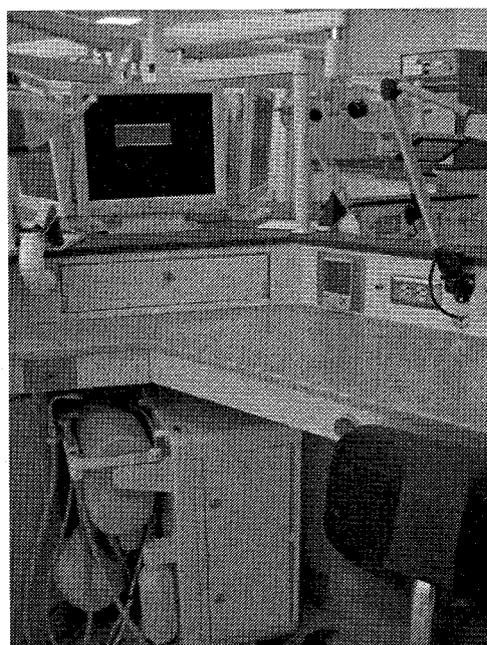
パシフィック大学歯学部概観



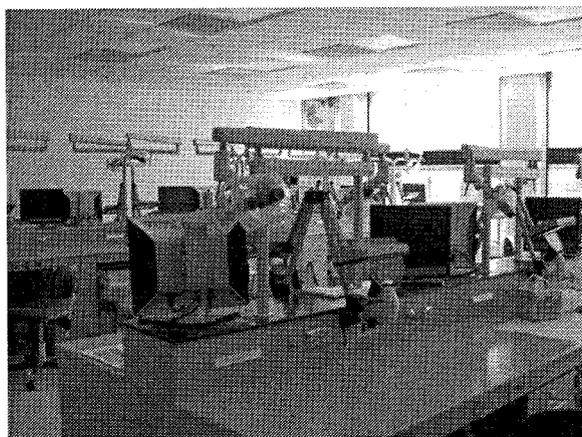
シミュレーション実習室



シミュレーション実習室



学生の技工室



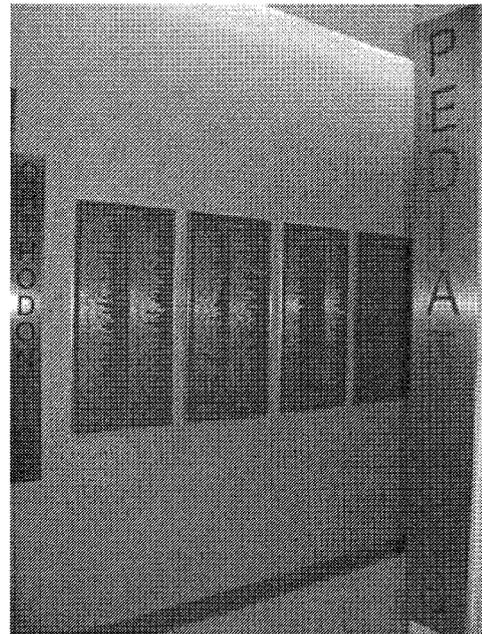
IDP学生用のシミュレーション実習室



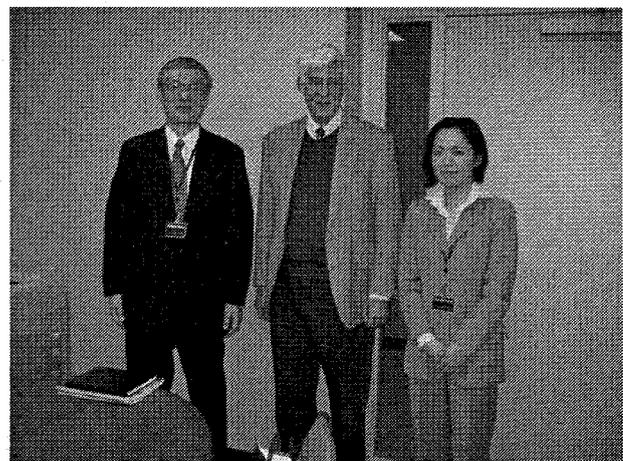
臨床実習が行われる治療室



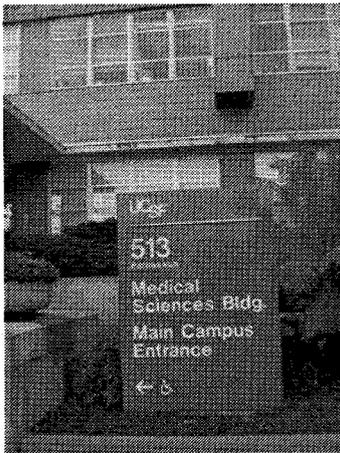
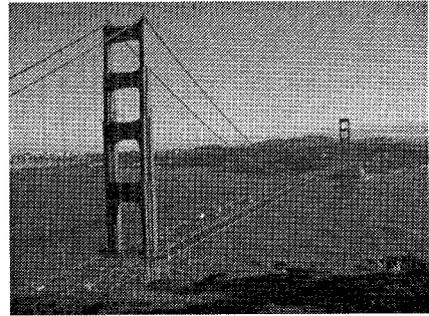
ガウンは学生用と教員用とで色分けされている



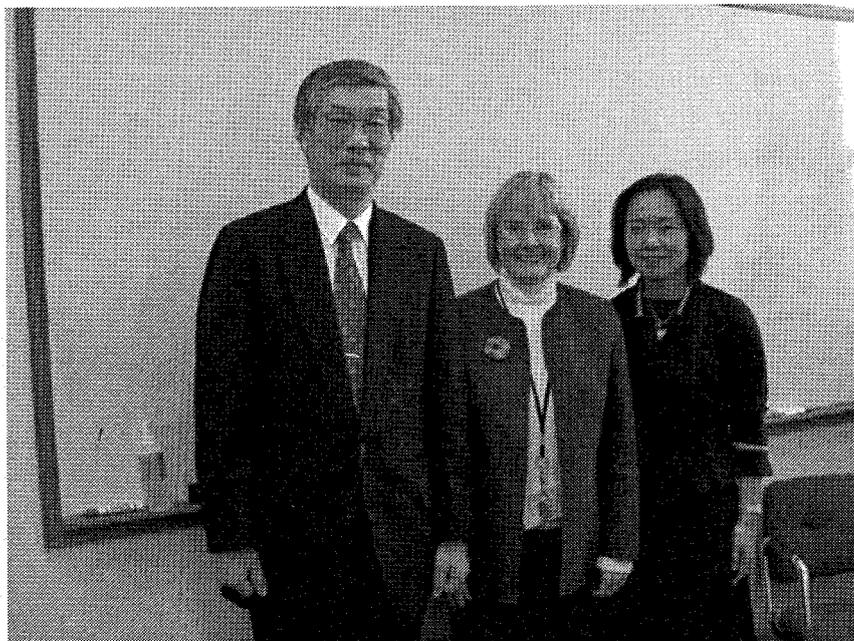
1階の小児歯科と矯正歯科外来の廊下には
卒業生の名前が刻まれたパネルが並ぶ



教育担当副学部長Prof. Nadershahi (中央) —115— ADA/CODAIに詳しいProf. Chambers (中央)



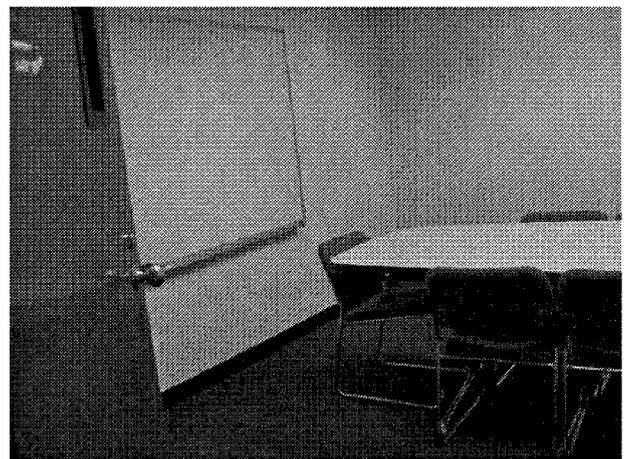
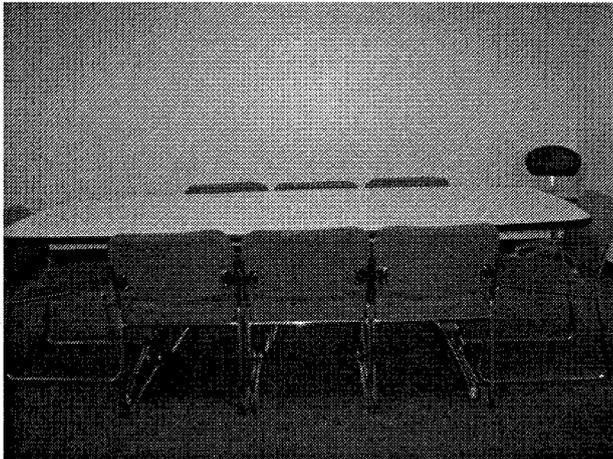
カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部概観



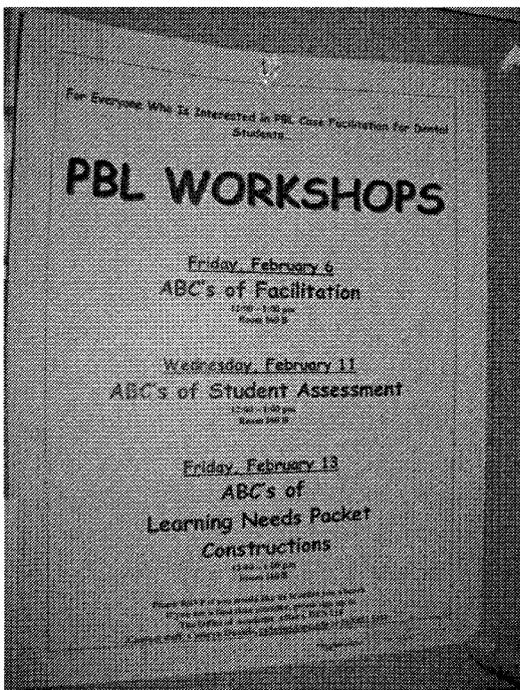
教育担当副学部長Prof. Perry (中央)



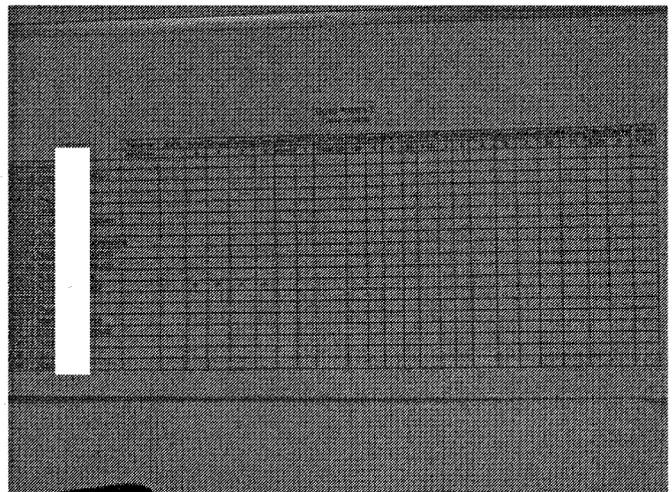
南カリフォルニア大学歯学部玄関前



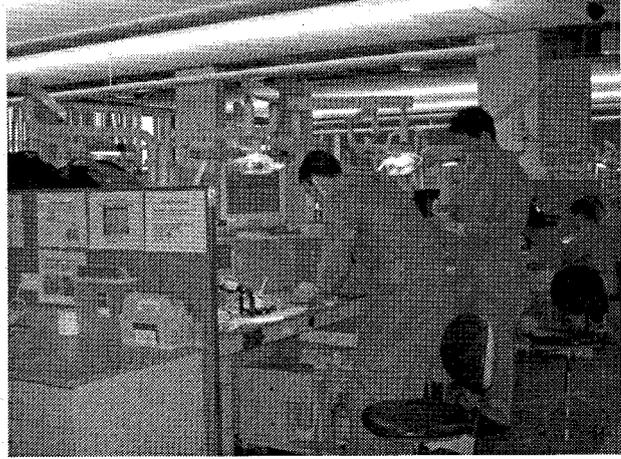
PBL-tutorialの行われる小部屋



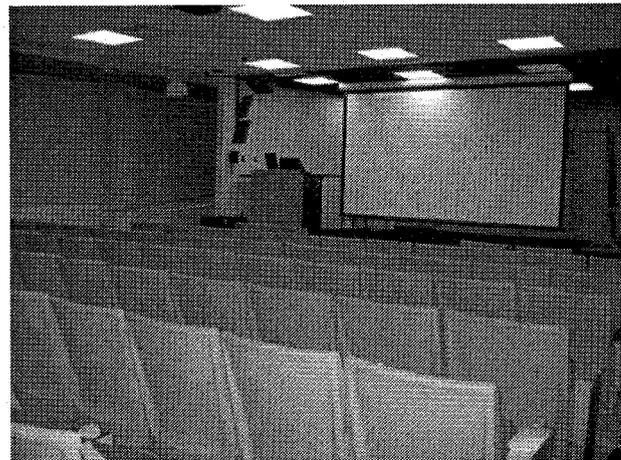
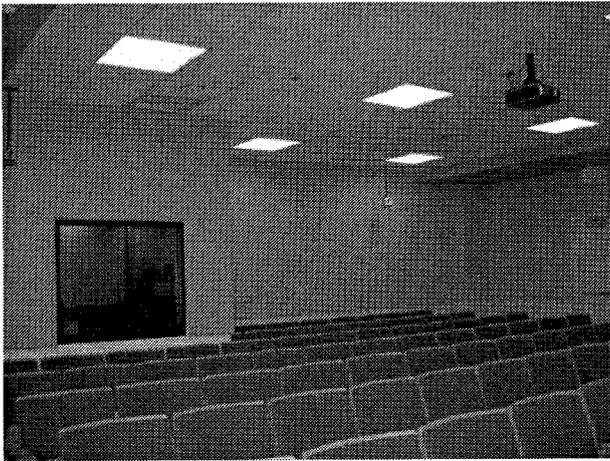
PBL-tutorialのファシリテーター研修会の案内



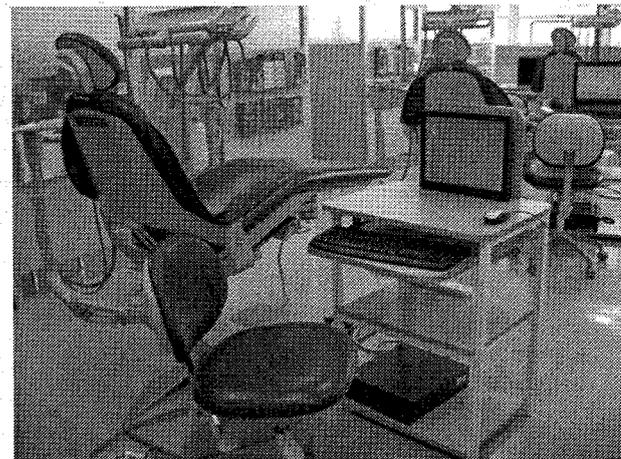
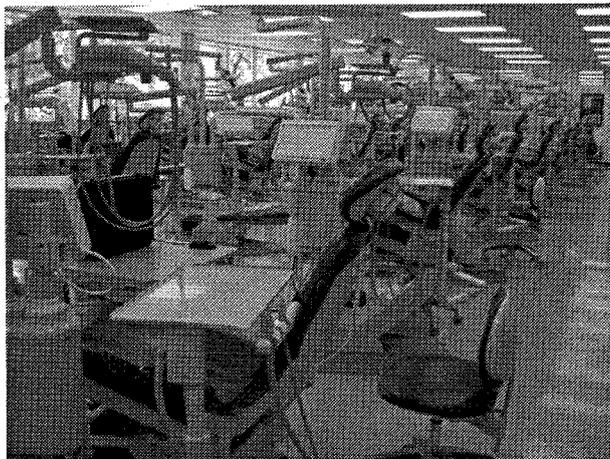
臨床実習責任者の部屋の壁には
学生の実習状況を示す表が貼られている



臨床の基礎実習室(150人が同時に実習できる)



比較的数は少ない大講義室(演者を追いかけて撮影するカメラで授業を録画できる)



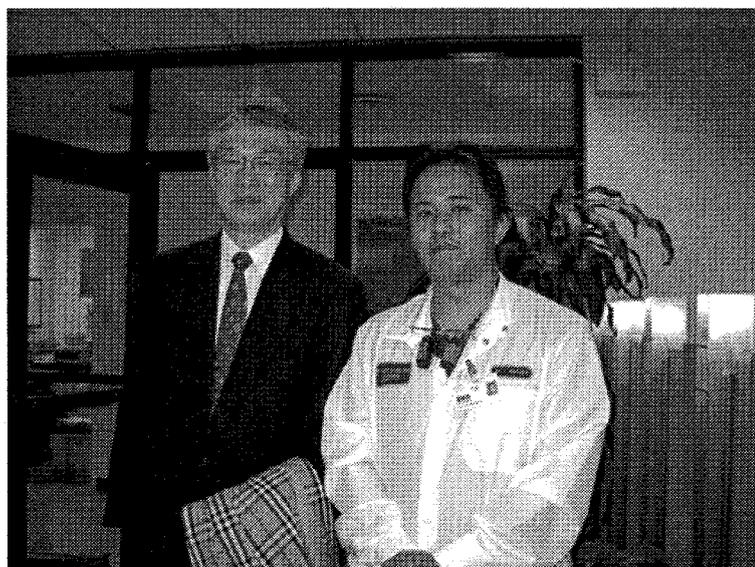
歯科衛生士課程の学生のための臨床実習室



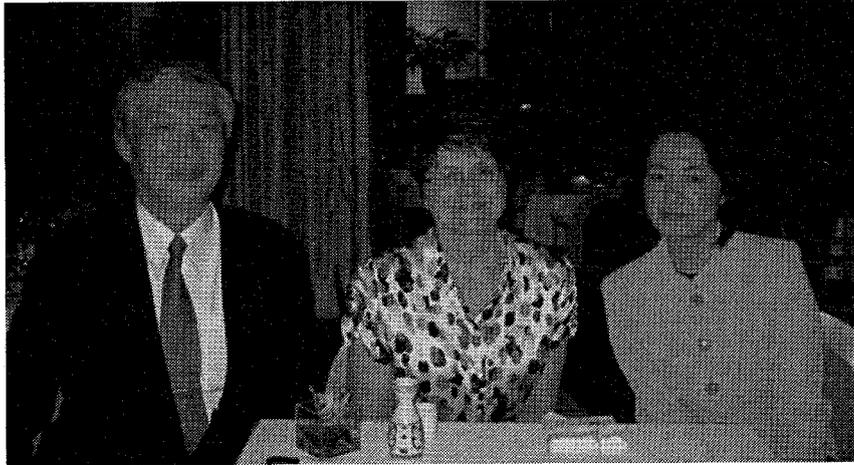
歯学部長代行のProf. Abelson (左から2番目)



国際交流担当副学部長、IDP担当のProf. Sekiguchi (中央)



歯内療法学卒後プログラム指導医の清水藤太先生(右)



CODA卒前歯学教育プログラム担当のDr. Lewis (中央)

平成20年度文部科学省大学評価研究委託事業
「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
海外調査（連合王国）

調査報告者

東京医科歯科大学

MD センター 荒木孝二

歯科医療行動学分野 俣木志朗

歯学教育開発学分野 鶴田 潤

1. 連合王国について

連合王国（以下、英国）については、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4つの地域からなり、地方行政制度も異なる。それぞれの地域を合わせて連合王国を構成し、国土は、24.3万km²（日本の約3分の2）、人口は6097万人（2007）と日本の約半数である。

2. 英国の歯科事情

英国においては、医療制度は、National Health Service (NHS) として、国民に提供されている。歯科治療については、NHSによる治療、私費による治療が存在しているが、NHSによる治療を行う歯科医師数の不足等の問題があり、労働力計算の上では、恒常的な歯科医師不足となっている。また、European Union (EU) 加盟国であることから、職の自由移動の枠組みのもと、EU 加盟国の歯科医師が、英国において歯科診療を行うこともできる。また、European Economic Area (EEA) 以外の国からでも、Overseas Registration Examination (ORE) tests を受けることで、歯科関連業種の医籍登録を管轄する General Dental Council (GDC) へ、英国内歯科医師と同様に歯科医籍登録をすることができる。このため、英国歯科医師に関わる現在の労働力計算については、非常に難しい状態となっている。

3. 英国の歯学教育制度および歯科医師免許制度の概要

英国の歯学教育制度については、歯科医師養成については、3年制、4年制、5年制の歯学部での教育となる。2006年までは、歯学部教育13校、卒後歯学教育のみ実施2校という状況であったが、2007年10月には、40年ぶりとなる新設校 Peninsula Dental School が開設され、また、2008年9月には、Aberdeen に新たな歯学部が設置され、総数は歯学部教育15校（17校）となっている。2008年の入学者総数は1063名であり、

女性の割合は 52%となっている。この背景より、英国の歯学教育については、新たなステージを迎えたと考えられる。新たに設置された Peninsula Dental School については、Bachelor of Dental Surgery (BDS) を取得するコースであるが、4年制の Graduate school であり、これまでの5年制の教育機関とは異なる。また、Exeter 大学と Plymouth 大学のパートナーシップで運営される学部であり、特に1年次より臨床教育が開始されるというように、他の歯学部とはことなり、臨床教育に主眼をおく歯学部となっている。病院についても、大学併設の NHS 病院における治療というよりは、地域における NHS 関連病院での治療を行うことを中心としており、新たな設置形態となっている。また、既存の歯学部についても、Graduate Entry BDS コースが設置されている。卒後研修については、NHS 機関で働く場合には、一年間の Vocational Training (VT) を修了していることが必要である。

<卒前歯学教育機関 (2009年3月現在) >

1. Institute of Dentistry, Barts and the London School of Medicine and Dentistry, Queen Mary
2. The School of Dentistry, University of Birmingham
3. Bristol Dental School, University of Bristol
4. School of Dentistry, Cardiff University
5. Dundee Dental School, University of Dundee
6. Glasgow Dental Hospital and School, University of Glasgow
7. King's College London Dental Institute at Guy's, King's College and St Thomas' Hospitals
8. Leeds Dental Institute, University of Leeds
9. School of Dentistry, University of Liverpool
10. School of Dentistry, University of Manchester
11. The School of Dental Sciences, University of Newcastle upon Tyne
12. Peninsula Dental School, Peninsula College of Medicine and Dentistry
13. School of Medicine, Dentistry and Biomedical Sciences, Queen's University of Belfast
14. The School of Clinical Dentistry, University of Sheffield
15. School of Medicine and Dentistry, College of Life Sciences and Medicine, University of Aberdeen

<卒後教育機関>

1. Edinburgh Postgraduate Dental Institute, University of Edinburgh
2. UCL Eastman Dental Institute, University College London

英国においては、歯学部を卒業すると、Bachelor of Dental Surgery (BDS) の学位を得ることができ、卒業した後、General Dental Council (GDC) へ登録することで、歯

科医業を行うことができるようになる。なお、GDC への登録については、歯科医師、歯科助手、歯科技工士、歯科衛生士、歯科セラピスト、臨床歯科技工士、歯科矯正セラピストの全ての職種が登録をすることが義務となっている。GDC については、「患者（の権利）の保護」を最優先の目的としていることから、Standards for Dental Professionals という歯科関係者へのガイドラインや、歯学部教育については、the First Five Years (TFFY)、Developing the Dental Team という教育ガイドラインを設定している。歯学部については、これらガイドラインに沿ったカリキュラムによって、学生教育を行うこととなっている。卒業後なる試験を受けることなく、GDC に登録することだけで、歯科医師として働くことができることから、GDC は、各々の歯学部の教育内容を確認するために、歯学部への訪問調査を行っている。

<General Dental Council (GDC) について>

General Dental Council (GDC) は非政府機関であり、会員の登録料によって運営されている団体である。患者保護、歯科専門職の質の向上、健康関係法規の最先端の担い手であることを掲げ、歯科専門職の登録、歯科医業、倫理の基準維持、歯学教育の質の保証、歯科専門職の質の維持、歯科治療に関わる医事問題の患者サポート、患者保護の強化を目的としている。

<教育プログラムの評価認証について>

General Dental Council (GDC) による訪問調査について

歯学教育の水準を公衆に対して保証するために、GDC は、英国国内の BDS (BChD) プログラムについて、6年毎の訪問調査を行っている。1993年以降、訪問調査の形式は変化してきたが、直近の調査であった2003-2005年においては、訪問調査と同時に、その歯学部の最終試験への立ち会いも行っている。このフェーズにおける訪問者は、21名であり、20名については、2003年にGDCの教育委員会に指名された。内訳としては、4名が非専門家、12名が歯科教育職、4名が歯科医師であり、71名の応募者の中より選ばれた。1名については、歯科関係職であり、2004年に教育委員会によって別に指名された。これらの訪問者は、2日間に渡るトレーニングを受けている。各大学への訪問に際しては、5名（歯科教育職3名（異なる分野）、歯科医師1名、非専門家1名）が一組となり、基本として3日間の訪問を行う。訪問を行う前には、各大学へ、自己評価書類、訪問の予定等が含まれた書類を送付し、自己評価書類については、記入された後、訪問チームへ送られて精査された後、訪問の詳細を決定するという手続きを行う。加えて事前に、前回のGDCによる訪問調査の記録が、訪問者、大学の両者へ渡される。

訪問調査にあたり、訪問者は、TFFY を参考としながら、自己評価書類および大学が用意した他書類を参考として、報告を行う。最終試験への立ち会いについては、訪問調査グループの役割とは異なり、2名の訪問者が最終試験に立ち会うこととなる。役割としては、立ち会うことを目的とし、試験そのものへの関与は行わず、大学側より得られる情報により、教員の役割、責任について理解を行うこととなる。訪問調査後、調査報告書については、GDC のスタッフ、訪問者の協力のもと、TFFY の内容に準じて、GDC によってまとめられる。最終試験の報告については、訪問調査チームの協力のもと、2名の担当者によって作成される。これらの報告書は、最終的に、大学、歯学部、NHS への勧告としてまとめられ、報告書がまとめられた後は、大学に、訂正箇所がないかを確認し、その後、大学責任者（学長等）へ送付され、歯学部についてのコメントを行うこととなる。また、大学は、NHS に対しての連絡を行うこととなる。訪問を行った担当者は、これらの大学、歯学部の対応を判断し、その BDS プログラムが、患者保護の観点において、the Dentist Act 1984 で用いられている「Sufficient」にあたるかどうかを判断することとなり、その結果が、最終判断のために、GDC 教育委員会へ送られる。

訪問調査における調査項目については、次の項目が含まれている。

- ・ 教員に関わる事項：教員数、教育内容、図書館、IT 環境、教室設備、チーム医療教育
- ・ 臨床環境に関わる事項：歯科病院設備、歯科助手のサポート体制、NHS スタッフによる教育、患者数、感染対策、学外研修
- ・ 運営・予算管理についての事項：大学および歯学部運営状態、大学および NHS 運営状態
- ・ 授業科目や学習結果に関わる事項：臨床能力／技術、教育方法、患者診査、患者管理、コミュニケーション、データ情報管理能力、基礎／臨床科学への理解、適切な態度および倫理規範の獲得、意思決定プロセス、専門職研修、個人研修
- ・ 学生サポートに関わる事項：学生サポート体制、学生数増加への対応、卒業率、退学者について、卒後研修への橋渡し
- ・ 質の保証と基準に関わる事項：大学組織の内部評価、外部評価者報告書、カリキュラム変更、学生記録、患者からの意見、教員研修等の項目

最終試験立ち会い調査における調査項目としては、学生による患者治療手続き、In-course assessment の妥当性、診断、治療計画立案能力、臨床手技、筆記試験、口頭試問、評価方法、外部評価者の役割、最終試験の実施時期などが、項目として含まれる。

<Quality Assurance Agency (QAA) による評価>

Quality Assurance Agency (QAA) は、1997年に設置された英国の高等教育機関についての評価機関である。日本で言うと、大学評価・学位授与機構と同様の役割を果たす機関である。

(大学評価・学位授与機構 HP より引用)

『英国における高等教育資格の適正な水準に関する公共の利益の保護、及び高等教育の質の管理に対する継続的な改善の促進を目的として、1997年に設立された非政府機関です。イングランドの大学等を対象とした機関別監査をはじめ、英国全土で高等教育の評価活動を実施するほか、高等教育資格に関する情報提供、教育の水準と質の管理に関する優れた取組みの普及、国際連携活動などを積極的に展開しています。』

歯学教育についても、所属大学を通してのQAAからの評価が行われている。資料として、QAAによる歯学部教育についてのベンチマーク、および評価報告書を添付する。(資料2) 以上のように、歯学教育プログラムに関しての評価認証については、TFFYによるGDCの評価、ベンチマークによるQAAの評価が行われている。

<今後の展望>

GDCは、2004年に、The First Five Years (2nd Edition) を刊行し、その内容に基づき、各大学はカリキュラム編成を行ってきた。このTFFY (2nd Edition) は、2010年まで有効であることから、次世代3rd Editionが現在作成されているところである。このTFFY (3rd Edition (Interim)) (資料2) については、主に、2nd Editionまで中心的に扱われてきた歯学教育カリキュラム内で扱われるべき特定の課題や科目についての詳細な項目やどのように教えられるのか、という内容から、新規に歯科医師として認められるために必要となる Learning Outcome (学習成果：歯科医籍登録するにあたり必要な知識、技術、態度) について、より重点を置く方向へ内容を転換するということがある。また、教育の評価認証についても、新たな方法 (Risk-based quality assurance) を設定し、どのように得られた学習成果が評価されたかということに焦点を当てていく、ということである。これは、従来の歯学部併設の病院があるような形式にとらわれないカリキュラムの構築を可能にするものとなる。また、特徴的と思われるものは、「Student Fitness to practice」という項目立てが認められ、プロフェッショナリズムの習得を非常に重要視しており、学生時代における素行振る舞いが、GDCへの歯科医籍登録に影響を及ぼすことになるという。教育のプロセスをガイドラインに示し、その評価を行ってきた従来とは異なり、このように、教育プログラムを経た結果、どのような卒業生となったか、とうことを重要視するという事になる。GDCが目指す卒業時のレベルは、ま

さに「Safe Beginner」ということであろう。GDC は、学位そのものというよりも、その卒業生が登録に値しているかどうか、という点を重要視していることとなる。また、これまでの訪問調査の方法についても、自己評価書類の作成や、訪問作業の必要性など、実施する側、受ける側双方にとって負担があったことから、「Light touch」で、「risk-based」である評価システムを構築していきたいということであった。評価内容として、学習成果、歯科チームとしての教育、コミュニケーションスキル、そして、倫理、プロフェッショナリズムを含み、そして、内部評価システムや Student fitness to practice の実施も含まれるということである。

4. King' s College London, Dental Institute (KCLDI) について

King' s College London, Dental Institute (KCLDI) については、ロンドン南東部に位置しており、途中改編を経て 175 周年を迎えた歴史ある歯学部である。英国内歯学系研究施設としては、最大級の大学院組織、研究室を持つ大学である。Guy' s campus と Denmark hill campus の 2 つのキャンパス、病院を持つ。歯学部教育としては、歯科医師養成のプログラムとして、5 年制コース、4 年制コース、3 年制コースの 3 つのプログラムを持つ。いずれのコースも Bachelor of Dental Surgery (BDS) を取得することとなる。5 年制については高校卒業後、4 年制については Graduate Entry system、3 年制については医学部卒業（医師医籍登録済）の学生が対象となる。4 年制、3 年制ともに 5 年制プログラムの 1 年目、2 年目が免除される。定員は、5 年制が 128 名、4 年制が 30 名、3 年制が 7 名となっており、総数は 901 名である。スタッフ数は、226 名である。2008 年には、4 年制プログラムが GDC によって評価認証されている。

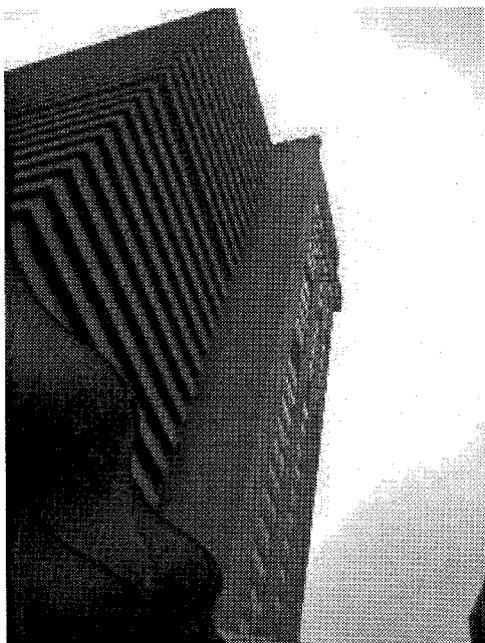
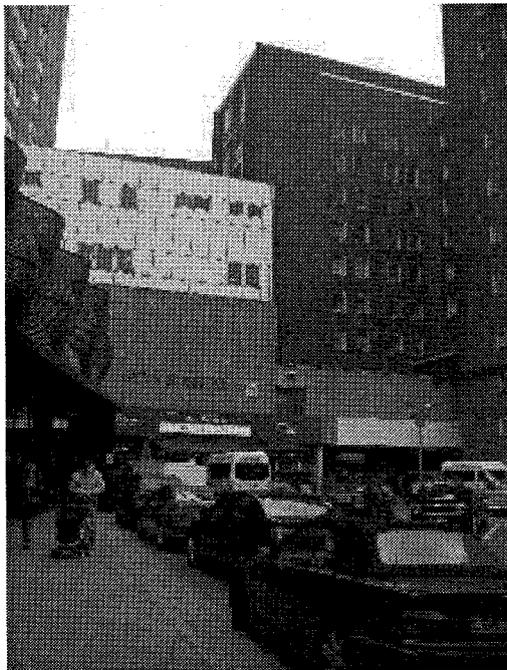
入試制度については、5 年制コースにおいて、英国民については、A/AS-level において、3 A level & 1 AS level の場合は AAB/B、2 A level / 3 AS level の場合は、AA/BBB であり、化学と生物において、少なくとも A level を取っていることが必要である。EU 加盟国民 / 北米大陸 / オーストラリア / 中国については、リストに準ずることとなっている。また、UCAS を通しての申請以外に、学外活動、勤務経験、ボランティア活動経験などの評価、また、UKCAT (The UK Clinical Aptitude test) の得点、面接、自己申請書の審査をもって入学選抜を行う。4、3 年制コースについては、基本的には、5 年制コースの選抜方法に従うこととなっている。

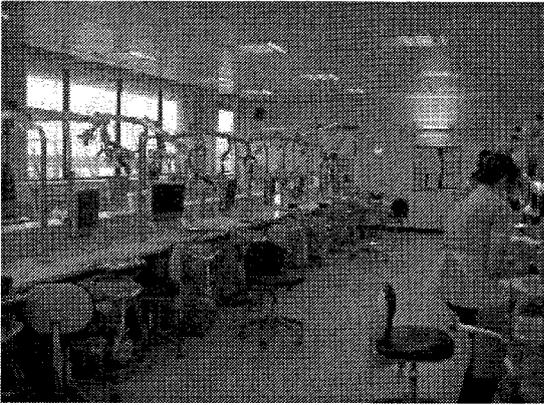
コース概要は、5 年制コースにおいて、1 年目は主に生物医学系の授業および歯科医療関連のテーマについての授業を行う。分子生物学や歯科に関わる人体機能学などが含まれる。基本として、歯科医療、臨床を意識しながら基礎医学を中心に学習を進める。また、コミュニケーションスキルや倫理についても、専門職教育として実施される。2

年目については、基本的な臨床手技教育を主に扱うこととなる。患者治療も開始され、1学期には軽度歯周病の治療、2学期には修復治療を患者に施すこととなる。同時に、頭頸部解剖学、口腔生物学、神経生理学、病理学、微生物学、一般医学についての授業が行われる。3年目については、1年を通して疾病についての学習を進め、特に、固定性義歯および有床義歯の授業を受け、それらの製作方法等を学ぶ。また、治療においては、保存修復治療と補綴治療を進め、口腔外科治療の簡単な症例、抜歯などを行うこととなる。4年目については、主に、患者治療に時間を費やすこととなる。修復治療を継続するとともに、小児／矯正歯科やインプラント治療の導入などを行うこととなる。Denmark Hill Hospital においても、成人治療を行うこととなり、Guy's Hospital とは異なる環境での治療を、5年まで継続することとなる。5年目については、成人、小児に対しての包括的診療を継続する。診療を継続する中、歯科助手や歯科衛生士などのスタッフとのチーム医療を実施し、経験を積むこととなる。最終学年として、卒後進路へのスムーズな移行が可能となるようカリキュラムは組まれている。4年制、3年制コースは、5年制コースに準じている。

試験方法については、BDS 試験 1 では、Spot 形式 (12%)、SBA (Single Best Answer Questions) 形式および EMQs (Extended-Matching Questions) 形式 (24%)、Essay 形式 (24%) また、In-course assessment として 40% 分の評価がなされる。BDS 試験 2 では Spot 形式 (12%)、SBA 形式および EMQs 形式 (24%)、Essay 形式 (24%) であり、In-course assessment として MCQs (Multiple Choice Questions) 形式、臨床手技試験、プロジェクト提出がある。BDS 試験 3、4 では、SBA 形式、EMQs 形式、MCQs 形式と臨床試験が行われ、In-course assessment として筆記試験が行われる。最終 BDS 試験においては、筆記試験、オンライン試験、そして、臨床試験が行われる。学生は最終試験までに、終了すべきケース、試験などの要件を全て終了していることが必要である。

(King' s College London, Dental Institute 施設写真)





<参考>

- 外務省 HP : <http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/uk/index.html>
- Manual of Dental Practice 2008, Council of European Dentists
- General Dental Council HP : <http://www.gdc-uk.org/>
- The First Five Years -Second Edition
- The First Five Years -Third Edition (INTERIUM) 2008
- General Report of the Visitors on the 2003-05 Visitation Programme
- Quality Assurance Agency Subject benchmark statements, Dentistry
<http://www.qaa.ac.uk/academicinfrastructure/benchmark/honours/Dentistry.pdf>
- King' s College London Dental Institute HP :
<http://www.kcl.ac.uk/schools/dentistry/>
- Dental Institute at Guy' s , King' s College & St Thomas' Hospitals, King' s College London, BDS Programme Information Year1, 2, 3, 4, 5, 2008/2009 Student Handbook

<協力者>

King' s College London, Dental Institute

- Nairn Wilson, Dean
- Stephen Challacombe, Director of External Strategy
- Mark Woolford, Director of Education
- Patricia Reynolds, Director, Centre of Flexible Learning in Dentistry
- David Radford, Deputy Director, Postgraduate Education
- Brian Millar, Director of Distance Learning
- Richard Foxtton

General Dental Council

- Paul Feeney, Head of Quality Assurance
- Pravat Bhattacharyya, QA Operations Manager

平成20年度文部科学省大学評価研究委託事業
「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
海外調査（タイ王国）

調査報告者

東京医科歯科大学名誉教授 江藤 一洋

1. タイの歯科医療事情について

タイ王国（以下、タイ）は、その面積は51万4000平方kmで日本の約1.4倍であり、人口は、6304万人（2007年）と、我が国の約半数である。タイの歯科医師数は、バンコク4315名、中央部1410名、南部710名、北部1001名、北西部1007名、であり、総数は8443名である。対人口比にすると、歯科医師1名あたり7340名となり、歯科医師不足の状態である。病院数については、保健省管轄の公立病院が875施設、その他の省の管轄の公立病院が57施設、私立病院が383施設、診療所が1183施設となっている。タイにおける免許管轄は、Thai Dental Council、Committees appointed from Thai Dental Council となっている。卒後教育としては、生涯教育制度が各大学により運営されている。また、各大学において、修士、博士のプログラムもある。レジデントプログラムは、Thai Dental Council の管轄により実施されている。制度-機関としてまとめると、歯科免許制度については、Thai Dental Council、生涯教育については、Thai Dental Association of Thailand、歯学教育については、Dental Faculty Consortium of Thailand が管理団体となる。歯科医療に関わる重要な法規としては、the Laws of the Dental Professional Acts B. E. 2537 があり、全ての歯科医師はこれに従うこととなっている。歯科保健医療に関わる質の保証については、その制度として、病院認証制度が公立、私立病院とも含まれたものがある。また、生涯研修センターや私立診療所については、the Law of Health Service Facility Act B. E. 2541 に従っている。現在の歯科医療従事者の労働力計画については、歯科医師の育成（歯科医師不足）、歯科医師の適正配置、歯科関係職の育成（歯科助手など）が、あげられている。

2. タイの歯学教育について

タイの歯学教育についての管理団体は、Thai Dental Council、The Dental Association of Thailand、Dental Faculty Consortium of Thailand である。各大学に共通のカリキュラム骨子としては、General Education Course、Professional Course (Biomedical Sciences、Dental Sciences)、Free Elective Course がある。歯学部については、2009年現在、公立8校、私立1校の9校となっている。歯科技工士養成校は、公立1校、歯科助手養成校は公立2校で、デンタルセラピスト、歯科衛生士養成校はない。歯学部への入学者は毎年約800名である。

3. チュラロンコン大学歯学部の概要

チュラロンコン大学歯学部については、1940年に開設された歯学部であり、学部の役割として、「社会の要求を満たす国際的な知識、技術を有する卒業生の輩出、社会に対しての責任を果たす専門家としてのリーダーシップ養成、国家のため、高レベル研究による学術的革新、社会進展、機会提供のため貢献、学術交流の促進、国際関係、知識交流のためのアカデミックセンターとしての役割、文化、芸術の維持／促進」を掲げている。

4. チュラロンコン大学歯学部の歯学教育について

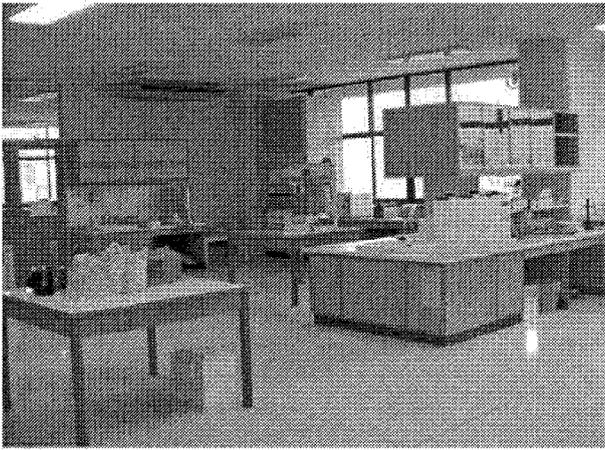
一学年数は140名、6つの大講義室、40の中講義室、20のセミナールーム、200～300名収容の講堂がある。解剖系実習室は2つ、生理学実習室が1つ、生化学・薬理学実習室が1つ、微生物学・病理実習室が1つである。臨床前実習室は2つ、臨床実習室は、メインクリニックとして4つの診療室、混合診療室として6つの診療室がある

チュラロンコン大学歯学部への入学者数は、約140名である。6年制教育であることから、合計840名の学部生となる。男女比については、女性が男性の約2倍である。教員については、常勤教職員は約180名、非常勤教職員は約200名である。病院臨床実習については、2006年までの旧カリキュラムでは、2年半で1600時間、2007年からの新カリキュラムでは3年間1800時間である。病院実習については、4年生～6年生で、歯学部附属病院、6年生でバンコク市内関連病院（病院歯科）、郊外関連病院（コミュニティーデンティストリー）で、各実習を行う。病院臨床実習については2つの制度があり、メインクリニック（保存修復、歯周病、補綴、咬合）、混合診療室（口腔診断、放射線、外科、矯正、小児歯科、コミュニティーデンティストリー）となっている。学生患者数はまちまちであるが、外来により、1名～20名である。教員／学生比は、メインクリニックで、1／6、混合診療室で、1／6～1／10である。治療費用については、学部生による治療が、スタッフ治療の約5分の1となっている。学部における試験制度については、筆記試験、実技試験、OSCEs、Project Based Examination、Community Based Examinationを実施している。シミュレーション教育については、E-learningシステムの導入、コンピューター補助教育を実施している。大学における教育の質の保証システムは、外部評価者の導入、毎年報告書の作成、大学Quality Assurance制度の実施がある。第三者の評価としては、The Office for National Education Standards and Quality Assessment、Office for the Higher Education Commissionが、その実施機関としてある。

参考：

外務省 HP

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/THAILAND/index.html>



平成 20 年度文部科学省大学評価研究委託事業
「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
海外調査（中国）

調査報告者
東京医科歯科大学名誉教授
江 藤 一 洋

1. はじめに

2009年3月2日、北京大学口腔医学院を訪問した。この2週間前にアポイントを入れた折、東京医科歯科大学の補綴学教室に留学経験のある姜教授から、きわめてタイミングが悪い、数日前に突然北京大学本部から現院長は交代を命じられており、3月2日は院長交代の当日である旨伝えられた。しかしすでにスケジュールを組んであるので、ともかく愈教授のアポイントを取ってもらうことにした。そのような事情にもかかわらず古くからの友人である愈教授は、他をキャンセルして時間を作り、院長室ではなく中華口腔医学会の応接室で会って頂いた。しかも1時間という限られた時間であったために、十分な情報が取れなかったことはやむを得ないことであった。

中国の人口は約13億で歯科医師数は約60,000人、この中には正式の免許を取得していない者も含まれているといわれている。歯科医師1名対人口比は22,000人である。王興中華口腔医学会の講演記録でみると、う蝕罹患率は5才児乳歯66%、12才児永久歯28.9%、成人（35～44才）88.1%、高齢者（65～74才）98.4%となっている。

中国政府は近年の経済成長に伴って、口腔疾患の増加と受診率の上昇が見込まれることから、2004年にはそれまで36校であった歯学部を86校に増設している。この時病院付置の口腔医院でも歯科医師養成ができる措置を講じて、その数を入れるとおよそ123校（正確な数字は発表されていない）といわれている。

2. 訪問先（北京大学口腔医学院）における調査

北京大学口腔医学院は口腔医学院、口腔医院（附属病院）、口腔医学研究所からなっている。教職員数820名、教授・準教授139名、講師120名、助教79名である。口腔医院は310台のデンタルユニット、115のベッドを有しており、1日2,300名の外来患者となっている。関連病院は3病院あり学生実習をここでも行う。

口腔医学院の学生数は1学年50名、男女比はほぼ2:1の割合である。8年制で学生は最初4年間は医学院で医学院の学生と共に医学を勉強する。4年目は医学院の医院で実習を行い、5年目から口腔医学院にくることになる。5年は口腔医学の座学、6年は患者実習で、7～8年の2年間は各教室に配属されて博士論文の作成を行う。この場合修士号の取得なしに博士号が申請できる仕組みとなっている。また博士号の審査は他大学からの教授を入れて行われる。6年

で行われる患者実習は1年間のみで、約50週、年間延べ1,000名の患者を治療することが課せられている。学生治療の治療費は通常料金の50%となっている。臨床実習終了時にOSCE方式の試験が行われる。8年終了後に国家試験を受ける。他の5年制の大学では1年間の患者実習を終えてから国家試験を受験することが課せられている。8年制にしたのは人文科学の科目が5年制では少なすぎるという理由である。2001年から始めたこの制度で問題なのは、5年制卒業者に比べて就職が困難な点であるという。しかし優秀な学生が入学してくるという点では、現在北京大学の中でトップクラスにランクされているといわれている。今回の調査では、医学の素養を身につけるといって、この8年制については大変興味のあるところであったが、やっとな卒業者が出てきた現時点では評価をするのはいささか早いと思われる。

歯科医学教育における質の保証に関する制度については、新設の口腔医学院の増加に伴い、国家試験の合格率が約50%という現状を考慮して、教育部（日本の文部科学省）が各大学の自己評価報告に基づいて訪問調査をかなり厳しく実施している。

5. 事業報告

(4) 公開シンポジウム

シンポジウム：「歯科医学教育のさらなる発展—2025年の歯科医師像」

日時：平成21年3月19日（木）13：00—17：00

場所：東京医科歯科大学歯学部特別講堂（外来事務棟4階）

プログラム

13：00 開会にあたって

荒木孝二（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター副センター長）

13：05

来賓挨拶 樋口 聰（文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐）

座長 森尾郁子（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

13：10

江藤 一洋（日本歯科医学会会長）

「文部科学省（歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議）の中間報告について」

13：30

田上順次（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

「長寿社会の歯科保存学」

13：55

神原正樹（大阪歯科大学教授）

「疫学データからみた2025年の口腔保健環境」

14：20

栗原英見（広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授）

「基礎歯学と臨床歯学を繋ぐ口腔検査学」

14：55 休憩

座長 俣木志朗（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

15：05

佐々木啓一（東北大学大学院歯学研究科教授）

「長寿社会の口腔再建医療」

15：30

菊谷 武（日本歯科大学 准教授）

「歯科は生活に会えるか？ —超高齢社会に対応して—」

15：55

荒木孝二（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター副センター長）

「歯学教育の質の保証と向上のために—国内外歯科大学調査結果より」

16：20

パネルディスカッション

16：55

閉会にあたって

奈良信雄（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長）

平成20年度文部科学省「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」公開シンポジウム

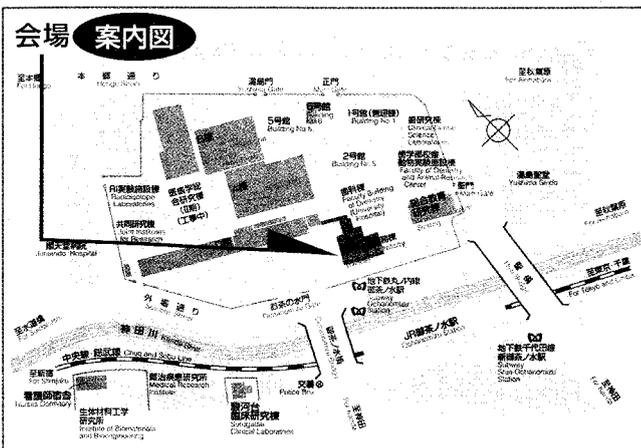
歯科医学教育のさらなる発展 —2025年の歯科医師像—

開催日時：平成21年3月19日(木) 13:00~17:00
会場：東京医科歯科大学歯学部特別講堂(外来事務棟4階)

PROGRAM

- 13:00 開会にあたって
荒木孝二 (東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター副センター長)
- 13:05 来賓挨拶
樋口 聰 (文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐)
- 13:10 文部科学省(歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議)の中間報告について
江藤一洋 (日本歯科医学会会長)
- 13:30 長寿社会の歯科保存学
田上順次 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)
- 13:55 疫学データからみた2025年の口腔保健環境
神原正樹 (大阪歯科大学教授)
- 14:20 基礎歯学と臨床歯学を繋ぐ口腔検査学
栗原英見 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授)
- 14:55 休憩
- 15:05 長寿社会の口腔再建医療
佐々木啓一 (東北大学大学院歯学研究科教授)
- 15:30 歯科は生活に出会えるか? —超高齢社会に対応して—
菊谷 武 (日本歯科大学准教授)
- 15:55 歯学教育の質の保証と向上のために —国内外歯科大学調査結果より—
荒木孝二 (東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター副センター長)
- 16:20 パネルディスカッション
- 16:55 閉会に当たって
奈良信雄 (東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長)

主催：東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター
後援：日本歯科医学教育学会・日本歯科医学会



聴講対象：参加自由(無料) — 139 —



連絡先
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45
国立大学法人 東京医科歯科大学
医歯学教育システム研究センター
電話 03-5803-4577

■ JR中央・総武線
御茶ノ水駅下車 徒歩5分
■ 地下鉄丸ノ内線
御茶ノ水駅下車 徒歩2分
■ 地下鉄千代田線
新御茶ノ水駅下車 徒歩10分

6. 総括

本事業で行われた成果をここに報告した。

国内の歯科大学・大学歯学部教育アンケートの集計を見ると、日本の歯学教育の現状が数字としてではあるが、かなり明白となってくる部分がある。今回の回収率は29大学中22大学(76%)で、国公立7大学(12大学中)、私立15大学(17大学中)なので、ほぼ歯科医師養成機関としての大学全体の傾向を示しているといえる。まず驚くのは、修業年限を越えた歯学生が生じる学年と数である。5年次までは過去3年間で平均2・5人であるのに対し6年次、すなわち卒業出来ない学生が平均17・18人生じている。国公立の人数は非常に低いので、私立の平均人数は非常に高くなる。過去3年間の合計数の9割が6年次という私立大学もあった。理由は様々であろうが、一番は間違いなく歯科医師国家試験の合格率が全国的に低下してきていることであろう。また、診療参加型臨床実習はほとんどの大学で実施しているとの回答であるが、モデル・コア・カリキュラムの臨床実習に関する水準1～4までの達成率は私立大学の方が全体的にかなり低い。特に水準1で平均75%、水準2ではやく40%の達成率しかない。国公立系は水準1, 2とも90%以上である。私立大学で水準1の全てをやれないのかは不明であるが、真の意味での診療参加型臨床実習を実施しているのか疑問を持たざるを得ない。そのような大学は歯科医師の養成機関としては問題があると思われる。

今回視察に訪れた国、特に欧米では歯科大学における歯学教育の第三者認証制度がきちんと構築されていた。詳細は各報告書を参考にしてもらうが、この認証制度が質の高い歯科医師養成の保証と向上を確保していることは間違いがない。我が国でも歯学教育の質の保証と向上のための方策として第三者評価システムを導入することは重要であると思われる。米国のADA/CODAあるいは英国のGDCの認証制度を参考にし評価項目自体を決めることは難しくない。問題は第三者による視察制度の公平な実施体制の構築と、その後の認証結果の取扱である。第三者評価は少なくとも3名以上とし、うち2名は別々の歯科大学に所属している教員とし、他の1名は歯科ではない有識者とするべきである。また、視察時には、大学内の施設を見回るだけでなく学生や教員への面接も行うべきである。認証結果については何らかのインセンティブを与えないとほとんど意味のない報告書となってしまふ恐れがある。ただし、米国のADA/CODAの認証のように、認証されていないと日本の歯科医師国家試験に当たる試験が受験出来ないといったことまでの強い拘束力を与えることは無理であろう。また、診療参加型臨床実習をきちんと実施している大学の卒業生には臨床研修免

除や研修機関の短縮を認めるなどの処置もかなりインパクトがある。しかしこれらの実現には、国としての大学教育の責任を持っている文部科学省と、歯科医師国免許交付と臨床研修の責任を持っている厚生労働省の両者が積極的に関与しなければ全く解決できない領域である。

我が国の卒直後の歯科医師の臨床能力がかなり低下してきているという認識にたつて、今後の歯学教育の改善策を早急に決めて実行に移していかなければ、歯科医師という専門職業としての社会的地位の低下を止めることは不可能である。

歯学教育の質の保証と向上のための改善策としての第三者評価の導入に関して、本事業の成果が役に立てば幸甚である。